

III 調查結果

第1章 母子家庭

第1章 母子家庭

1. 母子家庭の世帯数と子どもの数の動向

(1) 全国の母子家庭の世帯数

ひとり親家庭の調査結果として「平成23年度全国母子世帯等調査（平成23年11月1日現在）」（厚生労働省雇用均等・児童家庭局）にひとり親になった理由別構成比が公表されている。

これによると、母子家庭になった理由では「死別」が7.5%、「生別」が92.5%で、「生別」の中では「離婚」が全体の80.8%を占めている。

昭和53年からの推移をみると、「死別」は一貫して減少、「生別」は増加し続けており、平成23年調査では「生別」の割合が9割を超えている。

図表Ⅲ-1-1 全国の理由別母子家庭の世帯数

		総数	死別	生別			
				計	離婚	未婚の母	その他
構成比（％）	平成23年	100.0	7.5	92.5	80.8	7.8	3.9
	平成18年	100.0	9.7	89.6	79.7	6.7	3.1
	平成15年	100.0	12.0	87.8	79.9	5.8	2.2
	平成10年	100.0	18.7	79.9	68.4	7.3	4.2
	平成5年	100.0	24.6	73.2	64.3	4.7	4.2
	昭和63年	100.0	29.7	70.3	62.3	3.6	4.4
	昭和58年	100.0	36.1	63.9	49.1	5.3	9.5
	昭和53年	100.0	49.9	50.1	37.9	4.8	7.4
世帯数（世帯）	平成23年	-	-	-	-	-	-
	平成18年	-	-	-	-	-	-
	平成15年	1,225,400	147,200	1,076,400	978,500	70,500	27,300
	平成10年	954,900	178,800	763,100	653,600	69,300	40,200
	平成5年	789,900	194,500	578,400	507,600	37,500	33,400
	昭和63年	849,200	252,300	596,900	529,100	30,400	37,300
	昭和58年	718,100	259,300	458,700	352,500	38,300	67,900
	昭和53年	633,700	316,100	317,500	240,100	30,300	47,100
増減数（世帯）	平成23年	-	-	-	-	-	-
	平成18年	-	-	-	-	-	-
	平成15年	270,500	-31,600	313,300	324,900	1,200	-12,900
	平成10年	165,000	-15,700	184,700	146,000	31,800	6,800
	平成5年	-59,300	-57,800	-18,500	-21,500	7,100	-3,900
	昭和63年	131,100	-7,000	138,200	176,600	-7,900	-30,600
	昭和58年	84,400	-56,800	141,200	112,400	8,000	20,800
	昭和53年	-	-	-	-	-	-
増減率（％）	平成23年	-	-	-	-	-	-
	平成18年	-	-	-	-	-	-
	平成15年	28.3	-17.7	41.1	49.7	1.7	-32.1
	平成10年	20.9	-8.1	31.9	28.8	84.8	20.4
	平成5年	-7.0	-22.9	-3.1	-4.1	23.4	-10.5
	昭和63年	18.3	-2.7	30.1	50.1	-20.6	-45.1
	昭和58年	13.3	-18.0	44.5	46.8	26.4	44.2
	昭和53年	-	-	-	-	-	-

注1) 全国母子世帯等調査結果(厚生労働省)。総数は不詳を含む数値。

注2) 平成15年の「その他」の世帯数には「遺棄」「行方不明」を含む。

注3) 構成比は、小数点第2位を四捨五入しているため100%にならない場合がある。

注4) 構成比は平成23年度、世帯数及び増減数は平成15年度までの公表。

(2) 久留米市の母子家庭の世帯数

久留米市の平成28年11月1日現在での母子家庭は3,256世帯と推測される。久留米市の総世帯数(131,794世帯)に占める割合(出現率)は2.47%となっている。

母子家庭になった理由についてみると、「生別」が2,644世帯(92.5%)であるのに対して、「死別」は520世帯(5.6%)となっている。「生別」の内訳は「離婚」が2,338世帯(71.8%)、「その他」が306世帯(9.4%)と離婚の占める割合が高い。

平成23年の前回調査と比較すると、母子家庭の世帯数は682世帯減少し、増減率は-17.3%となっている。母子家庭となった理由では、「離婚」が減少し、「死別」が増加している。

図表Ⅲ-1-2 久留米市の原因別母子家庭の世帯数(推計)

		総数	死別	生別			不明
				計	離婚	その他	
世帯数 (世帯)	平成28年	3,256	520	2,644	2,338	306	92
	平成23年	3,938	449	3,465	3,135	330	24
構成比 (%)	平成28年	100.0	5.6	92.5	71.8	9.4	2.8
	平成23年	100.0	11.4	88.0	79.6	8.4	0.6
出現率 (%)	平成28年	2.47	0.39	2.01	1.77	0.23	0.07
	平成23年	3.21	0.37	2.82	2.55	0.27	0.02
増減数(世帯)		-682	71	-821	-797	-24	68
増減率(%)		-17.3	15.8	-23.7	-25.4	-7.3	283.3

注1) 出現率算定の基礎となる総世帯数は平成28年11月1日現在。

注2) 構成比は、小数点第2位を四捨五入しているため100%にならない場合がある。

(3) 子どもの数

母子家庭の20歳未満の子どもの数は4,251人と推測される。その構成をみると「義務教育終了後の子ども」が56.9%で最も多く、「中学生」(21.2%)、小学生(18.7%)、未就学児(3.2%)の順で多くなっている。

母子家庭における子どもの年齢階層別の出現率は「義務教育終了後の子ども」が20.67%と最も多く、次いで「中学生」(10.28%)、「小学生」(4.70%)、「未就学児」(0.71%)となっている。

図表Ⅲ-1-3 久留米市母子家庭の子どもの数、構成比及び出現率(推計)

		総数	未就学児	小学生		中学生	義務教育 終了後の 子ども
				小学 1～3年生	小学 4～6年生		
人員 (人)	平成28年	4,251	137	795		902	2,417
	平成23年	8,073	864	1,311	1,638	1,877	2,383
構成比 (%)	平成28年	100.0	3.2	18.7		21.2	56.9
	平成23年	100.0	10.7	16.2	20.3	23.3	29.5
出現率 (%)	平成28年	7.50	0.71	4.70		10.28	20.67
	平成23年	18.79	23.83	15.40	18.21	20.13	19.07

注1) 出現率算定の基礎となる児童・生徒数は、平成28年5月1日現在(県教育委員会)

注2) 児童・生徒数以外の子ども数は、平成28年5月1日現在の推計人口(県調査統計課)

注3) 構成比は、小数点第2位を四捨五入しているため100%にならない場合がある。

2. 世帯の状況

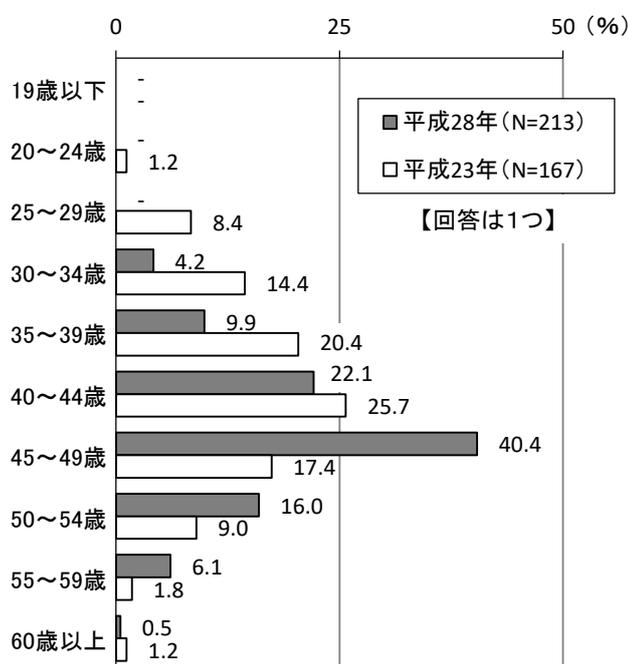
(1) 母親の年齢

問1 あなたの年齢は、次の中のどれにあてはまりますか。(○印は1つ)

母子家庭の母親の年齢は、「45～49歳」が40.4%で最も高く、「40～44歳」が22.1%、「50～54歳」が16.0%と続いている。前回調査に比べ、45歳以上の割合が高くなっている。

母子家庭になった理由別でみると、離婚の人では40歳代の割合が、死別の人では45歳以上の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-4 母親の年齢



図表Ⅲ-1-5 母親の年齢

		標本数	19歳以下	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳以上	無回答
全体		213 100.0	-	-	-	9 4.2	21 9.9	47 22.1	86 40.4	34 16.0	13 6.1	1 0.5	2 0.9
時系列	平成23年	167	-	1.2	8.4	14.4	20.4	25.7	17.4	9.0	1.8	1.2	0.6
理由別	死別	34	-	-	-	-	2.9	5.9	50.0	20.6	17.6	-	2.9
	離婚	153	-	-	-	5.9	11.1	24.8	39.9	13.1	3.9	0.7	0.7
	その他の生別	20	-	-	-	-	10.0	25.0	30.0	30.0	5.0	-	-
	無回答	6	-	-	-	-	16.7	33.3	33.3	16.7	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	0.3	1.7	5.2	14.9	20.4	26.8	19.3	8.8	1.7	0.3	0.5
	北九州市	1,291	0.2	2.5	6.7	12.6	16.8	24.8	22.3	10.6	2.2	0.6	0.5
	福岡市	1,141	0.1	1.9	5.3	10.0	16.5	28.3	22.9	10.3	3.7	0.5	0.5
	父子家庭	86	-	-	-	-	-	11.6	32.6	20.9	20.9	10.5	3.5

(2) 20歳未満の子どもの就学・就労状況

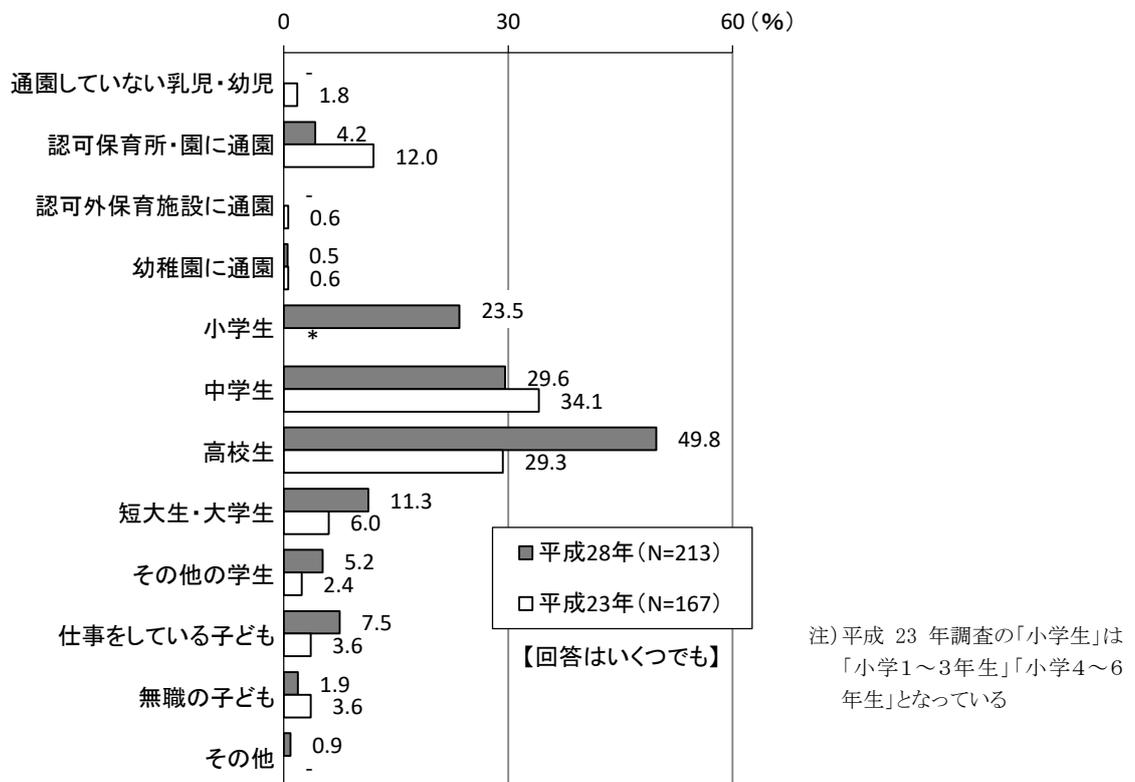
問3-1 あなたのお子さん(20歳未満)の生年月を記入し、就学・就労状況のあてはまる番号1つに○印をつけてください。

※就職、進学などで別居しているお子さんも、20歳未満であれば記入してください。

20歳未満の子どものいる世帯の就学・就労状況は、「高校生」のいる世帯が49.8%、「中学生」のいる世帯が29.6%、「小学生」のいる世帯が23.5%となっており、就学前では「認可保育所・園に通園」の子どものいる世帯は4.5%、「幼稚園に通園」は0.5%である。

前回調査と比べると、母親の年齢層が高くなったためか、子どもの年齢層も全体的に上昇している。

図表Ⅲ-1-6 20歳未満の子どもの就学・就労状況 [複数回答]



図表Ⅲ-1-7 20歳未満の子どもの就学・就労状況 [複数回答]

	標本数	乳通園して いない	に認可 保育所・園	に認可 外 保育施設	幼稚園 に通園	小学生		中学生	高校生	短大生・ 大学生	その 他の 学生	子 ども を し て い る	無 職 の 子 ども	そ の 他	無 回 答	
						3 年 生	4 年 生									
全体	213 100.0	-	9 4.2	-	1 0.5	50 23.5		63 29.6	106 49.8	24 11.3	11 5.2	16 7.5	4 1.9	2 0.9	-	
時系列	平成23年	167	1.8	12.0	0.6	0.6	24.6	29.3	34.1	29.3	6.0	2.4	3.6	3.6	-	1.8
参考	県(三市を除く)	1,512	2.7	17.5	0.7	2.2	41.3		30.2	31.5	3.9	3.4	3.3	1.5	0.5	0.3
	北九州市	1,291	3.3	16.7	0.4	4.0	33.8		29.7	30.9	6.2	4.3	4.0	1.7	0.9	0.1
	福岡市	1,141	3.2	15.8	0.6	2.0	34.6		30.3	31.1	7.0	3.0	4.3	2.2	0.4	0.6
	父子家庭	86	-	2.3	-	2.3	26.7		39.5	50.0	7.0	4.7	5.8	4.7	-	-

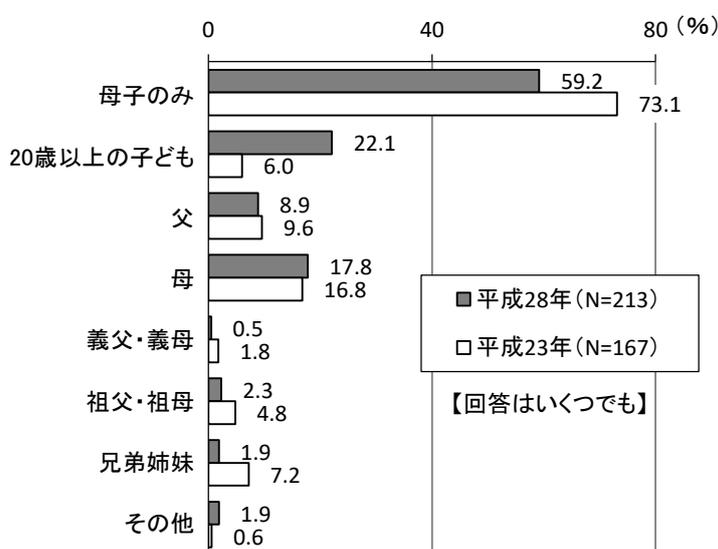
(3) 20歳未満の子ども以外の同居家族

問3 同居の家族はどなたがおられますか。(○印はいくつでも)

20歳未満の子ども以外の同居家族は、「20歳以上の子ども」が22.1%、「母(子どもからは祖母)」が17.8%、「父(子どもからは祖父)」が8.9%となっている。父母との同居の状況は、前回調査から大きな変化はみられない。

「母子のみ(母親と20歳未満の子ども)」の世帯の割合は59.2%と約6割を占めており、前回調査と比べると13.9ポイント減少している。

図表Ⅲ-1-8 20歳未満の子ども以外の同居家族 [複数回答]



図表Ⅲ-1-9 20歳未満の子ども以外の同居家族 [複数回答]

		標本数	母子のみ	20歳以上の子ども	父	母	義父・義母	祖父・祖母	兄弟姉妹	その他	無回答
全体		213	126	47	19	38	1	5	4	4	1
		100.0	59.2	22.1	8.9	17.8	0.5	2.3	1.9	1.9	0.5
時系列	平成23年	167	73.1	6.0	9.6	16.8	1.8	4.8	7.2	0.6	-
理由別	死別	34	55.9	38.2	5.9	11.8	-	2.9	2.9	2.9	-
	離婚	153	60.1	19.6	9.2	18.3	0.7	2.0	2.0	2.0	0.7
	その他の生別	20	55.0	15.0	15.0	30.0	-	-	-	-	-
	無回答	6	66.7	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	64.7	9.3	14.6	24.5	0.1	2.8	5.0	1.5	0.1
	北九州市	1,291	65.1	10.0	13.4	22.1	0.6	2.4	3.7	0.9	0.4
	福岡市	1,141	68.9	10.4	9.3	17.4	0.5	1.7	4.2	1.1	0.5
	父子家庭	86	50.0	14.0	12.8	29.1	1.2	3.5	2.3	1.2	1.2

※父子家庭の母子のみは「父子のみ」の数値

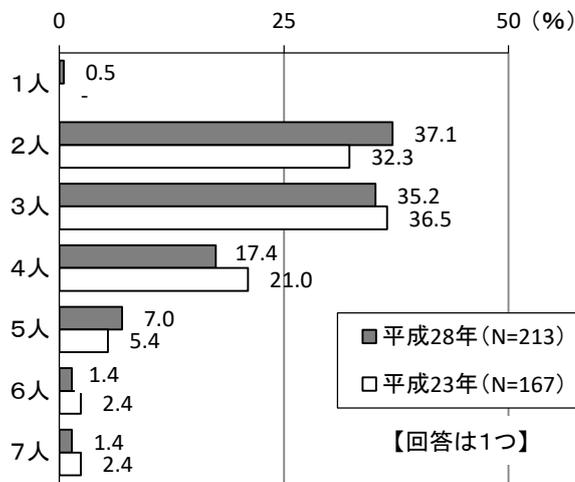
(4) 世帯人員

問2 あなたの世帯の「同居家族数」は、あなたを含め何人ですか。下の に現在の人数をご記入ください。

母子家庭の世帯人員は、「2人」が37.1%で最も高く、次いで「3人」が35.2%となっている。平均世帯人員は3.0人である。

母子のみの世帯についてみると、子どもが1人であることを示す「2人」が62.7%、2人であることを示す「3人」が30.2%で、平均世帯人員は2.5人となっている。

図表Ⅲ－1－10 世帯人員



図表Ⅲ－1－11 世帯人員

		標本数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	無回答	(平均)
全体		213	1	79	75	37	15	3	3	-	3.0
時系列	平成23年	167	-	32.3	36.5	21.0	5.4	2.4	2.4	-	3.2
同居家族別	母子のみ	126	-	62.7	30.2	5.6	1.6	-	-	-	2.5
	20歳以上の子ども	47	-	-	48.9	34.0	10.6	2.1	4.3	-	3.8
	父	19	-	-	5.3	47.4	36.8	10.5	-	-	4.5
	母	38	-	-	31.6	36.8	23.7	5.3	2.6	-	4.1
	その他	13	-	-	15.4	15.4	30.8	15.4	23.1	-	5.2
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0
参考	県(三市を除く)	1,512	-	30.6	33.5	22.6	8.9	3.0	1.2	0.1	3.2
	北九州市	1,291	0.3	34.5	35.9	18.7	7.9	2.1	0.6	-	3.1
	福岡市	1,141	0.4	38.2	38.6	14.2	5.9	1.8	0.7	0.3	3.0
	父子家庭	86	1.2	26.7	32.6	25.6	10.5	3.5	-	-	3.3

※県(三市を除く)、北九州市、福岡市の7人は「7人以上」の数値

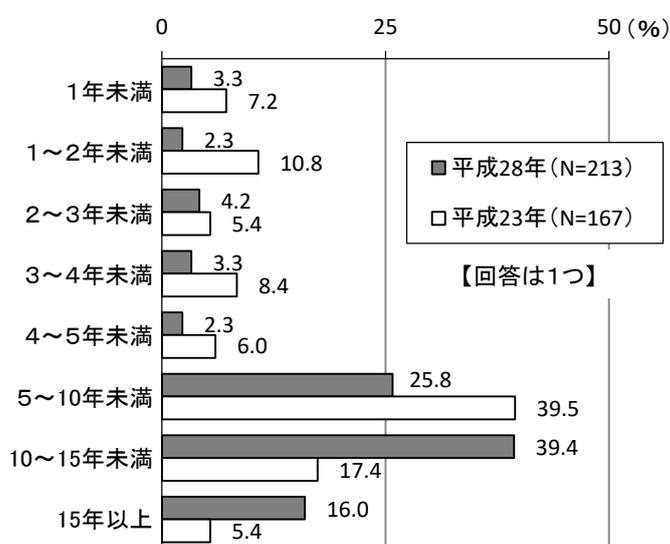
3. 母子家庭になった当時の状況

(1) 母子家庭になってからの経過年数

問4 母子家庭になってから現在まで、何年になりますか。(○印は1つ)

母子家庭になってからの経過年数は、「10～15年未満」が39.4%で最も高く、次いで「5～10年未満」25.8%、「15年以上」16.0%となっている。『10年以上』が55.4%と半数以上を占めており、前回調査と比べて高くなっている。

図表Ⅲ-1-12 母子家庭になってからの経過年数



図表Ⅲ-1-13 母子家庭になってからの経過年数

		標本数	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15年以上	無回答
全体		213	7	5	9	7	5	55	84	34	7
		100.0	3.3	2.3	4.2	3.3	2.3	25.8	39.4	16.0	3.3
時系列	平成23年	167	7.2	10.8	5.4	8.4	6.0	39.5	17.4	5.4	-
参考	県(三市を除く)	1,512	6.0	8.6	6.5	7.6	9.3	29.8	22.9	7.5	1.7
	北九州市	1,291	8.4	8.4	8.3	9.5	7.4	25.6	20.8	10.3	1.3
	福岡市	1,141	6.4	6.9	6.7	9.5	7.9	28.7	23.0	8.9	2.2
	父子家庭	86	10.5	14.0	11.6	11.6	7.0	18.6	19.8	3.5	3.5

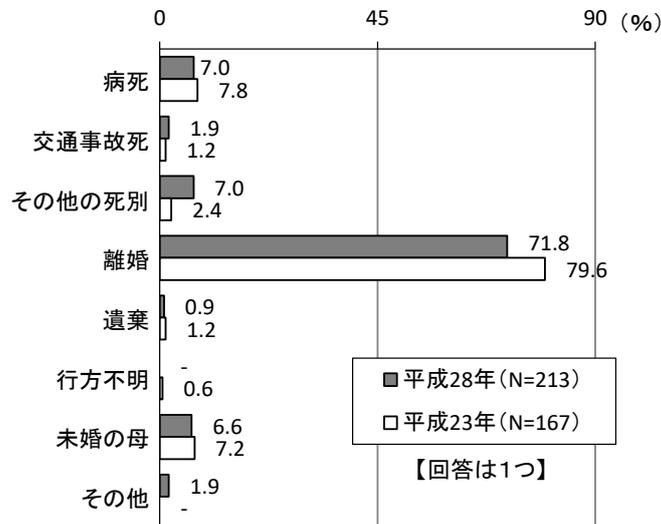
(2) 母子家庭になった理由

問5 母子家庭になった理由は何ですか。(〇印は1つ)

母子家庭になった理由は「離婚」が71.8%で最も高く、また、「病死」「その他の死別」がともに7.0%、「未婚の母」が6.6%となっている。前回調査に比べ、離婚が減少し、「その他の死別」がやや増加している。

年齢別にみると、45～49歳では「その他の死別」(11.6%)が、50歳以上では「病死」(16.7%)と「その他の死別」(8.3%)が他の年代に比べて高くなっている。

図表Ⅲ－1－14 母子家庭になった理由



図表Ⅲ－1－15 母子家庭になった理由

		標本数	病死	交通事故死	その他の死別	離婚	遺棄	行方不明	未婚の母	その他	無回答
全体		213	7.0	1.9	7.0	71.8	0.9	-	6.6	1.9	2.8
時系列	平成23年	167	7.8	1.2	2.4	79.6	1.2	0.6	7.2	-	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	35～39歳	21	4.8	-	-	81.0	-	-	9.5	-	4.8
	40～44歳	47	2.1	-	2.1	80.9	-	-	8.5	2.1	4.3
	45～49歳	86	5.8	2.3	11.6	70.9	1.2	-	4.7	1.2	2.3
	50歳以上	48	16.7	2.1	8.3	56.3	2.1	-	8.3	4.2	2.1
	無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	3.0	0.5	0.7	86.2	-	0.3	7.5	0.3	1.5
	北九州市	1,291	4.3	0.3	0.8	83.2	0.4	0.3	7.7	1.5	1.5
	福岡市	1,141	4.3	0.2	0.9	80.5	0.1	0.3	10.1	2.1	1.7
	父子家庭	86	18.6	-	1.2	72.1	1.2	-	...	3.5	3.5

(3) 離婚した夫との養育費の取り決め

問5-1 (離婚を母子家庭になった理由と答えた方に) あなたの離別した夫との子どもの養育費の受給の取り決めについておたずねします。

(ア) 養育費についての相談相手

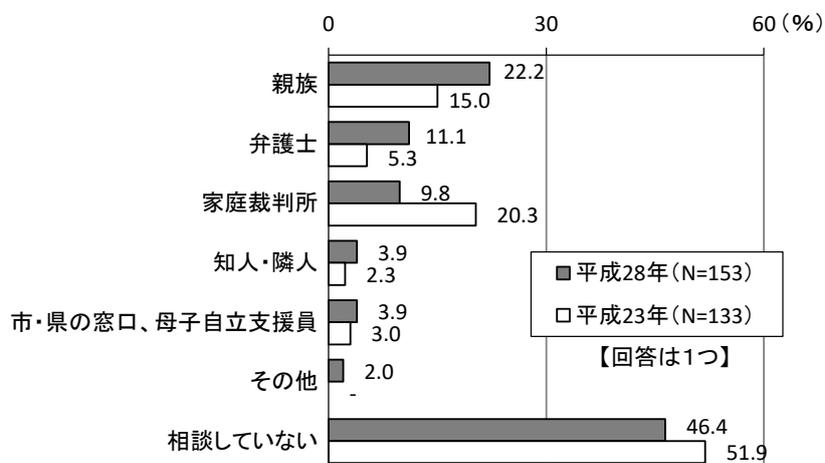
ア. あなたは、離婚の際またはその後、養育費のことで、だれか(どこか)に相談しましたか。(〇印は1つ)

母子家庭となった理由が離婚と回答した人に、離婚した際に子どもの養育費について相談したかたずねたところ、「相談していない」が46.4%で最も高い。相談先では「親族」が22.2%、「弁護士」が11.1%、「家庭裁判所」が9.8%と続いている。

前回調査と比べると、「相談していない」が5ポイントほど低くなっている。また、相談先としては「家庭裁判所」が減少し、「親族」「弁護士」がやや増加している。

年齢別では、「相談していない」が30～34歳、35～39歳および45～49歳で高く、40～44歳と50歳以上では低い。

図表Ⅲ-1-16 養育費についての相談相手



図表Ⅲ－１－１７ 養育費についての相談相手

(%)

		標本数	親族	知人・隣人	市・県 自立・支援員 の窓口、 母子	弁護士	家庭裁判所	その他	相談していない	無回答
全体		153 100.0	34 22.2	6 3.9	6 3.9	17 11.1	15 9.8	3 2.0	71 46.4	1 0.7
時系列	平成23年	133	15.0	2.3	3.0	5.3	20.3	-	51.9	2.3
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	22.2	-	-	11.1	11.1	-	55.6	-
	35～39歳	17	17.6	5.9	5.9	5.9	5.9	-	58.8	-
	40～44歳	38	31.6	5.3	2.6	18.4	5.3	-	36.8	-
	45～49歳	61	18.0	1.6	3.3	4.9	13.1	3.3	54.1	1.6
	50歳以上	27	18.5	7.4	7.4	18.5	11.1	3.7	33.3	-
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,304	20.7	3.4	2.6	8.6	15.0	1.7	47.2	0.8
	北九州市	1,074	21.3	2.6	2.3	9.8	14.9	1.4	47.0	0.7
	福岡市	918	18.3	3.6	2.1	10.5	17.6	2.0	45.5	0.4
	父子家庭	62	9.7	1.6	-	8.1	3.2	-	77.4	-

(イ) 養育費の取り決め状況

イ. 養育費の受給の取り決めの状況について、あてはまるものを選んでください。
(○印は1つ)

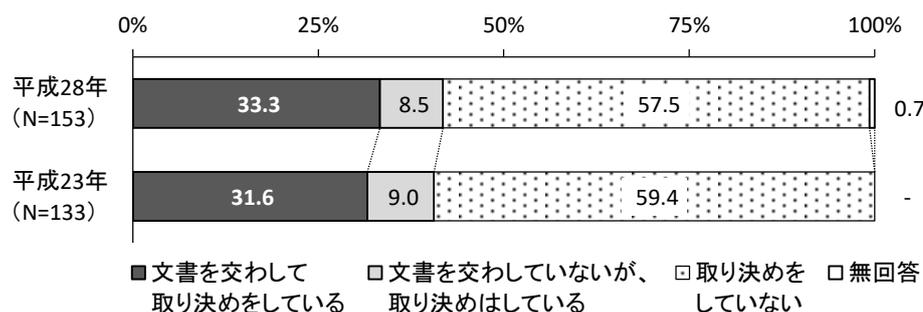
子どもの養育費についての取り決めについては、「取り決めをしていない」が 57.5%で最も高く、「文書を交わして取り決めをしている」(33.3%)は3割程度で、「文書を交わしていないが、取り決めはしている」(8.5%)を合わせた『取り決めをしている』は41.8%となっている。

前回調査から大きな変化はみられない。

年齢別でみると、50歳以上では文書での取り決めをしている人が約半数に上るが、35～39歳では文書での取り決めをしている人は2割に満たず、取り決めをしていない人が8割を超えている。

母子家庭になってからの経過年数別でみると、10年以上の人では文書を交わさず取り決めをしている人がやや高くなっている。

図表Ⅲ－1－18 養育費についての取り決め状況



図表Ⅲ－１－１９ 養育費についての取り決め状況

(%)

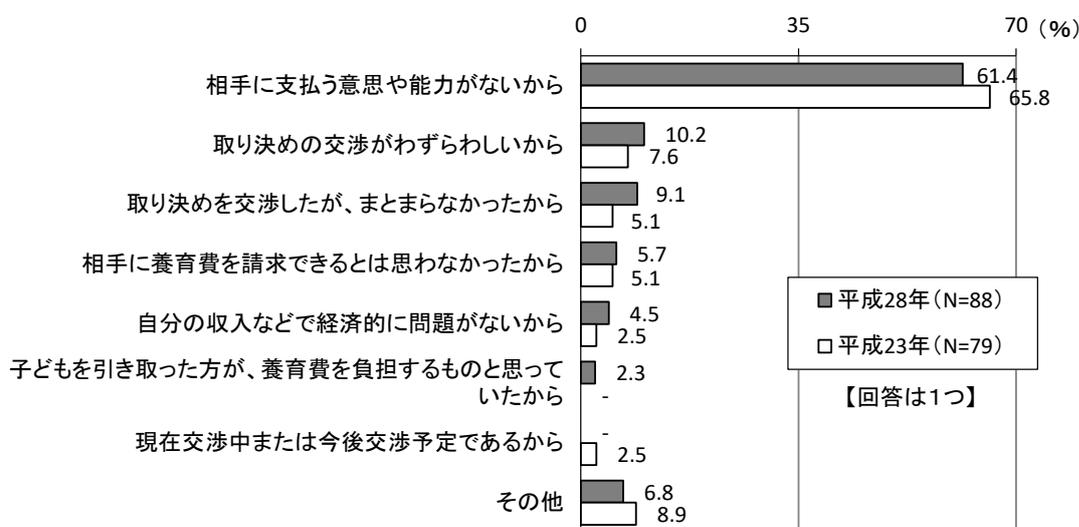
		標 本 数	して文 て取書 いりを る決交 めわ をし	て取て文 いりい書 る決なを めいが はがわ し、し	て取 いり ない 決め をし	無 回 答
全 体		153 100.0	51 33.3	13 8.5	88 57.5	1 0.7
時系列	平成23年	133	31.6	9.0	59.4	-
年 齢 別	29歳以下	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	33.3	11.1	55.6	-
	35～39歳	17	17.6	-	82.4	-
	40～44歳	38	31.6	10.5	57.9	-
	45～49歳	61	32.8	8.2	57.4	1.6
	50歳以上	27	48.1	11.1	40.7	-
	無回答	1	-	-	100.0	-
か母 ら子 の家 庭に 経過 にな って 年数 別	1年未満	4	50.0	25.0	25.0	-
	1～2年未満	3	66.7	-	33.3	-
	2～3年未満	3	33.3	-	66.7	-
	3～4年未満	5	40.0	-	60.0	-
	4～5年未満	4	50.0	25.0	25.0	-
	5～10年未満	39	35.9	2.6	61.5	-
	10～15年未満	70	32.9	10.0	57.1	-
	15年以上	22	22.7	13.6	63.6	-
無回答	3	-	-	66.7	33.3	
参 考	県(三市を除く)	1,304	31.7	12.3	53.8	2.1
	北九州市	1,074	29.9	13.6	55.3	1.2
	福岡市	918	31.3	14.7	52.3	1.7
	父子家庭	62	16.1	11.3	69.4	3.2

(ウ) 養育費の取り決めをしていない理由

問5-1-1 (養育費の取り決めをしていないと答えた方に) 養育費の受給の取り決めをしていない理由は何ですか。次の中から最もあてはまるものを選んでください。(〇印は1つ)

養育費の取り決めをしていない理由についてしてみると、「相手に支払う意思や能力がないから」が61.4%で、この理由に集中しており、他の理由は10%以下と低い。

図表Ⅲ-1-20 養育費の取り決めをしてない理由



図表Ⅲ-1-21 養育費の取り決めをしてない理由

		標本数	に自 分の 収入 など で 経済 的	わ取 しり い決 め の 交 渉 が わ ず ら	が相 手 に 支 払 う 意 思 や 能 力	る相 手 に 思 わ な か っ た か ら で き	の 子 ど も を 引 き 取 っ た 方 も	ま と ま ら な か っ た か ら が、	現 在 交 渉 中 ま た は 今 後 交	そ の 他	無 回 答
全体		88 100.0	4 4.5	9 10.2	54 61.4	5 5.7	2 2.3	8 9.1	- -	6 6.8	- -
時系列	平成23年	79	2.5	7.6	65.8	5.1	-	5.1	2.5	8.9	2.5
参考	県(三市を除く)	702	2.8	12.4	56.4	6.1	1.9	10.7	1.4	7.8	0.4
	北九州市	594	2.2	13.3	59.6	5.1	1.2	9.9	1.0	7.1	0.7
	福岡市	480	2.9	10.0	58.5	4.2	2.1	14.2	1.9	5.4	0.8
	父子家庭	43	20.9	2.3	48.8	9.3	9.3	2.3	-	7.0	-

(4) 離婚した夫からの養育費の受給状況

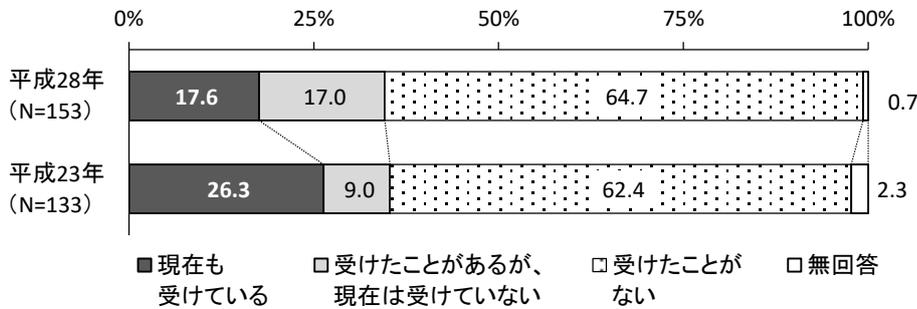
問5-2 (離婚を母子家庭になった理由と答えた方に) あなたの離別した夫からの養育費の受給の状況について、あてはまるものを選んでください。(○印は1つ)

離婚した夫からの養育費の受給状況についてみると、「現在も受けている」は17.6%にとどまり、「受けたことがあるが、現在は受けていない」が17.0%で、両者を合わせた『受給経験』は34.6%となっている。一方「受けたことがない」は64.7%となっている。

前回調査に比べると「現在も受けている」が約9ポイント減少している。

母子家庭になってからの経過年数別では、経過年数が長い人ほど「現在も受けている」が低くなる傾向がみられる。

図表Ⅲ-1-22 離婚した夫からの養育費の受給状況

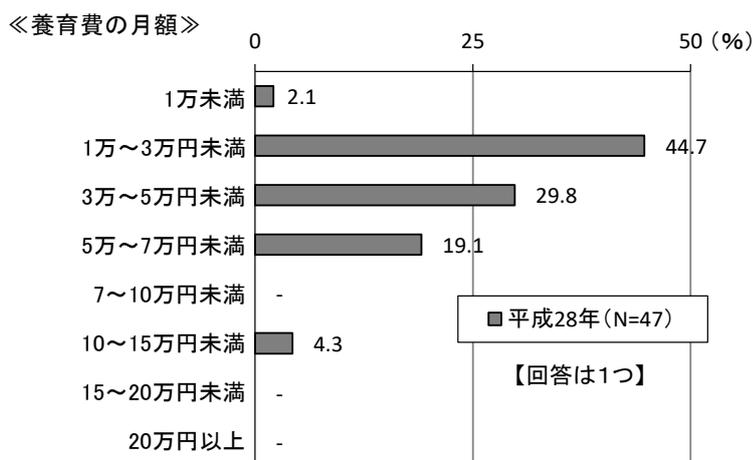
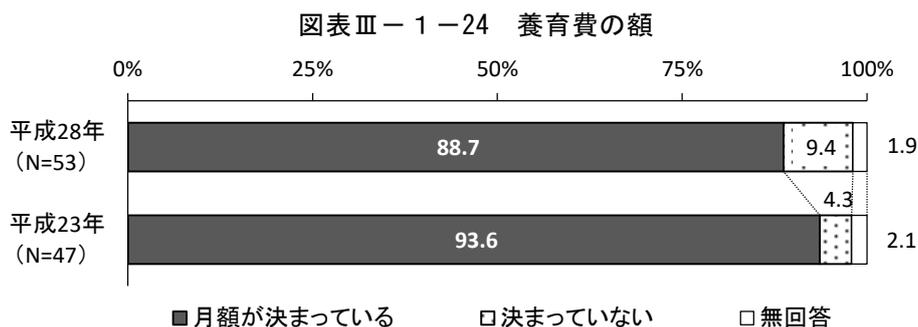


図表Ⅲ-1-23 離婚した夫からの養育費の受給状況 (%)

		標本数	現在も受けている	受けたことがあるが、現在は受けていない	受けたことがない	無回答
全体		153	27	26	99	1
		100.0	17.6	17.0	64.7	0.7
時系列	平成23年	133	26.3	9.0	62.4	2.3
か 母 ら 子 家 庭 の 経 過 に な っ て 別 れ	1年未満	4	50.0	-	50.0	-
	1~2年未満	3	33.3	33.3	33.3	-
	2~3年未満	3	-	-	100.0	-
	3~4年未満	5	40.0	-	60.0	-
	4~5年未満	4	-	-	100.0	-
	5~10年未満	39	25.6	23.1	51.3	-
	10~15年未満	70	15.7	17.1	65.7	1.4
	15年以上	22	-	18.2	81.8	-
	無回答	3	33.3	-	66.7	-
取 り 決 め の 状 況 別	文書を交わして取り決めている	51	45.1	25.5	27.5	2.0
	文書を交わしていないが、取り決めている	13	23.1	53.8	23.1	-
	取り決めているがしていない	88	1.1	6.8	92.0	-
	無回答	1	-	-	100.0	-
参 考	県(三市を除く)	1,304	23.8	16.3	58.7	1.2
	北九州市	1,074	23.7	16.3	59.1	0.8
	福岡市	918	23.2	16.8	58.8	1.2
	父子家庭	62	6.5	3.2	87.1	3.2

問5-2-1 (受けている、または受けたことがあると答えた方に) 養育費の額はどれくらいでしたか。下の に金額をご記入ください。

養育費の受給を受けている、または受けたことがある人の、養育費の額についてたずねたところ、「月額が決まっている」が 88.7%と9割近くを占めている。月額が決まっている場合の養育費の平均額は 32,989 円である。前回調査に比べ、「決まっている」が約5ポイント減少し、平均額も約 15,000 円減額となっている。



図表Ⅲ-1-25 養育費の額

		標本数	い 月 額 が 決 ま っ て	決 ま っ て い な い	無 回 答	平均 (円)
全体		53 100.0	47 88.7	5 9.4	1 1.9	32,989
時系列	平成23年	47	93.6	4.3	2.1	48,045
参考	県(三市を除く)	523	85.7	12.2	2.1	38,821
	北九州市	430	87.4	10.9	1.6	42,755
	福岡市	367	85.3	12.3	2.5	42,243
	父子家庭	6	100.0	-	-	13,583

※養育費の平均月額「現在も受けている」と「受けたことがあるが、現在は受けていない」人のうち、月額が決まっている人の金額で算出している。

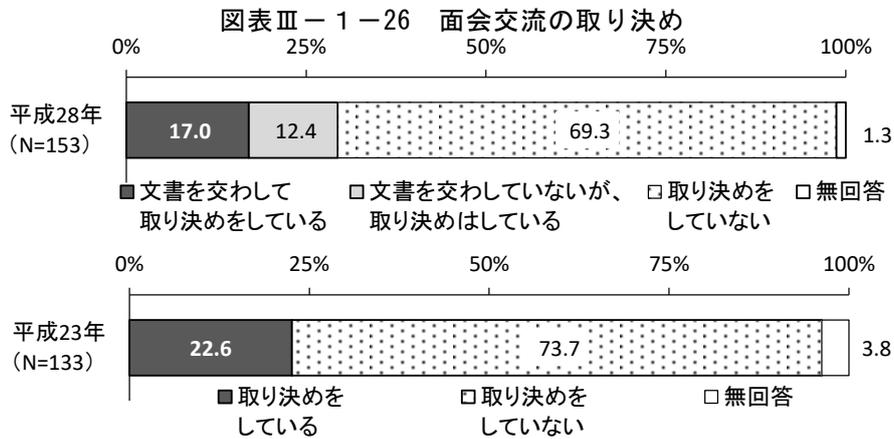
(5) 離婚した夫との面会交流の取り決め

問5-3 (離婚を母子家庭になった理由と答えた方に) あなたの離別した夫と面会交流の取り決めについて、あてはまるものを選んでください。(〇印は1つ)

※面会交流とは、「離婚又は別居により子どもと離れて暮らしている父母が、定期的に子どもと会うなどの交流をすること」を言います。

離婚した夫との面会交流の取り決めについては、「文書を交わして取り決めをしている」が17.0%、「文書は交わしていないが、取り決めはしている」が12.4%で、両者を合わせた『取り決めをしている』割合は29.4%である。一方「取り決めをしていない」が69.3%となっている。面会交流について『取り決めをしている』割合は、前回調査よりやや増加している。

母子家庭になってからの経過年数別では、経過年数が長い人ほど取り決めをしていない割合が高くなる傾向がみられる。



図表Ⅲ-1-27 面会交流の取り決め

		標本数	取り決めを交わしてしている (%)	文書は交わしていないが、取り決めはしている (%)	取り決めをしていない (%)	無回答 (%)
全体		153	17.0	12.4	69.3	1.3
時系列	平成23年	133	22.6	73.7	3.8	
母子家庭の経過年数別	1年未満	4	50.0	25.0	25.0	-
	1~2年未満	3	33.3	66.7	-	-
	2~3年未満	3	33.3	-	33.3	33.3
	3~4年未満	5	40.0	-	60.0	-
	4~5年未満	4	25.0	25.0	50.0	-
	5~10年未満	39	15.4	15.4	69.2	-
	10~15年未満	70	17.1	11.4	70.0	1.4
	15年以上	22	4.5	4.5	90.9	-
	無回答	3	-	-	100.0	-
状況別の養育費の取り決め	文書を交わして取り決めをしている	51	41.2	15.7	41.2	2.0
	文書は交わしていないが、取り決めはしている	13	-	53.8	46.2	-
	取り決めをしていない	88	5.7	4.5	88.6	1.1
	無回答	1	-	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	1,304	17.5	12.4	67.5	2.6
	北九州市	1,074	19.8	11.4	66.7	2.1
	福岡市	918	17.4	10.3	71.0	1.2
	父子家庭	62	14.5	12.9	71.0	1.6

※平成23年は「取り決めをしている」の数値

(6) 離婚した夫との面会交流の実施状況

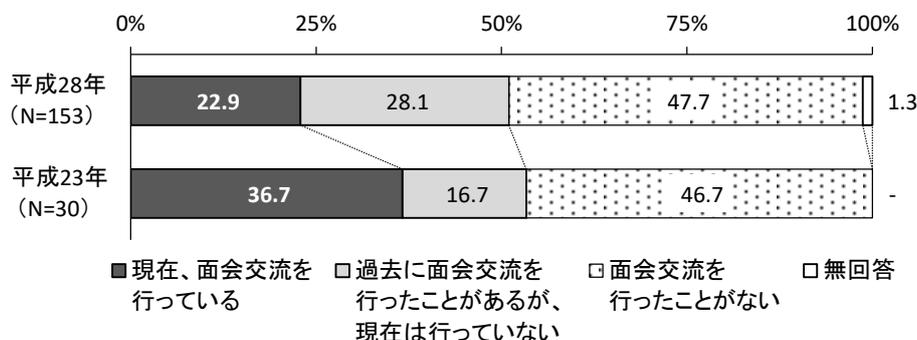
問5-4 (離婚を母子家庭になった理由と答えた方に) 面会交流の実施状況について、あてはまるものを選んでください。(○印は1つ)

面会交流の実施状況をみると、「現在、面会交流を行っている」が22.9%、「過去に面会交流を行ったことがあるが現在は行っていない」が28.1%、「面会交流を行ったことがない」が47.7%となっている。

前回調査に比べ、「現在、面会交流を行っている」が減少し、「過去に面会交流を行ったことがあるが現在は行っていない」が増加している。

母子家庭になってからの経過年数別でみると、経過年数が短い人で「現在、面会交流を行っている」が高くなる傾向がみられる。

図表Ⅲ-1-28 面会交流の実施状況



図表Ⅲ-1-29 面会交流の実施状況

		標本数	を現在行っている面会交流	行あを過 つる行去 てがっに いた面 な現こ会 い在と交 はが流	た面 こ会 と交 が流 がな を行 っ	無回答
全体		153	35	43	73	2
		100.0	22.9	28.1	47.7	1.3
時系列	平成23年	30	36.7	16.7	46.7	-
か母 ら子 の 家 庭 に 経 過 な な 数 別	1年未満	4	75.0	-	25.0	-
	1~2年未満	3	100.0	-	-	-
	2~3年未満	3	33.3	-	33.3	33.3
	3~4年未満	5	-	40.0	60.0	-
	4~5年未満	4	50.0	25.0	25.0	-
	5~10年未満	39	28.2	35.9	35.9	-
	10~15年未満	70	17.1	30.0	51.4	1.4
	15年以上	22	9.1	22.7	68.2	-
状況別	文書を交わして取り決めている	51	41.2	15.7	41.2	2.0
	文書を交わしていないが、取り決めはしている	13	-	53.8	46.2	-
	取り決めをしていない	88	5.7	4.5	88.6	1.1
	無回答	1	-	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	1,304	28.8	24.4	44.2	2.6
	北九州市	1,074	28.0	24.8	44.8	2.4
	福岡市	918	31.9	23.0	43.1	2.0
	父子家庭	62	38.7	21.0	37.1	3.2

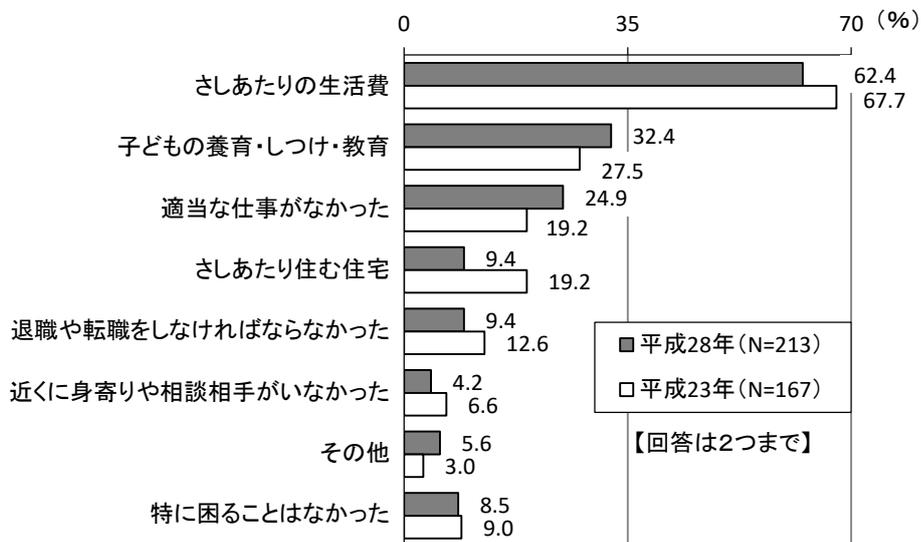
(7) 母子家庭になった当時困ったこと

問6 あなたは母子家庭になった当時、どんなことでお困りでしたか。(〇印は2つまで)

母子家庭になった当時困ったことは、「さしあたりの生活費」が62.4%で最も高く、「子どもの養育・しつけ・教育」が32.4%、「適当な仕事がなかった」が24.9%と続いている。「特に困ることはなかった」は8.5%と低い。

母子家庭になった理由別では、「さしあたりの生活費」は離婚の場合7割を超えて高く、死別では4割弱と比較的低くなっている。

図表Ⅲ-1-30 母子家庭になった当時困ったこと [複数回答]



図表Ⅲ-1-31 母子家庭になった当時困ったこと [複数回答]

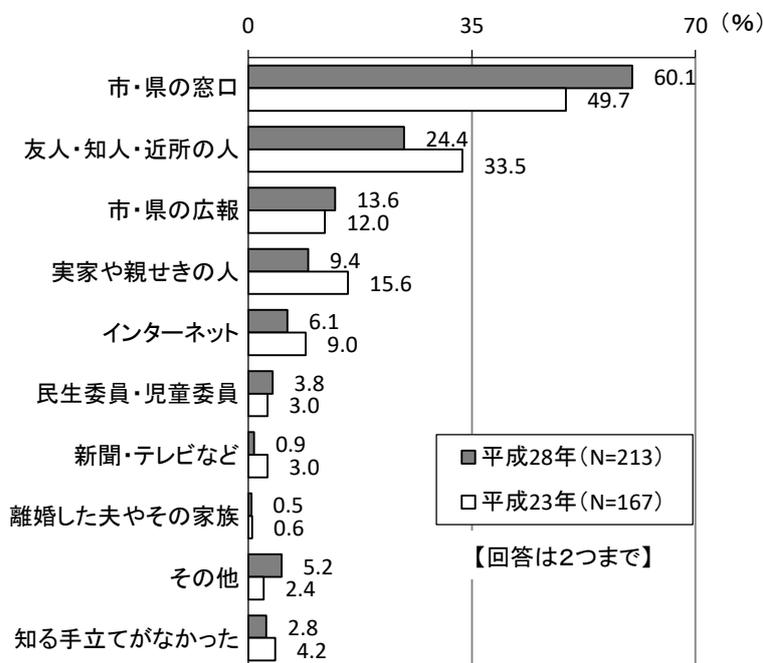
		標本数	さしあたりの生活費	子どもの養育・しつけ・教育	さしあたり住む住宅	適当な仕事なかった	退職や転職しなければならなかった	近くに身寄りや相談相手がなかった	その他	特に困ることはなかった	無回答
全体		213	133	69	20	53	20	9	12	18	11
		100.0	62.4	32.4	9.4	24.9	9.4	4.2	5.6	8.5	5.2
時系列	平成23年	167	67.7	27.5	19.2	19.2	12.6	6.6	3.0	9.0	0.6
理由別	死別	34	38.2	41.2	2.9	23.5	-	5.9	5.9	20.6	2.9
	離婚	153	71.2	33.3	12.4	26.1	10.5	4.6	6.5	5.9	-
	その他の生別	20	50.0	20.0	-	25.0	15.0	-	-	10.0	30.0
	無回答	6	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	66.7
有仕当無事時別の	持っていた	132	62.1	37.9	9.1	14.4	11.4	3.8	6.8	10.6	3.0
	持っていなかった	78	64.1	23.1	9.0	43.6	6.4	5.1	3.8	5.1	7.7
	無回答	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3
参考	県(三市を除く)	1,512	68.3	31.7	14.4	18.1	10.2	4.2	4.1	9.2	3.4
	北九州市	1,291	61.9	27.4	15.7	19.0	10.3	6.0	4.9	10.3	3.6
	福岡市	1,141	64.1	29.4	19.0	16.9	11.2	6.9	3.2	9.1	4.4
	父子家庭	86	27.9	53.5	3.5	2.3	8.1	10.5	15.1	16.3	7.0

(8) 当時の母子福祉施策の認知経路

問7 母子家庭になった当時、児童扶養手当などの母子福祉施策を、どのような方法で知りましたか。(〇印は2つまで)

母子家庭になった当時、児童扶養手当等の母子福祉施策をどのように知ったかは、「市・県の窓口」が60.1%で目立って高く、次いで「友人・知人・近所の人」が24.4%、「市・県の広報」が13.6%、「実家や親せきの人」が9.4%となっており、市や県の窓口と身近な人が主な情報源となっている。前回調査に比べ、「友人・知人・近所の人」が減少し、「市・県の窓口」が増加している。

図表Ⅲ-1-32 当時の母子福祉施策の認知経路 [複数回答]



図表Ⅲ-1-33 当時の母子福祉施策の認知経路 [複数回答]

		標本数	市・県の広報	市・県の窓口	民生委員・児童委員	実家や親せきの人	離婚した夫やその家族	友人・知人・近所の人	新聞・テレビなど	インターネット	その他	知る手立てがなかった	無回答
全体		213	29	128	8	20	1	52	2	13	11	6	5
		100.0	13.6	60.1	3.8	9.4	0.5	24.4	0.9	6.1	5.2	2.8	2.3
時系列	平成23年	167	12.0	49.7	3.0	15.6	0.6	33.5	3.0	9.0	2.4	4.2	1.8
有仕当無事時別の	持っていた	132	16.7	59.8	3.8	7.6	-	25.0	1.5	6.1	6.1	1.5	2.3
	持っていなかった	78	9.0	61.5	3.8	11.5	1.3	24.4	-	6.4	2.6	5.1	1.3
	無回答	3	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-	33.3
参考	県(三市を除く)	1,512	11.3	55.6	1.7	14.6	0.5	27.4	0.6	10.6	3.0	1.8	2.6
	北九州市	1,291	9.2	50.5	1.3	16.0	0.7	30.4	0.9	10.0	2.5	3.0	3.0
	福岡市	1,141	11.5	46.7	2.1	14.5	0.8	25.4	1.3	16.0	2.6	3.1	2.1
	父子家庭	86	12.8	17.4	-	5.8	-	15.1	2.3	7.0	2.3	40.7	4.7

4. 仕事の状況

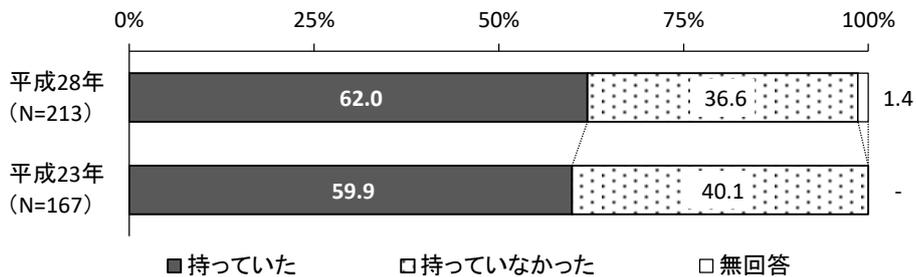
(1) 母子家庭になった当時の仕事の状況

(ア) 母子家庭になった当時の仕事の有無

問8 母子家庭になった当時、あなたは何か仕事を持っていましたか。(○印は1つ)

母子家庭になった当時の仕事の有無は、仕事を「持っていた」が62.0%、「持っていなかった」36.6%で、約3分の1の人が母子家庭になった際に仕事を持っていなかった。

図表Ⅲ－1－34 母子家庭になったときに仕事の有無



図表Ⅲ－1－35 母子家庭になったときに仕事の有無

		標本数	持っていた (%)	持っていなかった (%)	無回答 (%)
全体		213	62.0	36.6	1.4
時系列	平成23年	167	59.9	40.1	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-
	30～34歳	9	44.4	55.6	-
	35～39歳	21	71.4	23.8	4.8
	40～44歳	47	57.4	40.4	2.1
	45～49歳	86	59.3	39.5	1.2
	50歳以上	48	68.8	31.3	-
	無回答	2	100.0	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	58.0	39.9	2.1
	北九州市	1,291	60.0	38.1	1.9
	福岡市	1,141	59.7	38.9	1.4
	父子家庭	86	95.3	2.3	2.3

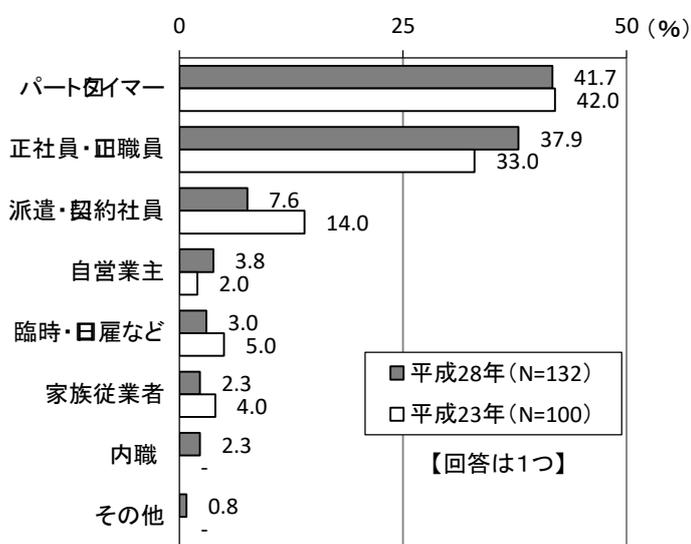
(イ) 母子家庭になった当時の就業形態

問8-1 (持っていたと答えた方に) あなたの仕事は、次の中のどれにあてはまりますか。(〇印は1つ)

母子家庭になった当時仕事を持っていた人の就業形態は、「パートタイマー」が41.7%、「正社員・正職員」が37.9%、「派遣・契約社員」が7.6%と続いている。前回調査に比べ、「派遣・契約社員」が減少し、「正社員・正職員」がやや増加している。

年齢別にみると、40～44歳と45～49歳で「正社員・正職員」がやや高くなっている。

図表Ⅲ-1-36 母子家庭になった当時の就業形態



図表Ⅲ-1-37 母子家庭になった当時の就業形態

		標本数	自営業主	家族従業者	正社員・正職員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	臨時・日雇など	内職	その他	無回答
全体		132 100.0	5 3.8	3 2.3	50 37.9	10 7.6	55 41.7	4 3.0	3 2.3	1 0.8	1 0.8
時系列	平成23年	100	2.0	4.0	33.0	14.0	42.0	5.0	-	-	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	4	25.0	-	25.0	-	50.0	-	-	-	-
	35～39歳	15	-	-	20.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-
	40～44歳	27	-	-	48.1	3.7	40.7	-	3.7	-	3.7
	45～49歳	51	2.0	5.9	43.1	7.8	33.3	2.0	3.9	2.0	-
	50歳以上	33	9.1	-	33.3	6.1	51.5	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	877	2.4	1.8	36.4	8.6	47.1	2.7	0.5	0.1	0.5
	北九州市	774	2.6	1.8	37.3	8.9	45.5	2.1	0.3	0.4	1.2
	福岡市	681	4.8	2.2	29.8	10.1	48.9	2.2	0.3	0.3	1.3
	父子家庭	82	18.3	1.2	76.8	-	-	3.7	-	-	-

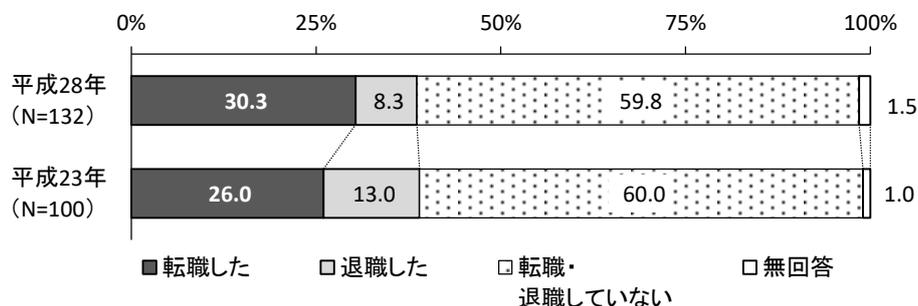
(ウ) 母子家庭になったことによる転職・退職の有無とその理由

問8-2 (持っていたと答えた方に) あなたは母子家庭になったことを契機として転職又は退職をしましたか。(〇印は1つ)

母子家庭になったことで転職や退職したかについては、「転職・退職していない」が59.8%と最も高いが、「転職した」が30.3%、「退職した」が8.3%となっており、4割弱の人が母子家庭になったことをきっかけに転職・退職している。

年齢別でみると、35～39歳と40～44歳で転職または退職した人が5割を超えている。

図表Ⅲ-1-38 母子家庭になったことによる転職・退職の有無



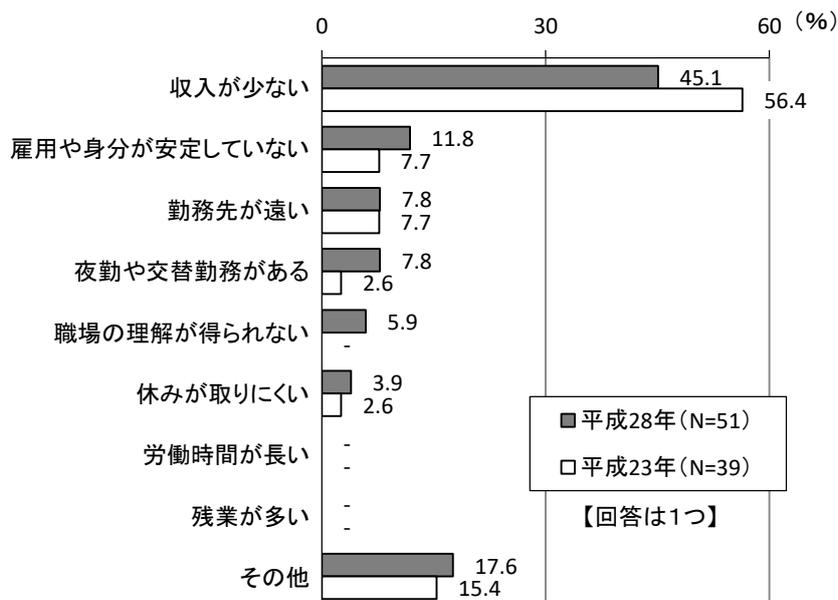
図表Ⅲ-1-39 母子家庭になったことによる転職・退職の有無

		標本数	転職した	退職した	な退職し・ない職職して	無回答
全体		132 100.0	40 30.3	11 8.3	79 59.8	2 1.5
時系列	平成23年	100	26.0	13.0	60.0	1.0
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-
	30～34歳	4	-	-	75.0	25.0
	35～39歳	15	40.0	13.3	46.7	-
	40～44歳	27	40.7	11.1	44.4	3.7
	45～49歳	51	29.4	5.9	64.7	-
	50歳以上	33	24.2	6.1	69.7	-
	無回答	2	-	50.0	50.0	-
参考	県(三市を除く)	877	30.3	9.6	59.7	0.3
	北九州市	774	31.4	9.2	57.9	1.6
	福岡市	681	30.7	11.6	56.5	1.2
	父子家庭	82	9.8	4.9	85.4	-

問8-2-1（転職した又は退職したと答えた方に）理由のうちあてはまるものを選んでください。（〇印は1つ）

母子家庭になったことで転職・退職した理由は、「収入が少ない」が45.1%で目立って高くなっている。

図表Ⅲ-1-40 母子家庭になったことによる転職・退職した理由



図表Ⅲ-1-41 母子家庭になったことによる転職・退職した理由

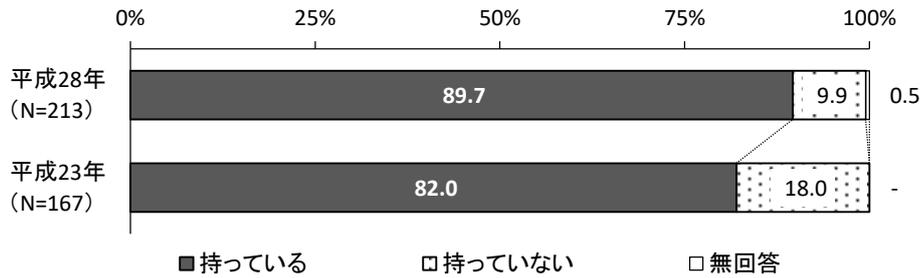
		標本数	勤務先が遠い	労働時間が長い	夜勤や交替勤務がある	残業が多い	休みが取りにくい	収入が少ない	雇用や身分が安定していない	職場の理解が得られない	その他	無回答
全体		51 100.0	4 7.8	-	4 7.8	-	2 3.9	23 45.1	6 11.8	3 5.9	9 17.6	-
時系列	平成23年	39	7.7	-	2.6	-	2.6	56.4	7.7	-	15.4	7.7
参考	県(三市を除く)	350	12.0	2.9	4.0	2.3	6.3	50.9	5.4	1.7	13.4	1.1
	北九州市	314	10.8	4.5	5.4	1.9	4.8	46.8	8.0	3.5	14.0	0.3
	福岡市	288	12.2	6.6	2.1	0.3	7.3	49.3	5.9	3.5	11.1	1.7
	父子家庭	12	16.7	16.7	8.3	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	-	8.3

(2) 現在の仕事の状況
 (ア) 現在の仕事の有無

問9 現在、あなたは仕事を持っていますか。(〇印は1つ)

現在、仕事を「持っている」人の割合は89.7%で、母子家庭になった当時仕事を「持っていた」(62.0%)割合に比べて、母子家庭になった後に仕事を持った人が多いことが分かる。前回調査に比べ、仕事を持っている人の割合が約8ポイント増加している。

図表Ⅲ-1-42 現在の仕事の有無



図表Ⅲ-1-43 現在の仕事の有無

		標本数	持っている (%)	持っていない (%)	無回答 (%)
全体		213	89.7	9.9	0.5
時系列	平成23年	167	82.0	18.0	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-
	30～34歳	9	100.0	-	-
	35～39歳	21	95.2	4.8	-
	40～44歳	47	93.6	4.3	2.1
	45～49歳	86	88.4	11.6	-
	50歳以上	48	85.4	14.6	-
	無回答	2	50.0	50.0	-
参考	県(三市を除く)	1,512	88.4	11.4	0.2
	北九州市	1,291	87.9	11.9	0.2
	福岡市	1,141	86.8	12.9	0.4
	父子家庭	86	91.9	8.1	-

(イ) 現在の就業形態

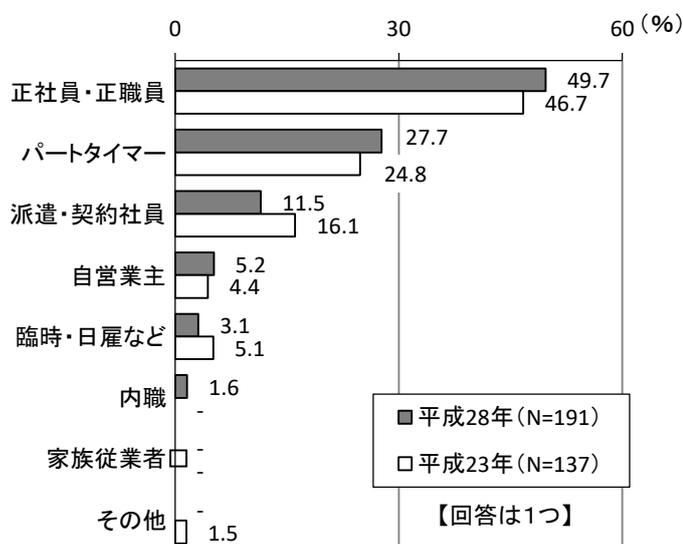
問9-1 あなたの仕事は、次の中のどれにあてはまりますか。(○印は1つ)

現在、仕事を持っている人の就業形態は、「正社員・正職員」が49.7%、「パートタイマー」が27.7%、「派遣・契約社員」が11.5%となっており、「正社員・正職員」が最も高いものの、パートタイマーや派遣・契約社員、臨時日雇いなどの非正規雇用の割合も4割を超えている。

前回調査に比べ、「派遣・契約社員」がやや減少している。

年齢別では、45～49歳で「正社員・正職員」が約6割と高い。

図表Ⅲ-1-44 現在の就業形態



図表Ⅲ-1-45 現在の就業形態

		標本数	自営業主	家族従業者 □	正社員・正職員	派遣・契約社員	パートタイマー	臨時・日雇いなど	内職	その他	無回答
全体		191 100.0	10 5.2	-	95 49.7	22 11.5	53 27.7	6 3.1	3 1.6	-	2 1.0
時系列	平成23年	137	4.4	-	46.7	16.1	24.8	5.1	-	1.5	1.5
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	11.1	-	22.2	11.1	44.4	11.1	-	-	-
	35～39歳	20	10.0	-	40.0	20.0	30.0	-	-	-	-
	40～44歳	44	4.5	-	45.5	18.2	22.7	4.5	2.3	-	2.3
	45～49歳	76	3.9	-	60.5	5.3	22.4	3.9	2.6	-	1.3
	50歳以上	41	4.9	-	43.9	12.2	39.0	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	2.7	1.0	44.7	12.6	33.1	3.1	0.2	0.3	2.4
	北九州市	1,135	2.0	1.1	47.0	12.0	32.8	1.7	0.1	0.4	3.0
	福岡市	990	5.5	1.0	39.1	15.1	35.3	1.7	0.3	0.6	1.5
	父子家庭	79	22.8	-	74.7	-	1.3	1.3	-	-	-

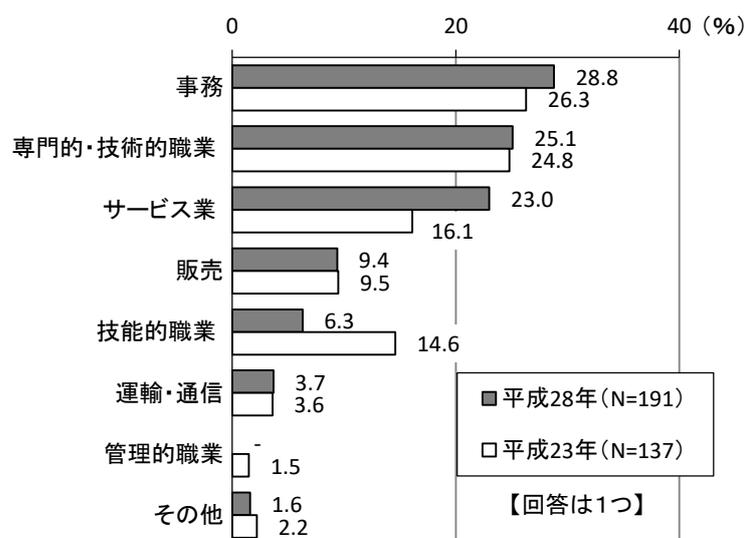
(ウ) 現在の仕事の内容（職種）

問9-2 仕事の内容（職種）は、次の中のどれにあてはまりますか。（○印は1つ）

現在の仕事の内容（職種）は、「事務」が28.8%で最も高く、「専門的・技術的職業」が25.1%、「サービス業」が23.0%と続いている。

前回調査に比べ、「技能的職業」が減少し、「サービス業」が増加している。

図表Ⅲ-1-46 現在の仕事の内容（職種）



図表Ⅲ-1-47 現在の仕事の内容（職種）

		標本数	専門的・技術的職業	管理的職業	事務	販売	運輸・通信	技能的職業	サービス業	その他	無回答
全体		191	48	-	55	18	7	12	44	3	4
		100.0	25.1	-	28.8	9.4	3.7	6.3	23.0	1.6	2.1
時系列	平成23年	137	24.8	1.5	26.3	9.5	3.6	14.6	16.1	2.2	1.5
参考	県(三市を除く)	1,337	25.5	0.4	23.9	9.4	2.6	9.9	23.0	2.7	2.5
	北九州市	1,135	27.7	0.4	26.2	9.1	1.9	7.4	22.7	1.6	3.1
	福岡市	990	22.8	1.8	28.5	10.6	2.9	5.4	24.1	1.7	2.1
	父子家庭	79	12.7	8.9	7.6	8.9	11.4	38.0	8.9	1.3	2.5

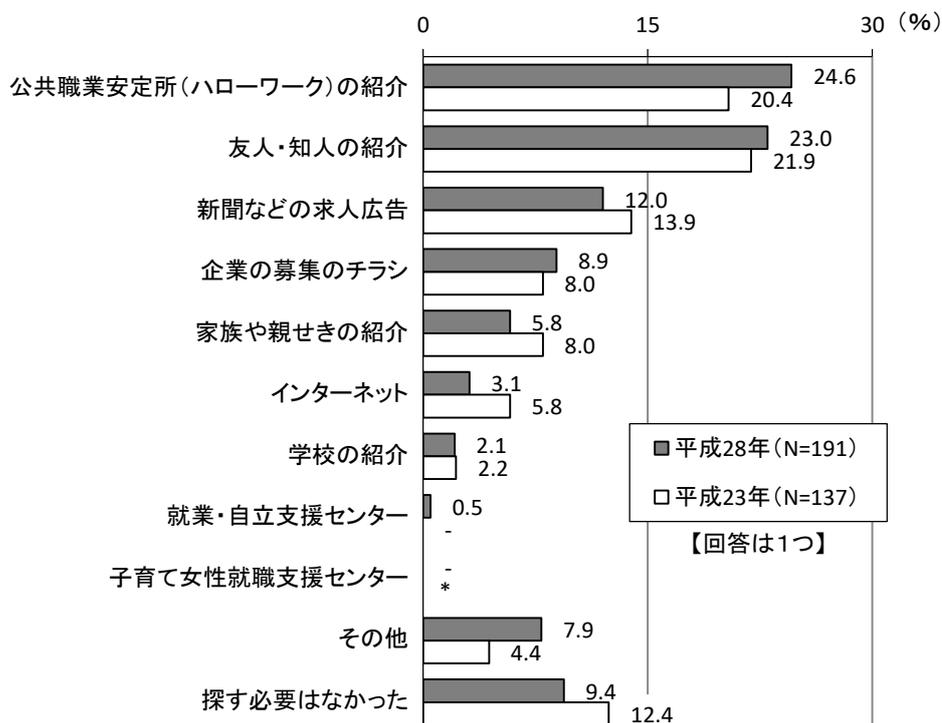
(エ) 求職の方法

問9-3 いまの仕事は、主にどんな方法で探しましたか。(〇印は1つ)

求職の方法としては、「公共職業安定所(ハローワーク)」(24.6%)「友人・知人の紹介」(23.0%)が2割を超えており、次いで「新聞などの求人広告」(12.0%)が続いている。

年齢別では、「公共職業安定所(ハローワーク)」は年代が低い層ほど高く、「新聞などの求人広告」は年齢が高い層で高くなる。また、「友人・知人の紹介」は40~44歳で高い。

図表Ⅲ-1-48 求職の方法



*は平成23年にはない項目

図表Ⅲ-1-49 求職の方法

(%)

	標本数	公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	就業・自立支援センター	子育て女性就職支援センター	友人・知人の紹介	家族や親せきの紹介	学校の紹介	新聞などの求人広告	企業の募集のチラシ	インターネット	その他	探す必要はなかった	無回答
全体	191	47	1	-	44	11	4	23	17	6	15	18	5
時系列	100.0	24.6	0.5	-	23.0	5.8	2.1	12.0	8.9	3.1	7.9	9.4	2.6
平成23年	137	20.4	-	...	21.9	8.0	2.2	13.9	8.0	5.8	4.4	12.4	2.9
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30~34歳	9	55.6	-	11.1	-	-	-	-	22.2	11.1	-	-
	35~39歳	20	35.0	-	20.0	10.0	5.0	5.0	5.0	10.0	-	10.0	-
	40~44歳	44	29.5	-	29.5	2.3	2.3	4.5	6.8	4.5	6.8	11.4	2.3
	45~49歳	76	21.1	1.3	-	22.4	10.5	1.3	11.8	9.2	10.5	7.9	3.9
	50歳以上	41	14.6	-	-	19.5	-	2.4	26.8	14.6	-	12.2	2.4
無回答	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	26.1	0.6	0.3	21.2	5.9	3.1	11.7	6.8	7.0	7.3	2.8
	北九州市	1,135	19.5	0.4	0.2	21.4	6.9	3.9	11.4	6.1	7.2	6.4	9.8
	福岡市	990	20.9	0.9	0.1	20.4	4.6	1.2	13.3	7.2	10.4	8.5	2.2
	父子家庭	79	13.9	-	...	17.7	8.9	15.2	7.6	1.3	-	5.1	27.8

※平成23年の「ひとり親家庭支援センター」は、「就業・自立支援センター」の項目。

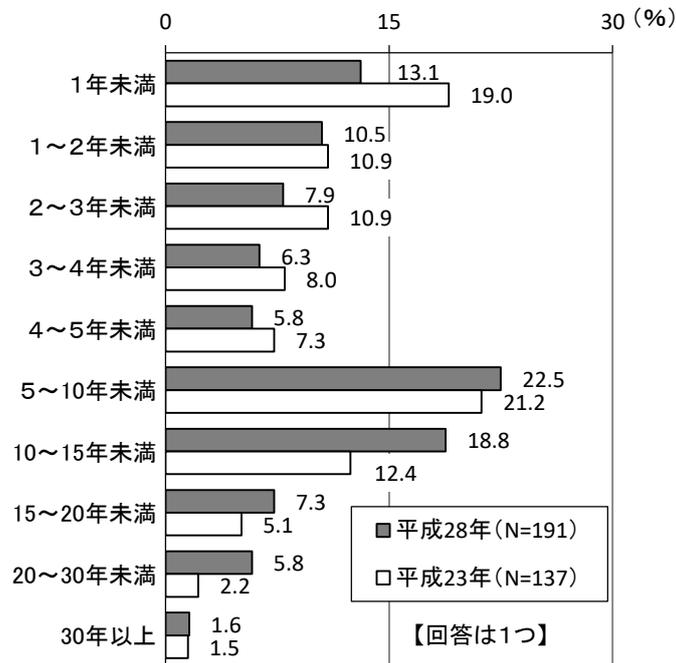
(オ) 勤続年数

問9-4 あなたは、いまの勤務先に勤めはじめて（自営、農業などの方はいまの仕事を
はじめて）何年くらいになりますか。（○印は1つ）

現在の仕事の勤続年数は、「5～10年未満」が22.5%、「10～15年未満」が18.8%となっており、『5年未満』が4割を超えている。前回調査に比べ、「1年未満」が減少し、「10～15年未満」がやや増加している。

就業形態別にみると、正社員・正職員の人で勤続年数が長い傾向がみられる。

図表Ⅲ-1-50 勤続年数



図表Ⅲ-1-51 勤続年数

(%)

		標本数	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答
全体		191	25	20	15	12	11	43	36	14	11	3	1
		100.0	13.1	10.5	7.9	6.3	5.8	22.5	18.8	7.3	5.8	1.6	0.5
時系列	平成23年	137	19.0	10.9	10.9	8.0	7.3	21.2	12.4	5.1	2.2	1.5	1.5
就業形態別	自営業主	10	20.0	10.0	-	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0	-	-	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	11.6	5.3	7.4	4.2	1.1	28.4	23.2	8.4	8.4	2.1	-
	派遣・契約社員	22	18.2	9.1	18.2	18.2	9.1	13.6	9.1	-	4.5	-	-
	パートタイマー	53	11.3	18.9	7.5	5.7	11.3	20.8	13.2	7.5	1.9	-	1.9
	臨時・日雇など	6	33.3	33.3	-	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-
	内職	3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	18.7	12.1	9.1	8.5	9.1	20.7	12.0	4.8	3.1	0.1	1.9
	北九州市	1,135	16.8	12.2	10.0	7.8	5.6	21.9	11.9	5.0	5.6	1.2	1.9
	福岡市	990	16.8	12.6	9.0	8.6	8.3	23.4	11.8	3.6	3.9	0.4	1.5
	父子家庭	79	1.3	1.3	1.3	1.3	3.8	10.1	15.2	16.5	35.4	8.9	5.1

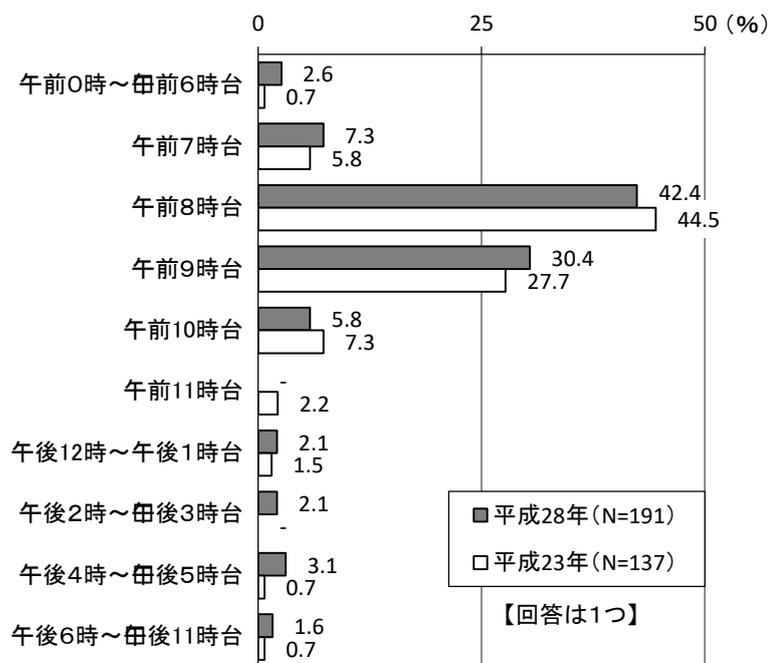
(カ) 1日の労働時間

問9-5 あなたのふだんの勤務時間(残業を含む)はどのようになっていますか。また、仕事が終わって帰宅するのは何時ごろですか。午前・午後いずれかを○印で囲み、に時刻をご記入ください。日によって時間が異なる場合は、多い時間を記入してください。

現在仕事を持っている人の就業時間について、まず始業時刻をみると、「午前8時台」が42.4%、「午前9時台」が30.4%で、午前8時台から9時台が7割超に上る。前回調査と大きな差はみられない。

就業形態別では、正社員・正職員は「午前8時台」から「午前9時台」が約8割を占めるが、その他の就業形態では数値がやや分散している。

図表Ⅲ-1-52 始業時刻



図表Ⅲ－１－５３ 始業時刻

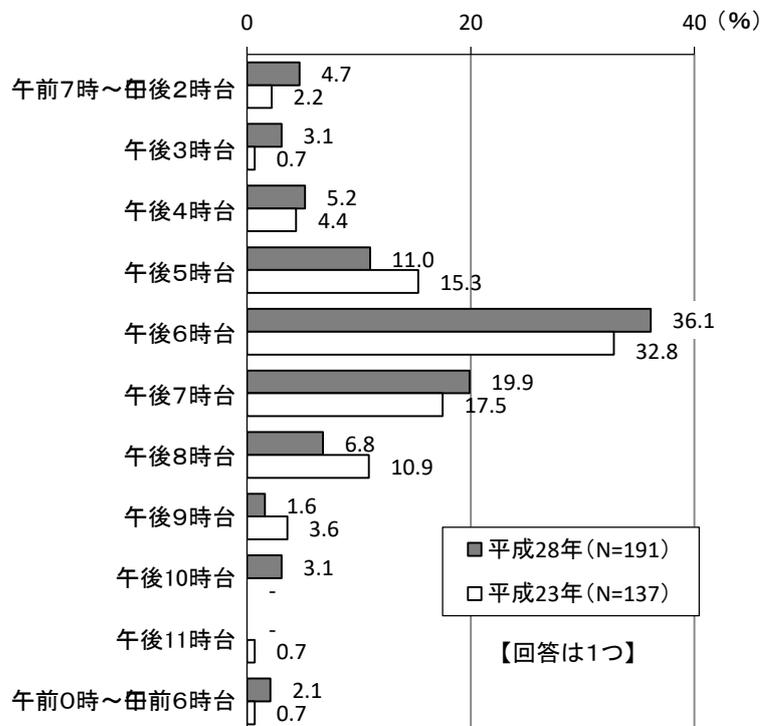
(%)

		標本数	午前0時～午前6時台	午前7時台	午前8時台	午前9時台	午前10時台	午前11時台	午後12時～午後1時台	午後2時～午後3時台	午後4時～午後5時台	午後6時～午後11時台	無回答
全体		191 100.0	5 2.6	14 7.3	81 42.4	58 30.4	11 5.8	- -	4 2.1	4 2.1	6 3.1	3 1.6	5 2.6
時系列	平成23年	137	0.7	5.8	44.5	27.7	7.3	2.2	1.5	-	0.7	0.7	8.8
就業形態別	自営業主	10	10.0	-	20.0	40.0	10.0	-	-	-	10.0	10.0	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	2.1	8.4	51.6	29.5	3.2	-	1.1	-	2.1	-	2.1
	派遣・契約社員	22	9.1	9.1	50.0	13.6	4.5	-	-	-	4.5	4.5	4.5
	パートタイマー	53	-	5.7	32.1	37.7	7.5	-	5.7	5.7	3.8	-	1.9
	臨時・日雇など	6	-	16.7	16.7	33.3	16.7	-	-	-	-	16.7	-
	内職	3	-	-	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-	33.3
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	1.0	4.2	50.3	29.6	6.1	1.5	1.9	0.7	0.8	0.9	3.0
	北九州市	1,135	1.1	5.7	46.3	30.4	7.8	1.2	1.7	0.4	0.7	1.4	3.3
	福岡市	990	1.3	3.9	36.4	39.1	10.3	1.6	1.8	1.0	0.5	0.9	3.1
	父子家庭	79	7.6	12.7	54.4	15.2	-	-	-	-	2.5	-	7.6

次に、帰宅時刻をみると、「午後6時台」が36.1%で最も高く、次いで「午後7時台」が19.9%、「午後5時台」が11.0%で続いている。

就業形態別にみると、正社員・正職員では帰宅時刻がやや遅い傾向がみられる。

図表Ⅲ－1－56 帰宅時刻



図表Ⅲ－1－57 帰宅時刻

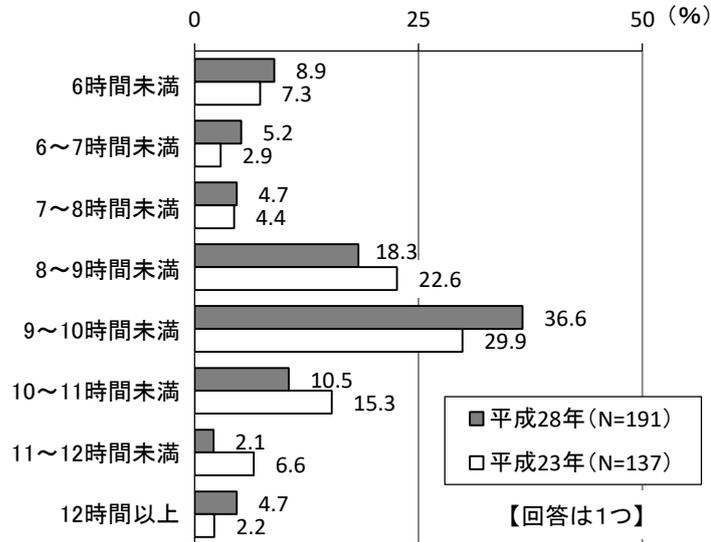
(%)

		標本数	午前7時～午後2時台	午後3時台	午後4時台	午後5時台	午後6時台	午後7時台	午後8時台	午後9時台	午後10時台	午後11時台	午前0時～午前6時台	無回答
全体		191	9	6	10	21	69	38	13	3	6	-	4	12
		100.0	4.7	3.1	5.2	11.0	36.1	19.9	6.8	1.6	3.1	-	2.1	6.3
時系列	平成23年	137	2.2	0.7	4.4	15.3	32.8	17.5	10.9	3.6	-	0.7	0.7	10.9
就業形態別	自営業主	10	10.0	-	10.0	10.0	30.0	-	10.0	-	10.0	-	10.0	10.0
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	2.1	2.1	-	8.4	38.9	27.4	11.6	1.1	3.2	-	1.1	4.2
	派遣・契約社員	22	4.5	4.5	4.5	13.6	31.8	18.2	4.5	-	4.5	-	4.5	9.1
	パートタイマー	53	9.4	3.8	15.1	13.2	35.8	11.3	-	3.8	1.9	-	-	5.7
	臨時・日雇など	6	-	16.7	-	16.7	33.3	16.7	-	-	-	-	-	16.7
	内職	3	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	2.8	2.0	4.3	20.8	36.6	17.1	7.3	2.4	1.0	0.3	0.7	4.6
	北九州市	1,135	3.1	1.9	5.7	17.2	34.8	20.1	7.4	1.8	1.5	0.2	1.1	5.3
	福岡市	990	2.5	2.0	4.3	14.3	33.6	22.0	7.4	4.6	2.1	0.5	1.3	5.2
	父子家庭	79	-	1.3	-	10.1	17.7	29.1	17.7	8.9	1.3	-	6.3	7.6

1日当たりの労働時間は、「9～10時間」が36.6%で最も高く、次いで「8～9時間」が18.3%、「10～11時間」が10.5%となっており、1日8時間以上働く人が7割強に上る。前回調査に比べ、「9～10時間」がやや高くなっている。

就業形態別では、正社員・正職員と派遣・契約社員で労働時間が長い傾向がみられる。

図表Ⅲ－1－54 1日の労働時間



図表Ⅲ－1－55 1日の労働時間

		標本数	6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8～9時間未満	9～10時間未満	10～11時間未満	11～12時間未満	12時間以上	無回答
全体		191	17	10	9	35	70	20	4	9	17
時系列 平成23年		137	7.3	2.9	4.4	22.6	29.9	15.3	6.6	2.2	8.8
就業形態別	自営業主	10	10.0	20.0	10.0	-	30.0	10.0	-	20.0	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	1.1	2.1	3.2	14.7	49.5	14.7	3.2	5.3	6.3
	派遣・契約社員	22	-	4.5	-	18.2	40.9	13.6	4.5	9.1	9.1
	パートタイマー	53	22.6	9.4	9.4	26.4	15.1	3.8	-	-	13.2
	臨時・日雇など	6	33.3	-	-	33.3	16.7	-	-	-	16.7
	内職	3	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	6.7	3.9	7.5	29.6	31.6	9.8	3.4	2.9	4.6
	北九州市	1,135	7.2	5.6	7.9	29.6	27.0	11.0	4.3	1.9	5.4
	福岡市	990	6.8	5.6	8.6	25.9	28.4	11.1	4.1	3.9	5.7
	父子家庭	79	-	1.3	1.3	10.1	26.6	13.9	16.5	19.0	8.9

(キ) 仕事による月収（手取り額）

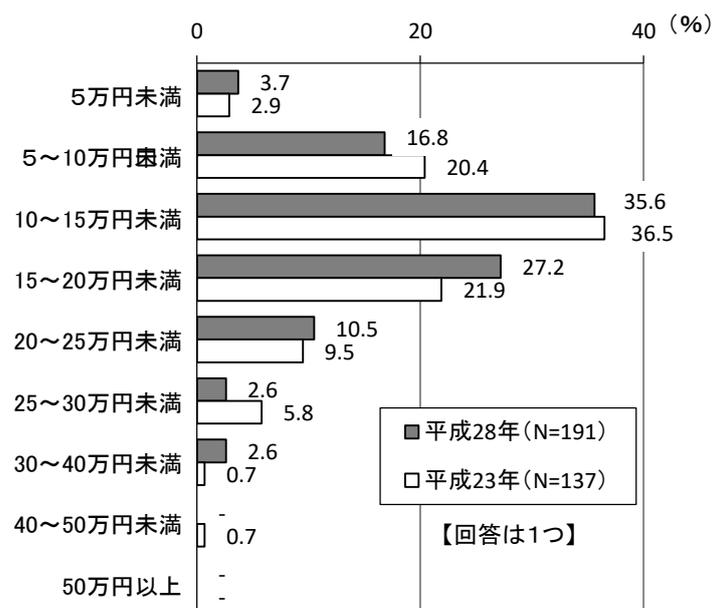
問9-6 あなたの仕事による収入は、平均すると1か月に手取りでどのくらいになりますか。賞与（ボーナス）など臨時的に支給されるものは除きます。（〇印は1つ）

仕事による1か月の収入（手取り額）は、「10～15万円未満」が35.6%で最も高く、次いで「15～20万円未満」が27.2%、「5～10万円未満」が16.8%となっており、仕事による1か月の収入（手取り額）が『20万円未満』の割合が83.3%に上っている。1か月の平均収入（手取り額）は、147,000円となっている。

前回調査と比べると、「5～10万円未満」がやや減少し、「15～20万円未満」が増加しており、平均月収（手取り額）は14万7千円である。

就業形態別でみると、パートタイマーでは『15万円未満』が9割以上を占めている。正社員・正職員では『15万円以上』の割合が高くなるが、一方で正社員・正職員でも『15万円未満』が約3割に上っている。

図表Ⅲ-1-58 仕事による月収（手取り額）



図表Ⅲ－１－５９ 仕事による月収（手取り額）

(%)

		標本数	5万円未満	5 ～ 10万円未満	10 ～ 15万円未満	15 ～ 20万円未満	20 ～ 25万円未満	25 ～ 30万円未満	30 ～ 40万円未満	40 ～ 50万円未満	50万円以上	無回答	平均手取り収入額 (万円)推計
全体		191 100.0	7 3.7	32 16.8	68 35.6	52 27.2	20 10.5	5 2.6	5 2.6	-	-	2 1.0	14.7
時系列	平成23年	137	2.9	20.4	36.5	21.9	9.5	5.8	0.7	0.7	-	1.5	14.5
就業 形態 別	自営業主	10	10.0	20.0	40.0	-	10.0	20.0	-	-	-	-	14.5
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	1.1	3.2	26.3	42.1	18.9	2.1	5.3	-	-	1.1	17.8
	派遣・契約社員	22	-	9.1	54.5	27.3	4.5	4.5	-	-	-	-	14.5
	パートタイマー	53	3.8	41.5	47.2	5.7	-	-	-	-	-	1.9	10.3
	臨時・日雇など	6	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	10.8
	内職	3	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	12.5
参考	県(三市を除く)	1,337	2.4	19.5	35.3	25.6	10.5	2.8	1.3	0.3	0.1	2.1	14.5
	北九州市	1,135	2.4	19.6	32.8	25.2	8.9	4.8	3.3	-	0.4	2.6	15.1
	福岡市	990	3.5	18.2	31.2	26.2	10.6	3.7	3.3	0.9	0.9	1.4	15.7
	父子家庭	79	1.3	2.5	2.5	13.9	24.1	25.3	16.5	5.1	3.8	5.1	27.0

※平均手取り収入額の推計は、「5万円未満」は2.5万円、「5～10万円未満」は7.5万円などとそれぞれ中間値を取り、「50万円以上」は60万円とし、無回答を除いた標本数で算出した。

(ク) 仕事上の不安や不満、悩み

問9-7 あなたは、いまの仕事続ける上で、不安や不満、悩みなどがありますか。

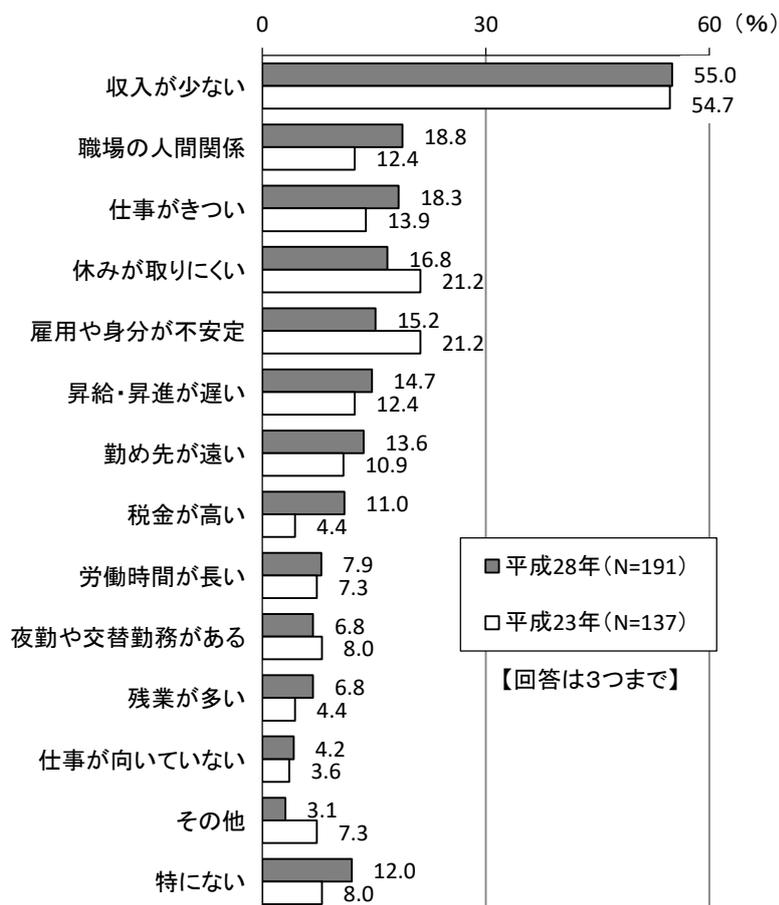
(○印は3つまで)

今の仕事を続ける上での不安や不満、悩みでは、「収入が少ない」が55.0%で最も高い。次いで「職場の人間関係」(18.8%)、「仕事がきつい」(18.3%)が2割弱で続いている。

前回調査に比べ、「休みが取りにくい」「雇用や身分が不安定」がやや減少しているが、「職場の人間関係」「仕事がきつい」などは増加している。

就業形態別でみると、正社員・正職員では「昇給・昇進が遅い」「職場の人間関係」「税金が高い」が、派遣・契約社員では「雇用や身分が不安定」「収入が少ない」「仕事がきつい」が、パートタイマーでは「休みが取りにくい」「職場の人間関係」がそれぞれ相対的に高くなっている。

図表Ⅲ-1-60 仕事上の不安や不満、悩み [複数回答]



図表Ⅲ－１－61 仕事上の不安や不満、悩み〔複数回答〕

(%)

		標本数	勤め先が遠い	労働時間が長い	夜勤や交替勤務がある	残業が多い	休みが取りにくい	収入が少ない	税金が高い	雇用や身分が不安定	昇給・昇進が遅い	仕事に向いていない	仕事がかきつい	職場の人間関係	その他	特にない	無回答
全体		191 100.0	26 13.6	15 7.9	13 6.8	13 6.8	32 16.8	105 55.0	21 11.0	29 15.2	28 14.7	8 4.2	35 18.3	36 18.8	6 3.1	23 12.0	1 0.5
時系列	平成23年	137	10.9	7.3	8.0	4.4	21.2	54.7	4.4	21.2	12.4	3.6	13.9	12.4	7.3	8.0	2.9
就業 形態別	自営業主	10	10.0	20.0	-	-	10.0	70.0	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	17.9	9.5	12.6	8.4	13.7	52.6	14.7	5.3	22.1	4.2	21.1	22.1	2.1	12.6	-
	派遣・契約社員	22	18.2	13.6	4.5	18.2	13.6	63.6	4.5	31.8	13.6	9.1	27.3	9.1	-	9.1	-
	パートタイマー	53	5.7	1.9	-	-	26.4	56.6	7.5	22.6	5.7	1.9	15.1	24.5	5.7	9.4	1.9
	臨時・日雇など	6	16.7	-	-	-	16.7	16.7	-	66.7	16.7	16.7	16.7	-	-	16.7	-
	内職	3	-	-	-	-	-	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
参考	県(三市を除く)	1,337	10.5	7.7	7.4	6.7	19.7	55.9	9.4	17.6	13.3	4.0	14.7	13.7	6.7	11.5	2.3
	北九州市	1,135	8.5	8.0	7.3	7.4	19.8	50.7	9.1	15.9	13.3	2.9	15.9	14.6	4.2	13.7	2.5
	福岡市	990	8.7	7.7	5.4	7.6	20.5	55.1	9.2	18.7	12.0	3.2	15.3	12.3	5.9	12.5	1.7
	父子家庭	79	6.3	10.1	10.1	10.1	22.8	36.7	19.0	10.1	10.1	2.5	8.9	8.9	6.3	17.7	5.1

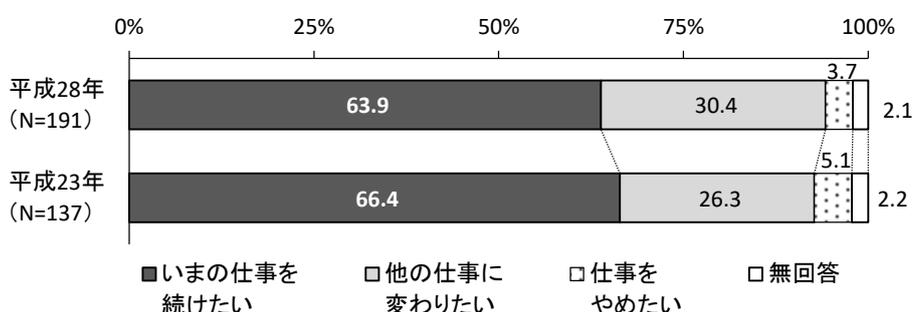
(ケ) 現在の仕事の継続意向

問9-8 あなたは、いまの仕事を今後も続けたいと思いますか。(〇印は1つ)

現在の仕事の継続意向をみると、「いまの仕事を続けたい」が63.9%と最も高く、6割以上の人が現在の仕事を続けたいと考えている。一方「他の仕事に変わりたい」が30.4%、「仕事をやめたい」が3.7%となっており、転職したい人も約3割に上っている。

就業形態別にみると、正社員・正職員では「いまの仕事を続けたい」が高く、派遣・契約社員とパートタイマーでは「他の仕事に変わりたい」がやや高くなっている。

図表Ⅲ-1-62 現在の仕事の継続意向



図表Ⅲ-1-63 現在の仕事の継続意向

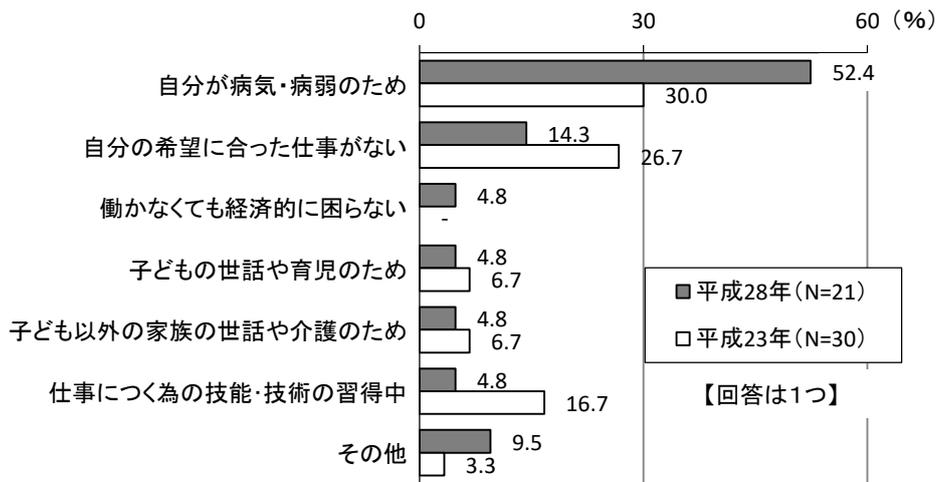
		標本数	をい 続ま けの た仕 い事	変他 わの り仕 た事 いに	た仕 い事 をや め	無 回 答
全体		191 100.0	122 63.9	58 30.4	7 3.7	4 2.1
時系列	平成23年	137	66.4	26.3	5.1	2.2
就業 形 態 別	自営業主	10	90.0	-	-	10.0
	家族従業者□	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	65.3	27.4	6.3	1.1
	派遣・契約社員	22	59.1	36.4	-	4.5
	パートタイマー	53	58.5	37.7	1.9	1.9
	臨時・日雇など	6	50.0	50.0	-	-
	内職	3	100.0	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-
	無回答	2	50.0	50.0	-	-
参 考	県(三市を除く)	1,337	61.6	31.5	3.7	3.2
	北九州市	1,135	63.3	29.2	4.6	2.9
	福岡市	990	62.9	30.2	4.7	2.1
	父子家庭	79	75.9	17.7	1.3	5.1

(コ) 就業していない理由

問9-9 あなたが、いま仕事を持っていないのは主にどんな理由からですか。(〇印は1つ)

現在仕事を持っていない人の、就業していない理由は、「自分が病気・病弱のため」が 52.4%で最も高く、次いで「自分の希望に合った仕事がない」が 14.3%となっている。
 前回調査に比べ、「自分が病気・病弱のため」が大幅に増加している。

図表Ⅲ-1-64 就業していない理由



図表Ⅲ-1-65 就業していない理由

		標本数	働かなくなっても困らない	自分が病気・病弱のため	子どもの世話や育児のため	家族の世話や介護のため	自分の希望に合った仕事がない	技能・技術の習得中	その他	無回答
全体		21	1	11	1	1	3	1	2	1
		100.0	4.8	52.4	4.8	4.8	14.3	4.8	9.5	4.8
時系列	平成23年	30	-	30.0	6.7	6.7	26.7	16.7	3.3	10.0
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	35～39歳	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	40～44歳	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	45～49歳	10	10.0	70.0	-	-	10.0	-	10.0	-
	50歳以上	7	-	42.9	14.3	14.3	14.3	-	-	14.3
	無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-
参考	県(三市を除く)	172	2.9	39.0	13.4	6.4	11.6	15.7	7.0	4.1
	北九州市	154	1.9	40.3	16.2	6.5	10.4	10.4	12.3	1.9
	福岡市	147	1.4	49.0	19.0	4.8	9.5	4.8	7.5	4.1
	父子家庭	7	-	71.4	28.6	-	-	-	-	-

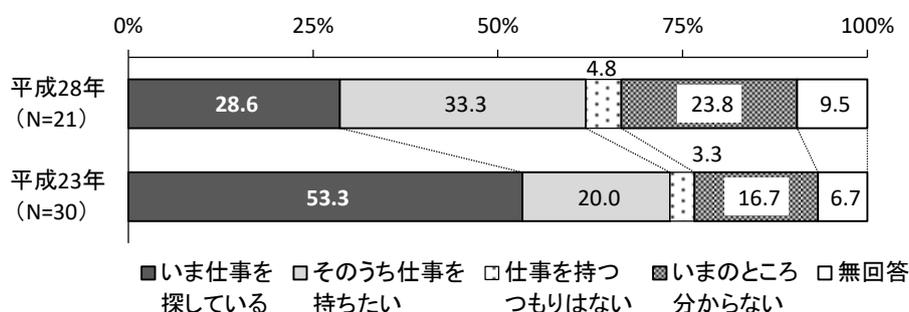
(サ) 今後の就業意向

問9-10 あなたは今後、仕事を持ちたいと思いますか。(〇印は1つ)

現在仕事を持っていない人の、今後の就業意向としては、「そのうち仕事を持ちたい」が33.3%で最も高く、「いま仕事を探している」が28.6%を合わせて、現在仕事を持っていない人の6割以上が今後就業したいと考えている。「仕事を持つつもりはない」は4.8%と少ない。

前回調査に比べて、「いま仕事を探している」が減少し、「そのうち仕事を持ちたい」「いまのところ分からない」が増加しているが、本人の病気等のために仕事を持っていない人が前回より増加したためと考えられる。

図表Ⅲ-1-66 今後の就業意向



図表Ⅲ-1-67 今後の就業意向

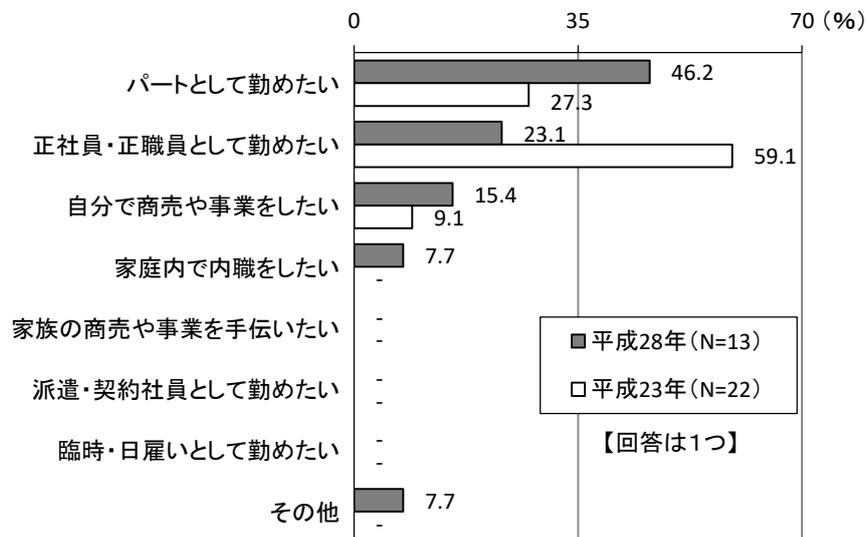
		標本数	探いましまて仕事を	い事をの持ちちちた仕	いつ仕事を持ちなつ	いろいろまのらとなこ	無回答
全体		21 100.0	6 28.6	7 33.3	1 4.8	5 23.8	2 9.5
時系列	平成23年	30	53.3	20.0	3.3	16.7	6.7
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-
	30~34歳	-	-	-	-	-	-
	35~39歳	1	100.0	-	-	-	-
	40~44歳	2	50.0	50.0	-	-	-
	45~49歳	10	30.0	20.0	-	40.0	10.0
	50歳以上	7	-	57.1	14.3	14.3	14.3
	無回答	1	100.0	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	172	39.0	34.3	3.5	17.4	5.8
	北九州市	154	32.5	47.4	0.6	16.9	2.6
	福岡市	147	32.0	40.8	1.4	23.1	2.7
	父子家庭	7	57.1	42.9	-	-	-

問9-10-1（仕事を探している、仕事を持ちたいと答えた方に）では、どんな仕事を持ちたいと思いますか。（〇印は1つ）

現在仕事を持っていないが就業意向がある人が希望する仕事としては、「パートとして勤めたい」が46.2%、「正社員、正職員として勤めたい」が23.1%、「自分で商売や事業をしたい」が15.4%などとなっている。

前回調査と比べると、「正社員、正職員として勤めたい」が大幅に減少し、「パートとして勤めたい」が増加している。

図表Ⅲ-1-68 希望する就業形態



図表Ⅲ-1-69 希望する就業形態

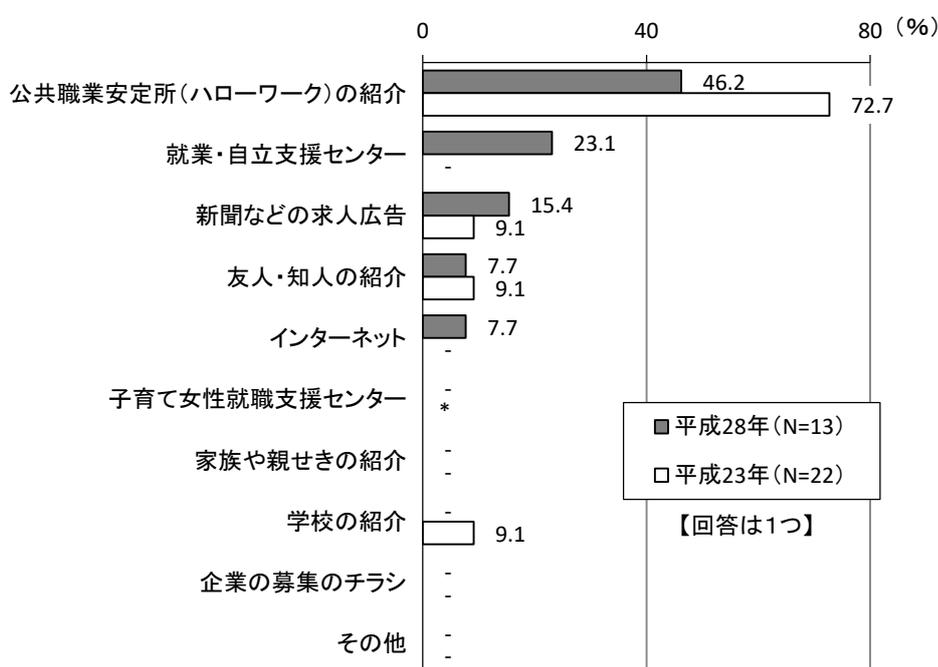
		標本数	を自分で商売や事業	を家族の商売や事業	して社勤め・正職員と	して派遣勤め・契約社員と	たいパートとして勤め	て臨時・日雇いとし	た家庭内で内職をし	その他	無回答
全体		13	2	-	3	-	6	-	1	1	-
		100.0	15.4	-	23.1	-	46.2	-	7.7	7.7	-
時系列	平成23年	22	9.1	-	59.1	-	27.3	-	-	-	4.5
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	35～39歳	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	40～44歳	2	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	45～49歳	5	-	-	20.0	-	80.0	-	-	-	-
	50歳以上	4	25.0	-	-	-	50.0	-	25.0	-	-
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	126	6.3	-	43.7	1.6	42.9	-	2.4	0.8	2.4
	北九州市	123	5.7	-	43.1	3.3	37.4	1.6	7.3	0.8	0.8
	福岡市	107	7.5	-	31.8	3.7	37.4	0.9	8.4	2.8	7.5
	父子家庭	7	-	-	71.4	14.3	14.3	-	-	-	-

問9-10-2（仕事を探している、仕事を持ちたいと答えた方に）主にどのような方法で仕事を探しますか。（○印は1つ）

また、現在仕事を持っていないが就業意向がある人の求職方法は、「公共職業安定所（ハローワーク）の紹介」が46.2%で最も高く、次いで「就業・自立支援センター」が23.1%、「新聞などの求人広告」15.4%となっている。

前回調査に比べると、「公共職業安定所（ハローワーク）の紹介」が大幅に減少し、「就業・自立支援センター」が増加している。

図表Ⅲ-1-70 仕事を探す方法



*は平成23年にはない項目

図表Ⅲ-1-71 仕事を探す方法

(%)

	標本数	公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	就業・自立支援センター	子育て女性就職支援センター	友人・知人の紹介	家族や親せきの紹介	学校の紹介	新聞などの求人広告	企業の募集のチラシ	インターネット	その他	無回答	
全体	13	6	3	-	1	-	-	2	-	1	-	-	
	100.0	46.2	23.1	-	7.7	-	-	15.4	-	7.7	-	-	
時系列	平成23年	22	72.7	-	9.1	-	9.1	9.1	-	-	-	-	
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30～34歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	35～39歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	40～44歳	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	
	45～49歳	5	60.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	
	50歳以上	4	-	50.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
参考	県(三市を除く)	126	43.7	4.0	2.4	4.0	1.6	4.8	11.9	5.6	16.7	4.8	0.8
	北九州市	123	36.6	2.4	1.6	6.5	-	4.1	14.6	5.7	13.8	4.9	0.8
	福岡市	107	39.3	5.6	1.9	5.6	0.9	-	7.5	4.7	22.4	8.4	3.7
	父子家庭	7	28.6	-	...	28.6	-	-	-	-	42.9	-	-

(3) 資格や技術の保有状況と今後取得したい資格や技術

(ア) 現在持っている資格や技術

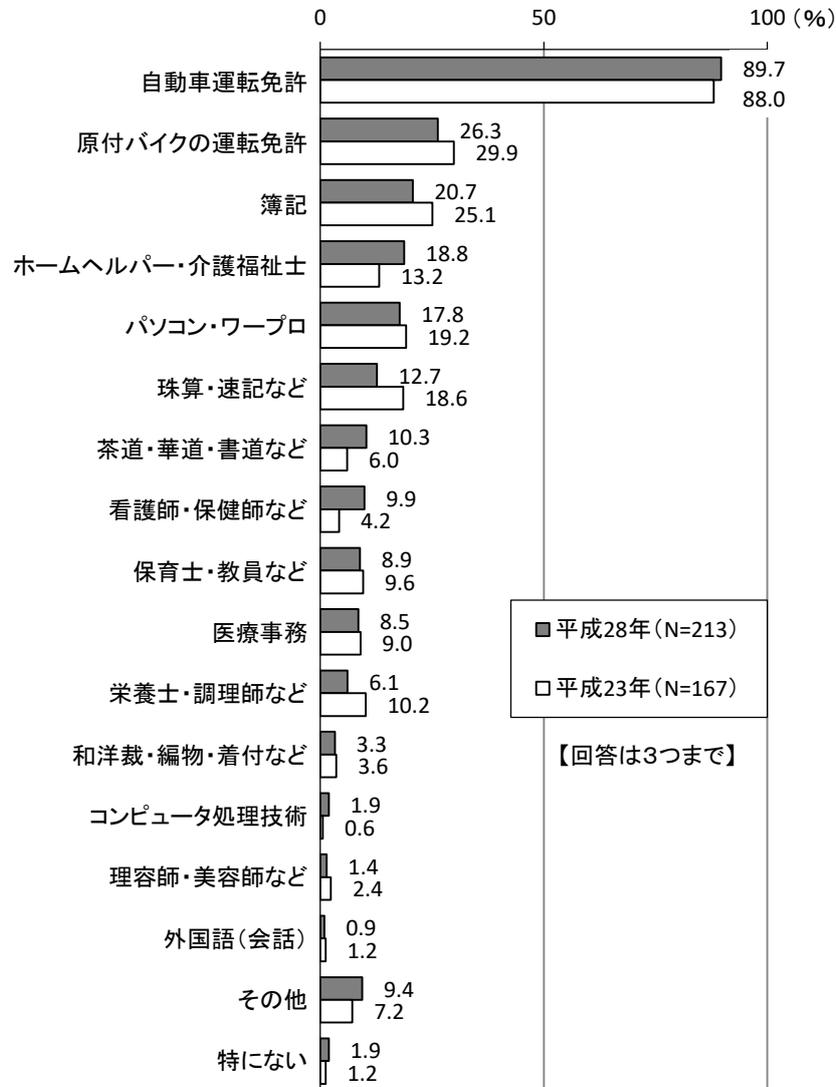
問 10 あなたはいま、どんな資格や技術を持っていますか。そのなかで、現在の仕事に役立っているものはありますか。また、今後新たに取得したい資格や技術はありますか。

(○印はそれぞれ3つまで)

現在持っている資格や技術は、「自動車運転免許」が 89.7%で最も高く、次いで「原付バイクの運転免許」が 26.3%、「簿記」が 20.7%、「ホームヘルパー・介護福祉士」が 18.8%、「パソコン・ワープロ」が 17.8%で上5位の項目となっている。

前回調査と比べると、上位項目に大きな変化はみられない。

図表Ⅲ－1－72 現在持っている資格や技術 [複数回答]



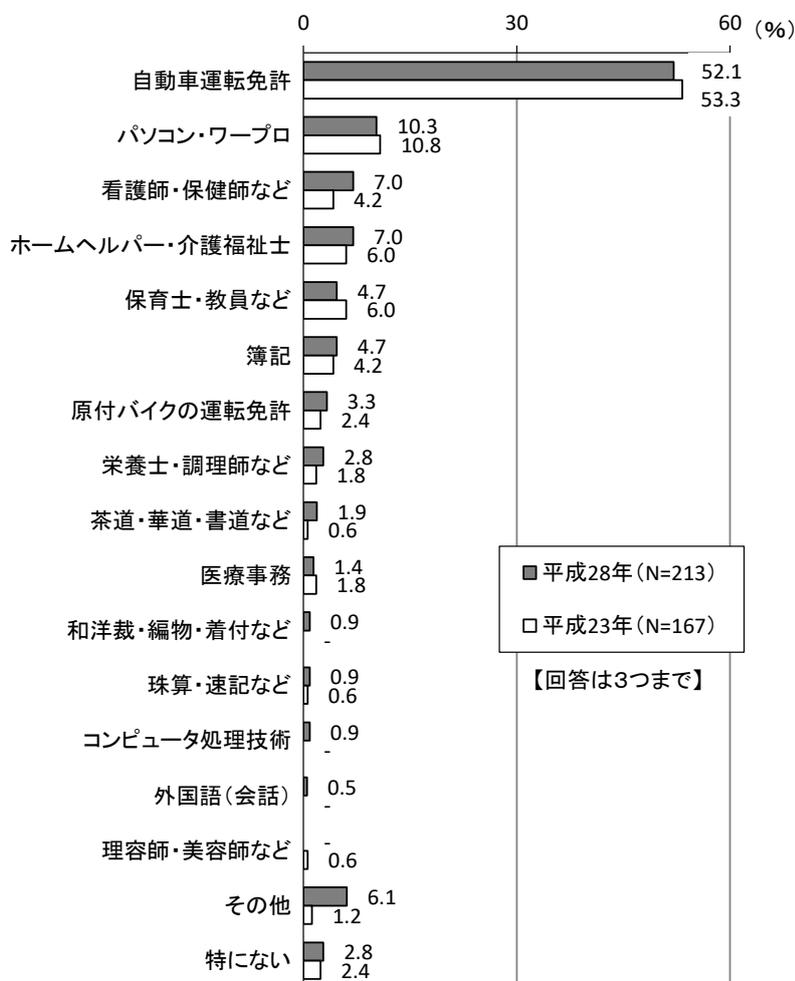
図表Ⅲ－１－73 現在持っている資格や技術〔複数回答〕

		(%)																				
		標本数	自動車運転免許	原付バイクの運転	栄養士・調理師など	保育士・教員など	看護師・保健師など	医療事務	美容師・美容師など	和洋裁・編物・着付など	茶道・華道・書道など	簿記	珠算・速記など	パソコン・ワープロ	技術	コンピュータ処理	外国語(会話)	介護福祉士	ホームヘルパー	その他	特になし	無回答
全体		213 100.0	191 89.7	56 26.3	13 6.1	19 8.9	21 9.9	18 8.5	3 1.4	7 3.3	22 10.3	44 20.7	27 12.7	38 17.8	4 1.9	2 0.9	40 18.8	20 9.4	4 1.9	4 1.9	6 2.8	
時系列	平成23年	167	88.0	29.9	10.2	9.6	4.2	9.0	2.4	3.6	6.0	25.1	18.6	19.2	0.6	1.2	13.2	7.2	1.2	6.0		
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30～34歳	9	100.0	44.4	-	22.2	22.2	-	-	11.1	11.1	22.2	11.1	44.4	22.2	-	11.1	11.1	-	-	-	
	35～39歳	21	95.2	28.6	4.8	9.5	14.3	9.5	-	-	14.3	23.8	4.8	28.6	-	-	23.8	4.8	-	-	-	
	40～44歳	47	87.2	23.4	4.3	10.6	14.9	6.4	2.1	-	12.8	17.0	8.5	17.0	-	-	19.1	6.4	-	-	4.3	
	45～49歳	86	87.2	29.1	8.1	5.8	8.1	8.1	1.2	5.8	7.0	22.1	15.1	17.4	2.3	2.3	17.4	10.5	3.5	2.3		
	50歳以上	48	91.7	18.8	6.3	10.4	4.2	12.5	2.1	2.1	12.5	20.8	16.7	10.4	-	-	18.8	10.4	2.1	4.2		
	無回答	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-		
参考	県(三市を除く)	1,512	87.6	30.1	5.5	6.0	12.4	8.2	2.8	2.4	4.6	20.4	10.6	21.0	3.8	2.9	17.2	7.2	2.6	4.6		
	北九州市	1,291	83.2	19.9	5.3	7.6	12.2	9.5	1.5	1.5	4.7	23.1	14.2	20.1	4.6	2.8	16.3	6.8	2.6	6.9		
	福岡市	1,141	82.4	27.5	4.3	7.4	7.5	7.9	2.1	2.8	5.7	19.9	9.6	20.7	4.5	6.1	13.0	8.9	4.9	5.1		

(イ) 現在役に立っている資格や技術

持っている資格や技術のうち、現在の仕事に役立っているものは、「自動車運転免許」が52.1%で最も高く、次いで「パソコン・ワープロ」が10.3%、「看護師・保健師など」「ホームヘルパー・介護福祉士」がともに7.0%などとなっている。前回調査と比べても大きな変化はみられない。

図表Ⅲ-1-74 現在役に立っている資格や技術 [複数回答]



図表Ⅲ-1-75 現在役に立っている資格や技術 [複数回答]

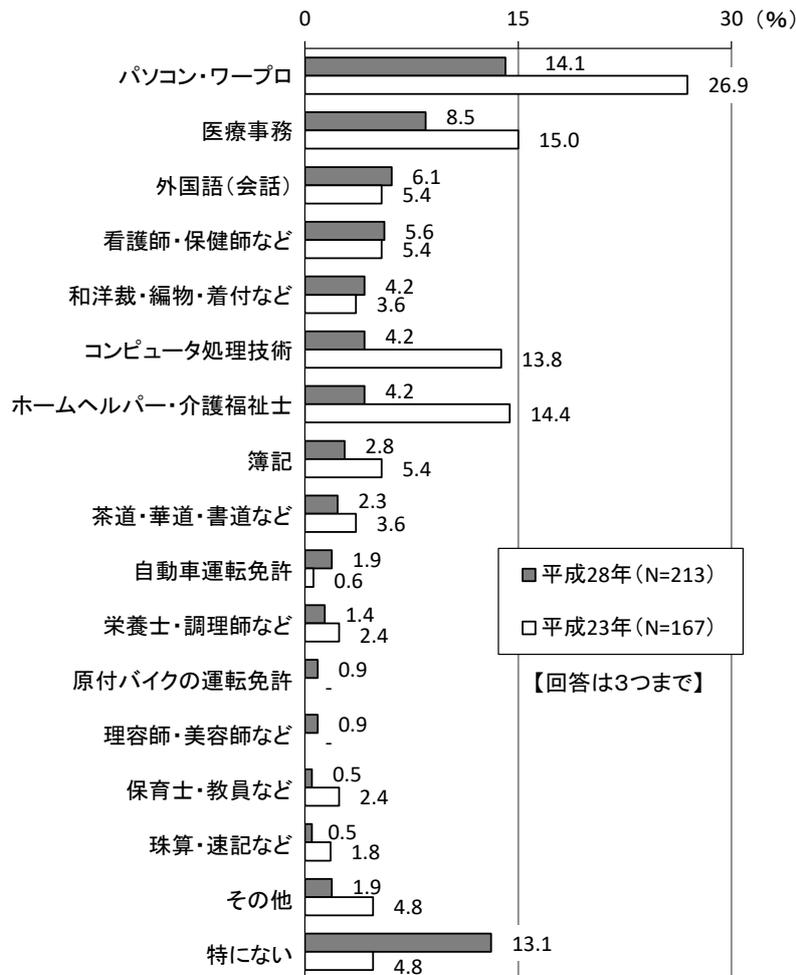
		標本数	自動車運転免許	原付バイクの運転	ど栄養士・調理師など	保育士・教員など	ど看護師・保健師など	医療事務	ど理容師・美容師など	和洋裁・編物・着付など	茶道・華道・書道など	簿記	珠算・速記など	パソコン・ワープロ	技術	コンピュータ処理	外国語(会話)	介護福祉士	ホームヘルパー	その他	特になし	無回答
全体		213 100.0	111 52.1	7 3.3	6 2.8	10 4.7	15 7.0	3 1.4	-	2 0.9	4 1.9	10 4.7	2 0.9	22 10.3	2 0.9	22 10.3	1 0.5	15 7.0	13 6.1	6 2.8	70 32.9	
時系列	平成23年	167	53.3	2.4	1.8	6.0	4.2	1.8	0.6	-	0.6	4.2	0.6	10.8	-	-	-	6.0	1.2	2.4	35.3	
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	88.9	11.1	-	11.1	22.2	-	-	-	-	-	-	22.2	11.1	-	-	-	11.1	-	-	-
	35～39歳	21	61.9	4.8	4.8	4.8	9.5	-	-	-	-	-	-	19.0	-	-	-	4.8	-	4.8	19.0	
	40～44歳	47	57.4	4.3	2.1	6.4	12.8	-	-	-	6.4	6.4	-	12.8	-	-	-	8.5	6.4	2.1	29.8	
	45～49歳	86	44.2	1.2	3.5	3.5	4.7	2.3	-	2.3	1.2	5.8	2.3	7.0	1.2	1.2	7.0	5.8	3.5	37.2		
	50歳以上	48	50.0	2.1	2.1	4.2	2.1	2.1	-	-	-	4.2	-	8.3	-	-	8.3	6.3	2.1	39.6		
無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0		
参考	県(三市を除く)	1,512	51.5	1.9	2.4	2.6	10.2	2.2	1.2	0.8	0.7	4.4	1.5	10.4	1.1	1.3	7.9	4.0	2.7	36.0		
	北九州市	1,291	45.5	0.7	2.1	3.9	9.4	2.6	0.9	0.2	0.8	4.5	1.6	10.5	2.2	0.9	7.5	3.3	3.1	38.7		
	福岡市	1,141	33.9	2.1	1.4	3.5	6.0	1.9	0.8	0.4	1.0	4.4	1.0	10.9	2.0	2.5	6.4	4.5	4.6	44.6		

(ウ) 今後取得したい資格や技術

今後取得したい資格や技術は、「パソコン・ワープロ」が14.1%で最も高い。次いで「医療事務」(8.5%)、「外国語(会話)」(6.1%)、「看護師・保健師など」(5.6%)が続いているが、いずれも1割以下となっている。

前回調査に比べると、「パソコン・ワープロ」「医療事務」「ホームヘルパー・介護福祉士」「コンピュータ処理技術」が低下し、「特にない」が増加している。

図表Ⅲ-1-76 今後取得したい資格や技術 [複数回答]



図表Ⅲ-1-77 今後取得したい資格や技術 [複数回答]

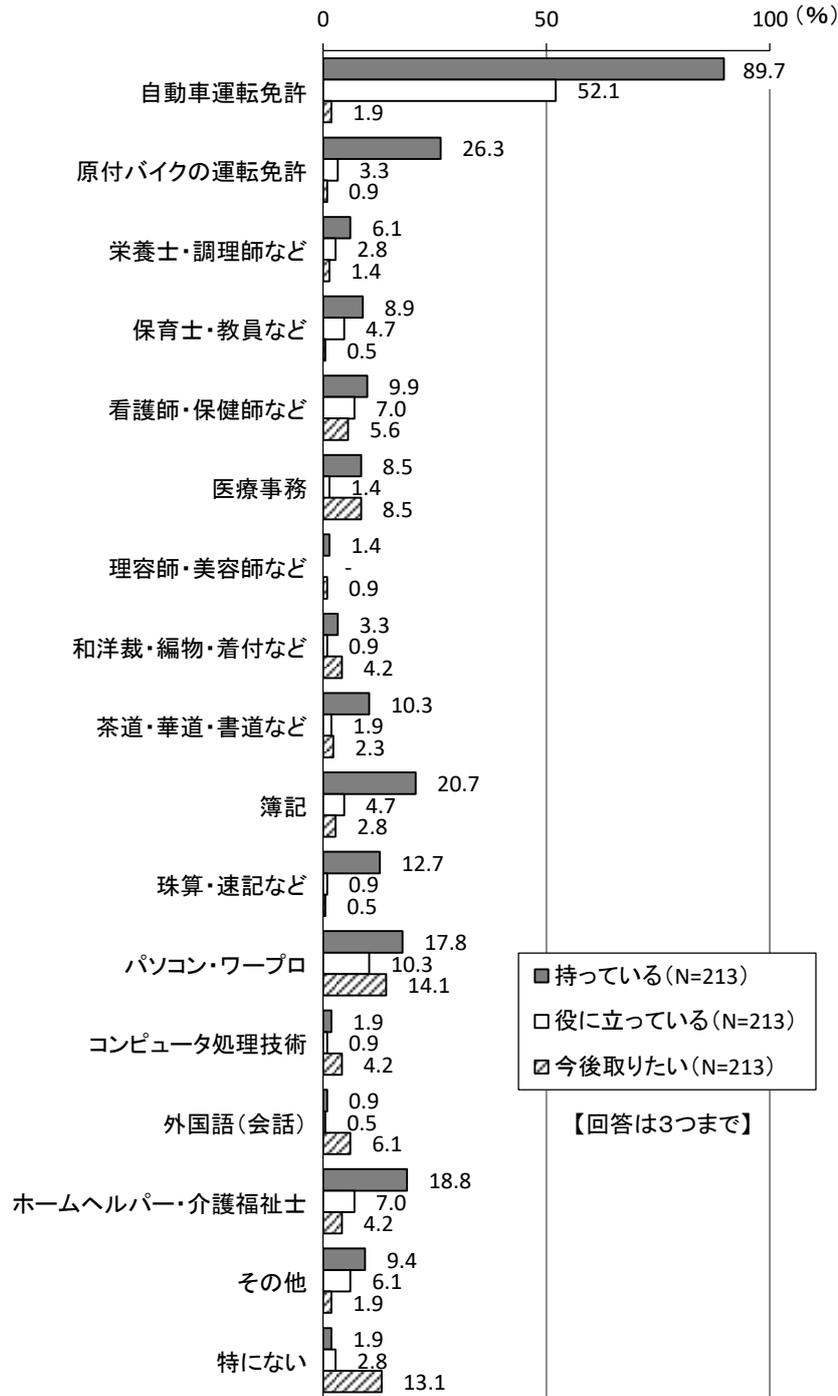
		標本数	自動車運転免許	原付バイクの運転免許	栄養士・調理師など	保育士・教員など	看護師・保健師など	医療事務	理容師・美容師など	付など	和洋裁・編物・着	茶道・華道・書道	簿記	珠算・速記など	パソコン・ワープロ	コンピュータ処理技術	外国語(会話)	ホームヘルパー・介護福祉士	その他	特にない	無回答
全体		213	4	2	3	1	12	18	2	9	5	6	1	30	9	13	9	4	28	102	
時系列		100.0	1.9	0.9	1.4	0.5	5.6	8.5	0.9	4.2	2.3	2.8	0.5	14.1	4.2	6.1	4.2	1.9	13.1	47.9	
平成23年		167	0.6	-	2.4	2.4	5.4	15.0	-	3.6	3.6	5.4	1.8	26.9	13.8	5.4	14.4	4.8	4.8	37.7	
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30~34歳	9	-	-	-	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	22.2	-	-	22.2	44.4
	35~39歳	21	4.8	-	9.5	-	9.5	9.5	-	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	14.3	4.8	9.5	-	4.8	14.3	33.3
	40~44歳	47	-	-	-	2.1	10.6	8.5	2.1	6.4	-	6.4	-	6.4	19.1	10.6	2.1	8.5	2.1	6.4	44.7
	45~49歳	86	3.5	2.3	-	-	4.7	10.5	1.2	3.5	4.7	2.3	-	10.5	1.2	4.7	2.3	2.3	12.8	52.3	
参考	50歳以上	48	-	-	2.1	-	2.1	4.2	-	4.2	-	-	-	16.7	2.1	6.3	6.3	-	18.8	50.0	
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	
	県(三市を除く)	1,512	2.9	0.5	3.9	2.2	5.6	9.7	0.9	2.3	1.2	4.5	0.5	16.0	5.0	7.3	8.1	3.6	8.6	47.8	
	北九州市	1,291	4.4	0.8	4.9	2.6	4.7	8.9	0.4	1.9	2.0	3.0	0.5	15.5	6.2	6.9	6.6	3.3	7.6	50.7	
福岡市	1,141	5.9	1.1	3.2	2.2	3.2	7.2	0.4	2.5	1.8	4.7	0.1	16.7	6.1	9.8	7.7	3.4	8.8	46.5		

(エ) 現在持っている、役に立っている、今後取得したい資格や技術の比較

現在持っている資格や技術では「自動車運転免許」が最も高く、役に立っている資格や技術でも「自動車運転免許」が高くなっている。

「パソコン・ワープロ」は資格や技術を持っている人の半数以上が役に立っていると回答しており、今後の取得意向も高い項目である。「看護師・保健師」も資格や技術を持っている人の半数以上が役に立っていると回答している。

図表Ⅲ－１－78 現在持っている、役に立っている、今後取得したい資格や技術の比較 [複数回答]

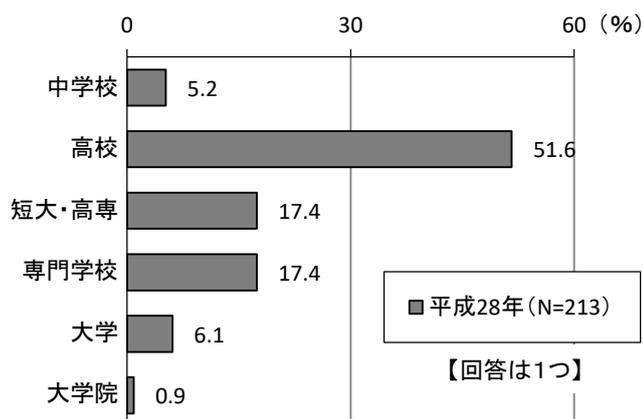


(オ) 学歴

問 11 あなたの最終学歴は、次の中のどれにあてはまりますか。(○印は1つ)

回答者の最終学歴は、「高校」が 51.6%で最も高く、「短大・高専」「専門学校」がともに 17.4%、「大学が」 6.1%と続いている。

図表Ⅲ－1－79 最終学歴



図表Ⅲ－1－80 最終学歴

		標本数	中学校	高校	短大・高専	専門学校	大学	大学院	無回答
全体		213	11	110	37	37	13	2	3
		100.0	5.2	51.6	17.4	17.4	6.1	0.9	1.4
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	11.1	33.3	22.2	33.3	-	-	-
	35～39歳	21	-	61.9	19.0	14.3	4.8	-	-
	40～44歳	47	8.5	40.4	12.8	19.1	10.6	4.3	4.3
	45～49歳	86	2.3	52.3	17.4	22.1	5.8	-	-
	50歳以上	48	6.3	60.4	20.8	6.3	4.2	-	2.1
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	11.2	44.4	14.6	21.0	7.3	0.3	1.3
	北九州市	1,291	12.6	44.1	14.3	18.0	9.1	0.4	1.5
	福岡市	1,141	11.9	38.5	17.5	17.7	11.7	1.2	1.4
	父子家庭	86	9.3	53.5	2.3	10.5	15.1	3.5	5.8

5. 住宅の状況

(1) 現在の住宅に住むようになった時期と前住地

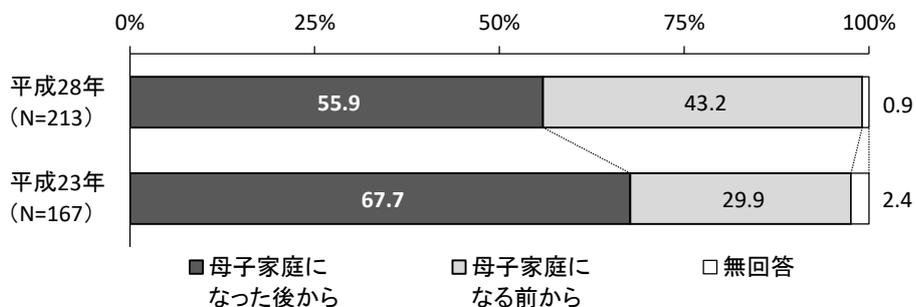
問 12 あなたが、いまの住宅に住みはじめたのはいつ頃からですか。(〇印は1つ)

現在の住居に住むようになった時期は、「母子家庭になった後から」が 55.9%、「母子家庭になる前から」が 43.2%となっており、母子家庭になった後で転居をした人がやや多い。

前回調査に比べると、「母子家庭になった後から」が減少し、「母子家庭になる前から」が増加している。

母子家庭になった理由別でみると、死別の場合は「母子家庭になる前から」が7割弱と高くなっている。

図表Ⅲ－1－81 現在の住宅に住むようになった時期



図表Ⅲ－1－82 現在の住宅に住むようになった時期

		標本数	な母 った 子家 庭に 後か ら	る母 前子 か家 庭に な	無 回 答
全体		213 100.0	119 55.9	92 43.2	2 0.9
時系列	平成23年	167	67.7	29.9	2.4
か母 ら子 の家 庭に 経過 にな る年 数別	1年未満	7	14.3	85.7	-
	1～2年未満	5	20.0	80.0	-
	2～3年未満	9	44.4	55.6	-
	3～4年未満	7	28.6	71.4	-
	4～5年未満	5	40.0	60.0	-
	5～10年未満	55	40.0	58.2	1.8
	10～15年未満	84	69.0	31.0	-
	15年以上	34	70.6	29.4	-
	無回答	7	71.4	14.3	14.3
理 由 別	死別	34	32.4	67.6	-
	離婚	153	59.5	39.9	0.7
	その他の生別	20	65.0	35.0	-
	無回答	6	66.7	16.7	16.7
参 考	県(三市を除く)	1,512	68.4	31.0	0.7
	北九州市	1,291	66.6	32.7	0.7
	福岡市	1,141	69.9	29.2	1.0
	父子家庭	86	26.7	69.8	3.5

問 12-1 (母子家庭になった後、いまの住宅に住んでいる方に) いまの住宅に住む前は、どちらに住んでいましたか。久留米市内、市外のいずれかを選び、市外の場合は都道府県名・市町村名を記入してください。(○印は1つ)

母子家庭になった後に現在の住宅に住むようになった人の前住地は、「久留米市内」が 74.8%、「市外」が 24.4%で、前回調査から大きな変化はみられない。

「市外」では「八女市」が 4 人、「福岡市」が 3 人、「太宰府市」「朝倉市」が各々 2 人で、福岡地域からの転居が多い。

図表Ⅲ-1-83 前住地

		標本数	福岡地域	筑後地域	久留米市内		筑豊地域	北九州地域	県外	無回答
					久留米市内	久留米市以外				
全体		119 100.0	10 8.4	97 81.5	89 74.8	8 6.7	1 0.8	1 0.8	9 7.6	1 0.8
時系列	平成23年	113	6.2	86.7	72.6	14.2	-	0.9	5.3	0.9

前住地		人数
筑後地域	八女市	4
	大牟田市	1
	柳川市	1
	うきは市	1
	八女郡広川町	1
福岡地域	福岡市	3
	太宰府市	2
	朝倉市	2
	筑紫野市	1
	宗像市	1
	筑紫郡那珂川町	1
筑豊地域	飯塚市	1
北九州地域	北九州市	1
県外	長崎県	2
	千葉県	1
	神奈川県	1
	島根県	1
	広島県	1
	佐賀県	1
	熊本県	1
宮崎県	1	

(2) 住居形態

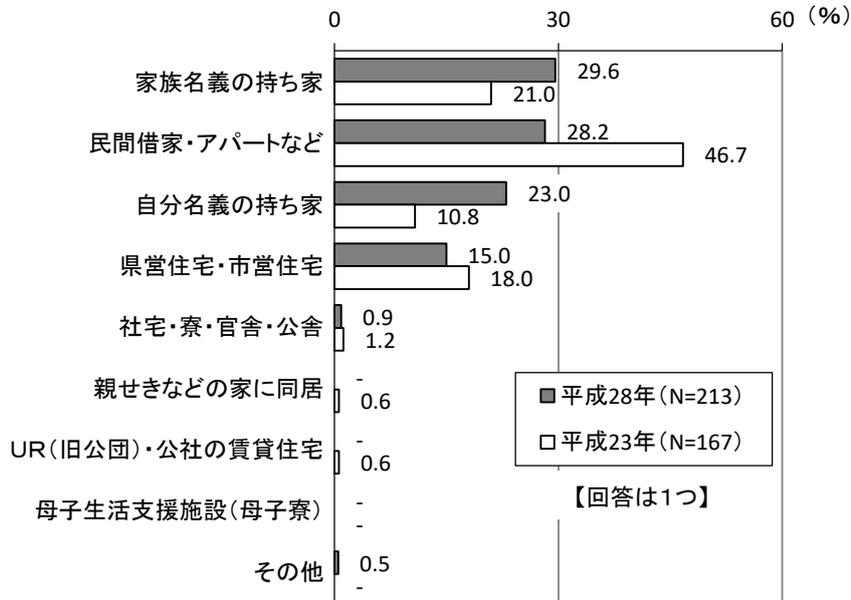
問 13 あなたのいまの住居形態は、次の中のどれにあてはまりますか。(○印は1つ)

現在の住居の形態は、「家族名義の持ち家」が 29.6%で最も高く、「民間借家・アパートなど」が 28.2%、「自分名義の持ち家」が 23.0%、「県営住宅・市営住宅」が 15.0%と続いている。

前回調査と比べると、「民間借家・アパートなど」が大幅に減少し、「自分名義の持ち家」「家族名義の持ち家」が増加しており、持ち家居住率が高くなっている。

母子家庭になった理由別でみると、死別の場合「自分名義の持ち家」が 55.9%と高く、家族名義の持ち家と合わせた『持ち家』居住率が8割台半ばに上っている。離婚の場合、『持ち家』の割合が減少し、「民間借家・アパートなど」が 33.3%と高くなっている。

図表Ⅲ－1－84 住居形態



図表Ⅲ－1－85 住居形態

		標本数	自分名義の持ち家	家族名義の持ち家	同居親せきなどの家に	県営住宅・市営住宅	UR(旧公団)・会社の賃貸住宅	民間借家・アパートなど	社宅・寮・官舎・公舎	(母子生活支援施設(母子寮))	その他	無回答
全体		213	49	63	-	32	-	60	2	-	1	6
		100.0	23.0	29.6	-	15.0	-	28.2	0.9	-	0.5	2.8
時系列	平成23年	167	10.8	21.0	0.6	18.0	0.6	46.7	1.2	-	-	1.2
理由別	死別	34	55.9	29.4	-	-	-	8.8	-	-	-	5.9
	離婚	153	17.0	30.1	-	17.0	-	33.3	0.7	-	0.7	1.3
	その他の生別	20	20.0	25.0	-	20.0	-	25.0	-	-	-	10.0
	無回答	6	-	33.3	-	33.3	-	16.7	16.7	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	9.3	28.2	0.5	18.5	0.9	39.0	0.7	-	1.3	1.7
	北九州市	1,291	13.2	23.9	0.5	18.7	3.2	37.2	0.6	-	1.2	1.5
	福岡市	1,141	11.2	16.6	-	17.1	5.3	46.0	0.9	0.4	0.9	1.7
	父子家庭	86	46.5	22.1	-	5.8	1.2	17.4	1.2	...	1.2	4.7

(3) 1か月の家賃（借家の場合）

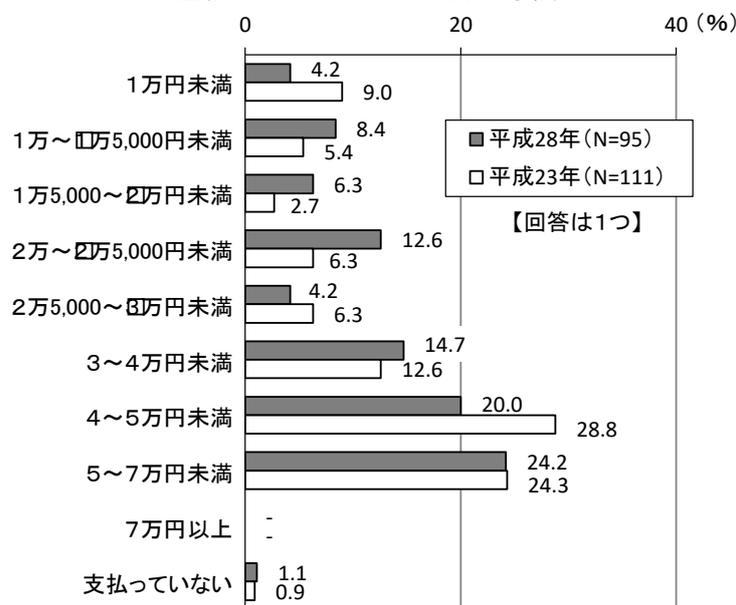
問 13-1（借家と答えた方に）1か月の家賃はどのくらいですか。管理費・共益費、光熱費などは除きます。（○印は1つ）

借家等に居住している人の1か月の家賃は、「5～7万円未満」が24.2%、「4～5万円未満」が20.0%、「3～4万円未満」が14.7%、「2万～2万5,000円未満」が12.6%などとなっている。平均家賃は37,000円である。

前回調査と比べて、前回調査で最も多かった「4～5万円未満」が減少し、「2万～2万5,000円未満」が増加している。平均家賃はほとんど変わっていない。

住居形態別に1か月の平均家賃をみると、民間借家・アパートが46,000円、市営住宅・県営住宅が18,000円であり、民間借家・アパートは市営住宅・県営住宅より28,000円高い。

図表Ⅲ-1-86 1か月の家賃



図表Ⅲ-1-87 1か月の家賃

(%)

	標本数	1万円未満	1万～1万5,000円未満	1.5万～2万円未満	2万～2万5,000円未満	2.5万～3万円未満	3万～4万円未満	4万～5万円未満	5万～7万円未満	7万円以上	支払っていない	無回答	推計平均額(万円)	
		4	8	6	12	4	14	19	23	-	1	4	3.7	
全体	95	4.2	8.4	6.3	12.6	4.2	14.7	20.0	24.2	-	1.1	4.2	3.7	
時系列	平成23年	111	9.0	5.4	2.7	6.3	6.3	12.6	28.8	24.3	-	0.9	3.6	3.8
住居形態別	県営住宅・市営住宅	32	12.5	25.0	18.8	28.1	9.4	3.1	-	-	-	3.1	1.8	
	UR(旧公団)・公社の賃貸住宅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	民間借家・アパートなど	60	-	-	-	5.0	1.7	21.7	31.7	36.7	1.7	1.7	4.6	
	社宅・寮・官舎・公舎	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	6.0	
	母子生活支援施設(母子寮)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
参考	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	県(三市を除く)	913	6.0	6.5	7.0	8.1	4.7	11.7	20.3	28.8	2.3	1.4	3.2	3.9
	北九州市	785	3.6	8.3	8.8	7.8	4.2	15.7	18.0	26.2	3.4	0.6	3.4	3.9
	福岡市	805	2.1	2.7	4.8	6.7	4.1	10.2	18.8	31.1	14.7	2.1	2.7	4.7
父子家庭	23	-	4.3	4.3	4.3	8.7	8.7	17.4	39.1	8.7	-	4.3	4.7	

※家賃の平均額の推計は、「1万円未満」は5,000円、「1万～1万5,000円未満」は12,500円などそれぞれの中間値をとり、「7万円以上」は7万円として、「支払っていない」と無回答を除いた標本数により算出した。

(4) 住宅に対する不満、悩み

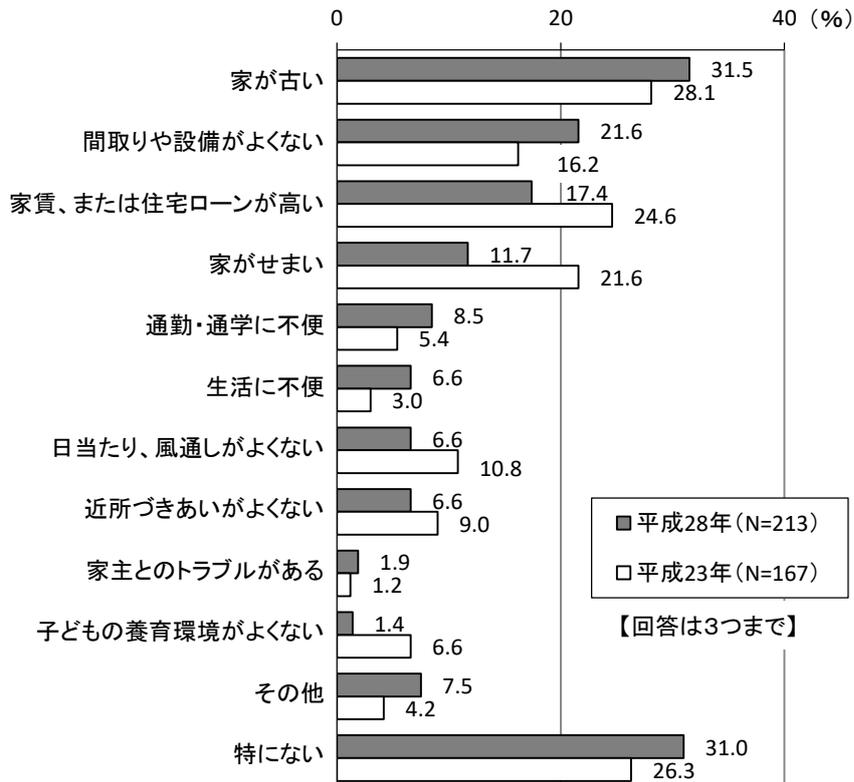
問 14 あなたは、いまの住宅に何か不満、悩みなどがありますか。(○印は3つまで)

現在の住宅に関する不満、悩みは、「家が古い」が 31.5%で最も高く、次いで、「間取りや設備がよくない」が 21.6%、「家賃、または住宅ローンが高い」が 17.4%で続いている。「特にない」は 31.0%である。

前回調査に比べると、「間取りや設備がよくない」が増加し、「家賃、または住宅ローンが高い」「家がせまい」などはやや減少している。

住居形態別にみると、県営住宅・市営住宅居住者は「家が古い」が高く、「間取りや設備がよくない」「家がせまい」「近所づきあいがよくない」なども比較的高い。民間借家・アパートなどの居住者では「家賃、または住宅ローンが高い」と「家が古い」「間取りや設備がよくない」が高くなっている。持ち家居住者では「特にない」が4割弱と高く、不満、悩みも県営住宅・市営住宅居住者、民間借家・アパートなどの居住者に比べて低めだが、「通勤・通学に不便」がやや高くなっている。

図表Ⅲ－1－88 住宅に対する不満、悩み【複数回答】



図表Ⅲ－1－89 住宅に対する不満、悩み〔複数回答〕

(%)

		標本数	家がせまい	家が古い	間取りや設備がよくない	家賃、またはローンが高い住宅	生活に不便	通勤・通学に不便	日当たり、風通しがよくない	近所づきあいがよくない	子どもの養育環境がよくない	家主とのトラブルがある	その他	特にない	無回答
全体		213 100.0	25 11.7	67 31.5	46 21.6	37 17.4	14 6.6	18 8.5	14 6.6	14 6.6	3 1.4	4 1.9	16 7.5	66 31.0	11 5.2
時系列	平成23年	167	21.6	28.1	16.2	24.6	3.0	5.4	10.8	9.0	6.6	1.2	4.2	26.3	3.6
住居形態別	持ち家	112	2.7	25.9	16.1	8.0	6.3	13.4	6.3	3.6	-	2.7	6.3	39.3	6.3
	親せきなどの家に同居	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	県営住宅・市営住宅	32	21.9	43.8	31.3	12.5	12.5	6.3	9.4	15.6	3.1	-	18.8	21.9	-
	UR(旧公団)・公社の賃貸住宅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	民間借家・アパートなど	60	23.3	38.3	28.3	36.7	5.0	1.7	5.0	8.3	3.3	1.7	3.3	21.7	1.7
	社宅・寮・官舎・公舎	2	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
	母子生活支援施設(母子寮)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	6	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	16.7	33.3	50.0
参考	県(三市を除く)	1,512	20.4	31.1	19.0	21.0	5.0	9.1	9.3	4.8	3.6	1.6	5.7	29.4	3.0
	北九州市	1,291	18.4	27.3	17.2	23.4	5.3	6.2	7.6	5.3	2.7	1.5	7.0	32.8	2.8
	福岡市	1,141	21.9	26.6	19.0	25.5	2.8	6.7	8.2	4.9	5.3	0.9	5.3	30.5	2.5
	父子家庭	86	16.3	22.1	15.1	16.3	1.2	4.7	4.7	8.1	2.3	3.5	3.5	34.9	7.0

(5) 現在の住居に対する今後の居住意向

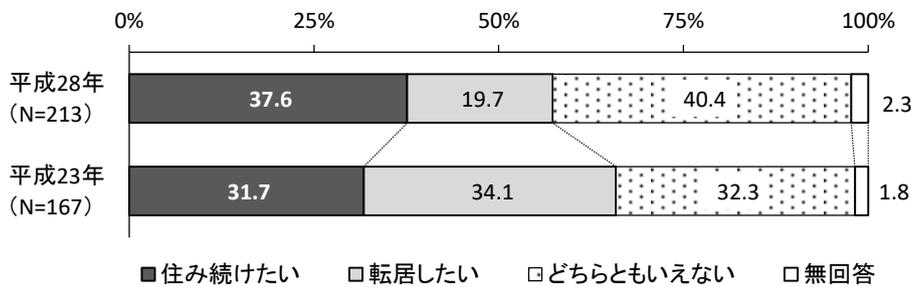
問 15 あなたは、いまの住宅に住み続けたいと思いますか。(○印は1つ)

現在の住居に「住み続けたい」は 37.6%、「転居したい」は 19.7%、「どちらともいえない」は 40.4%となっている。

前回調査と比べると、「転居したい」が大幅に減少し、「住み続けたい」「どちらともいえない」が増加している。

住居形態別にみると、持ち家居住者では「住み続けたい」が 51.8%と高い。県営住宅・市営住宅居住者、民間借家・アパートなどでは「転居したい」が約3割となっている。

図表Ⅲ－１－90 現在の住居に対する今後の居住意向



図表Ⅲ－１－91 現在の住居に対する今後の居住意向

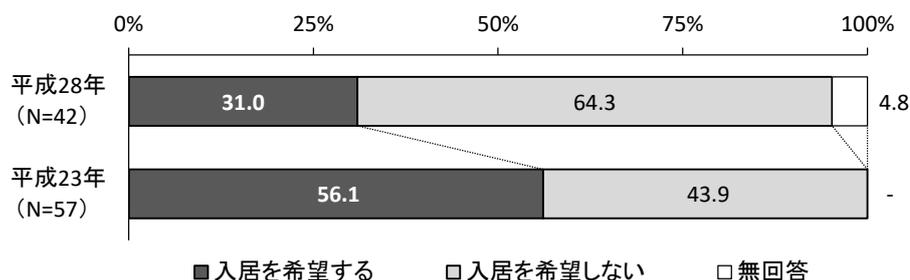
		標本数	い 住 み 続 け た	転 居 し た い	い ど ち ら と も い え な い	無 回 答
全体		213 100.0	80 37.6	42 19.7	86 40.4	5 2.3
時系列	平成23年	167	31.7	34.1	32.3	1.8
住居形態別	持ち家	112	51.8	9.8	36.6	1.8
	親せきなどの家に同居	-	-	-	-	-
	県営住宅・市営住宅	32	21.9	28.1	50.0	-
	UR(旧公団)・公社の賃貸住宅	-	-	-	-	-
	民間借家・アパートなど	60	20.0	33.3	45.0	1.7
	社宅・寮・官舎・公舎	2	-	-	100.0	-
	母子生活支援施設(母子寮)	-	-	-	-	-
その他	1	-	100.0	-	-	
無回答	6	50.0	16.7	-	33.3	
参考	県(三市を除く)	1,512	30.8	29.5	36.5	3.2
	北九州市	1,291	34.5	29.4	33.6	2.6
	福岡市	1,141	35.0	37.0	27.3	0.7
	父子家庭	86	41.9	20.9	33.7	3.5

(6) 公営住宅への入居希望

問 15-1 (転居したいと答えた方に) あなたは、公営住宅(県営住宅・市営住宅)への入居を希望しますか。(○印は1つ)

転居を希望している人の公営住宅への入居希望は、「入居を希望する」が31.0%、「入居を希望しない」が64.3%となっており、前回調査に比べると、「入居を希望する」割合が大きく減少している。

図表Ⅲ-1-92 公営住宅への入居希望



図表Ⅲ-1-93 公営住宅への入居希望

		標本数	入居を希望する (%)	入居を希望しない (%)	無回答 (%)
全体		42	31.0	64.3	4.8
時系列	平成23年	57	56.1	43.9	-
世帯年収別	収入はない	-	-	-	-
	100万円未満	6	66.7	33.3	-
	100~150万円未満	7	28.6	71.4	-
	150~200万円未満	10	40.0	50.0	10.0
	200~300万円未満	13	15.4	76.9	7.7
	300~400万円未満	1	-	100.0	-
	400~500万円未満	2	50.0	50.0	-
	500~700万円未満	1	-	100.0	-
	700~1,000万円未満	1	-	100.0	-
	1,000万円以上	-	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	446	55.8	42.4	1.8
	北九州市	379	54.4	43.5	2.1
	福岡市	422	51.9	46.0	2.1
	父子家庭	18	61.1	38.9	-

6. 生計の状況

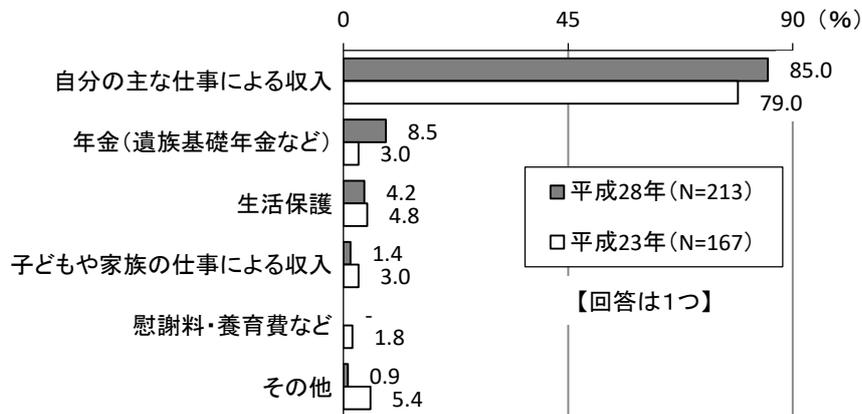
(1) 主たる収入源

問 16 あなたの世帯の生活費は、主に何によってまかなわれていますか。(○印は1つ)

世帯の生活費を主にどの収入によってまかなっているかについては、「自分の主な仕事による収入」が85.0%、「年金（遺族基礎年金など）」が8.5%、「生活保護」が4.2%などとなっており、大半は自身の仕事による収入が主な収入源となっている。前回調査と比べると、「自分の主な仕事による収入」「年金（遺族基礎年金など）」がやや増加している。

母子家庭になった理由別にみると、死別の人では「年金（遺族基礎年金など）」が38.2%と高くなっている。

図表Ⅲ－1－94 主たる収入源



図表Ⅲ－1－95 主たる収入源

		標本数	事自 に分 よる 主 収入 入仕	収の子 入仕ど もに よる 家族	生活 保護	礎年 年金 年金(遺 族基 礎)	費慰 な謝 ど料 ・養 育	そ の 他	無 回 答
全体		213 100.0	181 85.0	3 1.4	9 4.2	18 8.5	- -	2 0.9	- -
時系列	平成23年	167	79.0	3.0	4.8	3.0	1.8	5.4	3.0
同居 家族 別	母子のみ	126	84.9	-	7.1	7.1	-	0.8	-
	20歳以上の子ども	47	83.0	4.3	-	10.6	-	2.1	-
	父	19	89.5	-	-	10.5	-	-	-
	母	38	84.2	5.3	-	10.5	-	-	-
	その他	13	92.3	-	-	7.7	-	-	-
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-
理由 別	死別	34	58.8	2.9	-	38.2	-	-	-
	離婚	153	88.9	1.3	5.2	3.3	-	1.3	-
	その他の生別	20	95.0	-	5.0	-	-	-	-
	無回答	6	100.0	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	81.5	4.5	5.0	2.7	1.2	3.0	2.1
	北九州市	1,291	81.7	4.3	4.2	3.8	1.2	2.8	2.1
	福岡市	1,141	81.0	2.3	8.0	3.6	1.7	3.0	0.5
	父子家庭	86	91.9	-	1.2	4.7	-	1.2	1.2

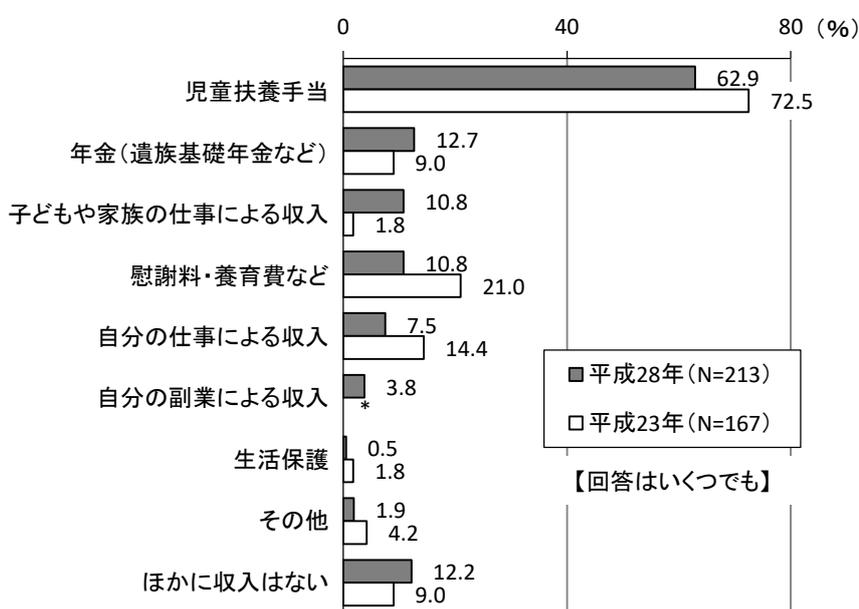
(2) 従たる収入源

問 17 問 16 の収入以外にはどんな収入がありますか。(〇印はいくつでも)

主な収入源以外の収入としては、「児童扶養手当」が 62.9%、「年金（遺族基礎年金など）」が 12.7%、「子どもや家族の仕事による収入」「慰謝料・養育費など」がともに 10.8%などとなっている。また、「ほかに収入はない」が 12.2%みられる。

母子家庭になった理由別では、死別の人では「年金（遺族基礎年金など）」が 55.9%と高く、「児童扶養手当」は 14.7%と低い。離婚の人では「児童扶養手当」が 73.2%と高くなっている。

図表Ⅲ－１－96 従たる収入源 [複数回答]



図表Ⅲ－１－97 従たる収入源 [複数回答]

		標本数	児童扶養手当	自分の仕事による収入	自分の副業による収入	子どもや家族の仕事による収入	生活保護	年金など(遺族基礎)	慰謝料・養育費	その他	ほかに収入はない	無回答
全体		213	134	16	8	23	1	27	23	4	26	11
		100.0	62.9	7.5	3.8	10.8	0.5	12.7	10.8	1.9	12.2	5.2
時系列	平成23年	167	72.5	14.4	...	1.8	1.8	9.0	21.0	4.2	9.0	4.2
理由別	死別	34	14.7	26.5	-	17.6	2.9	55.9	-	-	8.8	5.9
	離婚	153	73.2	4.6	5.2	9.8	-	4.6	14.4	2.0	10.5	5.2
	その他の生別	20	60.0	-	-	10.0	-	5.0	5.0	5.0	35.0	-
	無回答	6	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7
参考	県(三市を除く)	1,512	77.1	7.7	4.4	5.8	1.7	4.0	15.6	2.2	8.0	3.8
	北九州市	1,291	67.4	6.0	3.0	6.3	1.0	3.7	14.5	1.2	12.9	5.8
	福岡市	1,141	67.8	7.4	4.5	6.5	1.8	5.4	14.6	3.9	12.2	3.8
	父子家庭	86	37.2	2.3	3.5	3.5	1.2	7.0	2.3	1.2	36.0	15.1

(3) 世帯の年間税込み収入

問 18 あなたの世帯全員の1年間の収入（児童扶養手当、年金、養育費等も含めて）は、税込みでどのくらいですか。ただし、生活保護による収入は除きます。（○印は1つ）

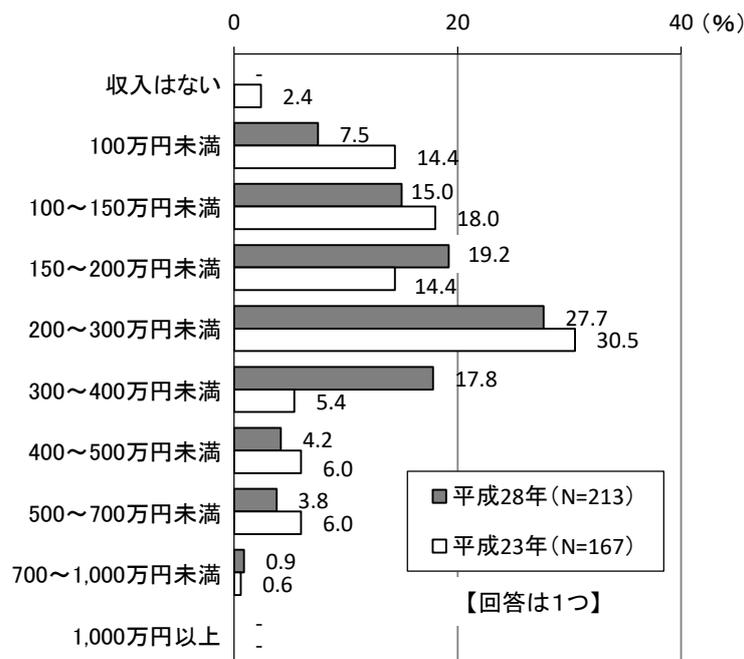
世帯全員の年間税込み収入は、「200～300万円未満」が27.7%で最も高く、「150～200万円未満」が19.2%、「300～400万円未満」が17.8%、「100～150万円未満」が15.0%と続いており、『200万円未満』の割合が4割を超えている。平均年間税込収入は247万円となっている。

前回調査と比べると、「300～400万円未満」が増加し、「100万円未満」が減少している。

母子家庭になった理由別では、死別では平均年間税込収入は282万円であるが、離婚では243万円、その他の生別では253万円と差がみられる。

就業形態別にみると、正社員・正規職員の平均年間税込収入は313万円であるが、派遣・契約社員やパートタイマーでは約200万と110万円ほどの差がある。

図表Ⅲ－1－98 世帯の年間税込み収入



図表Ⅲ－１－99 世帯の年間税込み収入

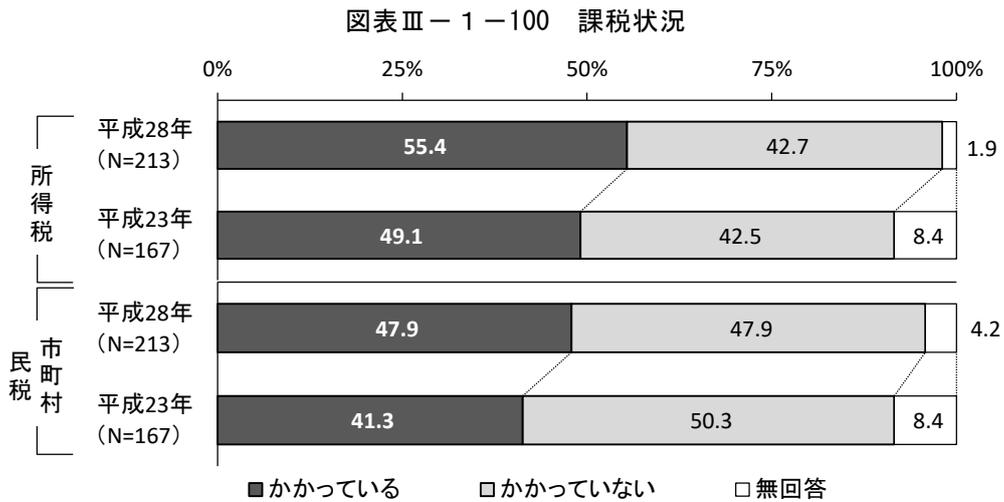
		(%)											(年間収入推計額)	
		標本数	収入はない	100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700～1000万円未満	1000万円以上	無回答	(年間収入推計額)
全体		213 100.0	- -	16 7.5	32 15.0	41 19.2	59 27.7	38 17.8	9 4.2	8 3.8	2 0.9	- -	8 3.8	247
時系列	平成23年	167	2.4	14.4	18.0	14.4	30.5	5.4	6.0	6.0	0.6	-	2.4	229
理由別	死別	34	-	-	11.8	17.6	29.4	26.5	5.9	5.9	-	-	2.9	282
	離婚	153	-	7.2	16.3	19.0	28.8	16.3	3.3	3.3	1.3	-	4.6	243
	その他の生別	20	-	15.0	5.0	25.0	20.0	20.0	10.0	5.0	-	-	-	253
	無回答	6	-	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	129
就業形態別	自営業主	10	-	20.0	40.0	20.0	-	-	10.0	10.0	-	-	-	200
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	-	2.1	5.3	10.5	31.6	32.6	8.4	5.3	2.1	-	2.1	313
	派遣・契約社員	22	-	4.5	18.2	22.7	40.9	4.5	-	-	-	-	9.1	201
	パートタイマー	53	-	1.9	30.2	30.2	24.5	7.5	-	1.9	-	-	3.8	198
	臨時・日雇など	6	-	33.3	16.7	33.3	16.7	-	-	-	-	-	-	138
	内職	3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	342
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	無回答	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	200
	県(三市を除く)	1,512	0.8	10.4	13.4	18.0	28.8	13.0	5.4	3.2	1.1	0.1	5.8	241
	北九州市	1,291	0.9	9.5	15.5	16.8	27.0	12.1	4.5	5.7	1.2	0.9	6.0	256
	福岡市	1,141	1.3	9.6	16.0	18.1	27.0	12.2	5.2	4.7	1.1	0.9	3.9	251
	父子家庭	86	-	3.5	4.7	5.8	15.1	20.9	16.3	19.8	7.0	4.7	2.3	446

※世帯の年間税込み平均額の推計は、「100万円未満」は50万円、「100～150万円未満」は125万円などそれぞれの中間値をとり、「1,000万円以上」は1,200万円として、「収入はない」と無回答を除いた標本数により算出した。

(4) 課税状況

問 19 あなたの所得に所得税や市町村民税はかかっていますか。(○印はそれぞれ1つ)

回答者本人の所得への所得税や市町村民税の課税状況は、所得税については「かかっている」が55.4%、「かかっていない」が42.7%となっている。市町村民税は、「かかっている」「かかっていない」ともに47.9%である。前回調査に比べて、所得税、市町村民税ともに「かかっている」がやや増加している。



図表Ⅲ－1－101 課税状況

(%)

	標本数	所得税			市町村民税			
		かかっている	かかっていない	無回答	かかっている	かかっていない	無回答	
全体	213 100.0	118 55.4	91 42.7	4 1.9	102 47.9	102 47.9	9 4.2	
時系列	平成23年	167	49.1	42.5	8.4	41.3	50.3	8.4
参考	県(三市を除く)	1,512	60.3	33.3	6.3	46.9	46.5	6.6
	北九州市	1,291	59.1	34.5	6.4	47.0	45.3	7.7
	福岡市	1,141	56.4	39.2	4.4	43.8	50.2	6.0
	父子家庭	86	84.9	12.8	2.3	83.7	12.8	3.5

(5) 家計の状態

問 20 あなたの家計の状態は、次の中のどれにあてはまりますか。(○印は1つ)

家計の状態についてみると、「とても足りない」が 38.5%で最も高く、「時々赤字になる」が 37.1%、「だいたいやっつけいける」が 21.6%、「十分やっつけいける」が 2.8%で、約4分の3の人は家計が苦しい状態であると回答している。

前回調査と比べると、「時々赤字になる」がやや増加したものの、全体としては大きな変化はみられない。

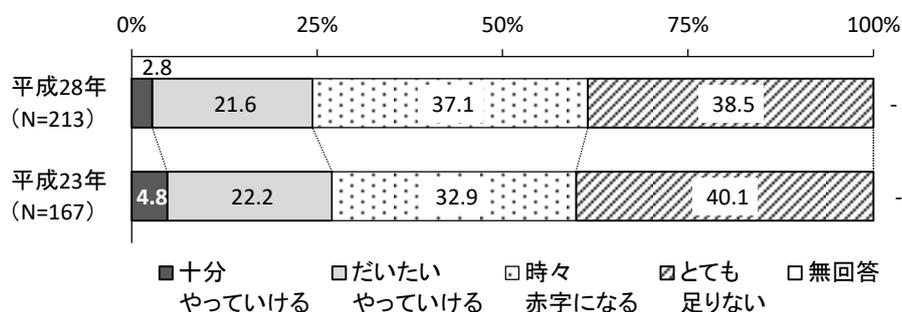
母子家庭になった理由別では、死別では『やっつけいける』が5割弱と比較的高いが、離婚では2割程度にとどまっている。

仕事の有無別では、仕事を持っていない人では「とても足りない」が 57.1%と高い。

就業形態別でみると、正社員・正職員で『やっつけいける』が約3割とやや高いものの、派遣・契約社員やパートタイマーなどでは2割前後となっている。

世帯年収別でみると、100万円未満の世帯では「とても足りない」が6割を超える。100～300万円未満の世帯でも「とても足りない」が4割前後に上り、「時々赤字になる」と合わせると8割前後は家計が苦しいと回答している。

図表Ⅲ－1－102 家計の状態



図表Ⅲ－１－１０３ 家計の状態

(%)

		標本数	け十分やっ てい	てだ い け たい や っ	る時 々 赤 字 に な	いと も 足 り な	無 回 答
全体		213 100.0	6 2.8	46 21.6	79 37.1	82 38.5	- -
時系列	平成23年	167	4.8	22.2	32.9	40.1	-
理由別	死別	34	8.8	38.2	23.5	29.4	-
	離婚	153	1.3	19.0	41.8	37.9	-
	その他の生別	20	5.0	20.0	20.0	55.0	-
	無回答	6	-	-	50.0	50.0	-
有仕無事別の	持っている	191	3.1	22.5	37.7	36.6	-
	持っていない	21	-	14.3	28.6	57.1	-
	無回答	1	-	-	100.0	-	-
就業形態別	自営業主	10	-	20.0	50.0	30.0	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	5.3	24.2	38.9	31.6	-
	派遣・契約社員	22	4.5	18.2	45.5	31.8	-
	パートタイマー	53	-	18.9	30.2	50.9	-
	臨時・日雇など	6	-	16.7	50.0	33.3	-
	内職	3	-	66.7	33.3	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	
世帯年収別	収入はない	-	-	-	-	-	-
	100万円未満	16	-	-	37.5	62.5	-
	100～150万円未満	32	-	25.0	34.4	40.6	-
	150～200万円未満	41	-	14.6	36.6	48.8	-
	200～300万円未満	59	1.7	22.0	37.3	39.0	-
	300～400万円未満	38	7.9	28.9	42.1	21.1	-
	400～500万円未満	9	11.1	44.4	11.1	33.3	-
	500～700万円未満	8	12.5	25.0	62.5	-	-
	700～1,000万円未満	2	-	-	100.0	-	-
1,000万円以上	-	-	-	-	-	-	
無回答	8	-	25.0	12.5	62.5	-	
参考	県(三市を除く)	1,512	2.5	18.1	36.0	40.4	2.9
	北九州市	1,291	4.3	21.6	36.2	35.6	2.3
	福岡市	1,141	3.6	20.2	37.4	37.8	1.0
	父子家庭	86	12.8	25.6	33.7	26.7	1.2

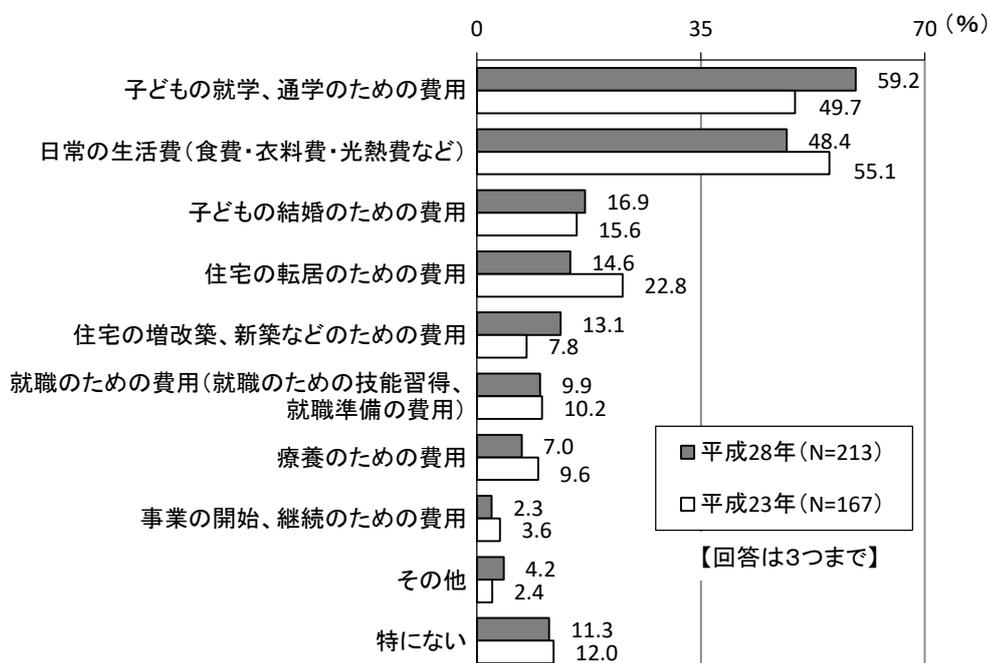
(6) 現在不足している費用

問21 あなたにとって、いま現在、不足している費用はありますか。(○印は3つまで)

現在不足している費用は、「子どもの就学、通学のための費用」が59.2%で最も高く、次に「日常の生活費」が48.4%となっており、この2項目が特に高くなっている。その他では「子どもの結婚のための費用」16.9%、「住宅の転居のための費用」14.6%、「住宅の増改築、新築などのための費用」が13.1%などとなっている。

年齢別では、50歳以上の人で「子どもの就学、通学のための費用」がやや高い。

図表Ⅲ-1-104 現在不足している費用



図表Ⅲ-1-105 現在不足している費用

		標本数	日常の生活費(食費・衣料費・光熱費など)	就職準備のための技能習得(費用)	就職のための費用	事業の開始、継続のための費用	療養のための費用	子どもの就学、通学の費用	子どもの結婚のための費用	住宅の増改築、新築などのための費用	住宅の転居のための費用	その他	特にない	無回答
全体		213	103	21	5	15	126	36	28	31	9	24	4	
時系列	平成23年	167	55.1	10.2	3.6	9.6	59.2	16.9	13.1	14.6	2.4	11.3	1.9	
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30~34歳	9	66.7	11.1	-	11.1	44.4	11.1	11.1	33.3	-	-	-	
	35~39歳	21	47.6	9.5	4.8	4.8	57.1	9.5	4.8	19.0	9.5	9.5	-	
	40~44歳	47	40.4	8.5	4.3	10.6	63.8	17.0	8.5	12.8	4.3	12.8	2.1	
	45~49歳	86	45.3	10.5	-	5.8	55.8	15.1	15.1	14.0	3.5	14.0	2.3	
	50歳以上	48	58.3	8.3	4.2	6.3	66.7	20.8	18.8	12.5	4.2	8.3	2.1	
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	
参考	県(三市を除く)	1,512	56.7	8.6	2.2	5.3	54.4	12.4	9.3	18.5	5.4	9.7	3.4	
	北九州市	1,291	51.9	9.8	1.7	5.3	51.0	13.4	8.4	20.1	4.8	12.1	3.3	
	福岡市	1,141	52.2	11.4	3.6	6.7	53.1	14.5	6.8	22.3	4.3	10.6	2.9	
	父子家庭	86	39.5	2.3	7.0	1.2	47.7	16.3	19.8	8.1	2.3	25.6	2.3	

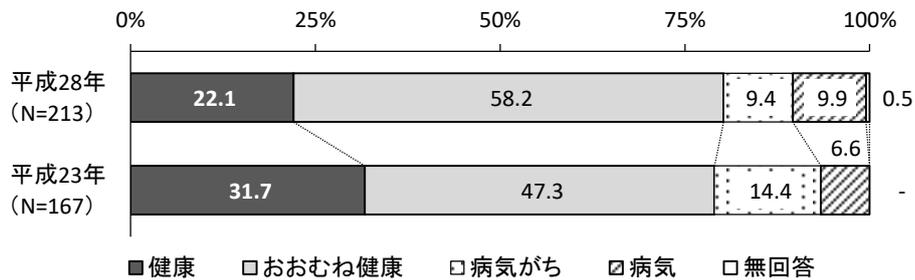
7. 健康状態

(1) 母親の健康状態

問 22 あなたの健康状態は、いかがですか。(○印は1つ)

母親の健康状態については、「健康」が 22.1%、「おおむね健康」が 58.2%で、約 8 割は『健康』と回答しているが、「病気がち」9.4%、「病気」9.9%で、健康状態がよくないとする人も 2 割程度を占めている。前回調査より、「健康」とする人の割合が低下している。

図表Ⅲ－１－106 母親の健康状態



図表Ⅲ－１－107 母親の健康状態

		標本数	健康	健康 おおむね	病気がち	病気	無回答
全体		213	47	124	20	21	1
		100.0	22.1	58.2	9.4	9.9	0.5
時系列	平成23年	167	31.7	47.3	14.4	6.6	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	33.3	55.6	11.1	-	-
	35～39歳	21	33.3	52.4	14.3	-	-
	40～44歳	47	19.1	55.3	12.8	12.8	-
	45～49歳	86	23.3	54.7	8.1	14.0	-
	50歳以上	48	16.7	68.8	6.3	6.3	2.1
	無回答	2	-	100.0	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	30.9	48.9	11.6	6.6	2.0
	北九州市	1,291	31.2	45.4	13.9	7.7	1.8
	福岡市	1,141	29.8	47.1	13.7	8.9	0.5
	父子家庭	86	23.3	55.8	12.8	7.0	1.2

(2) 母親が病気の時の本人の身の回りの世話

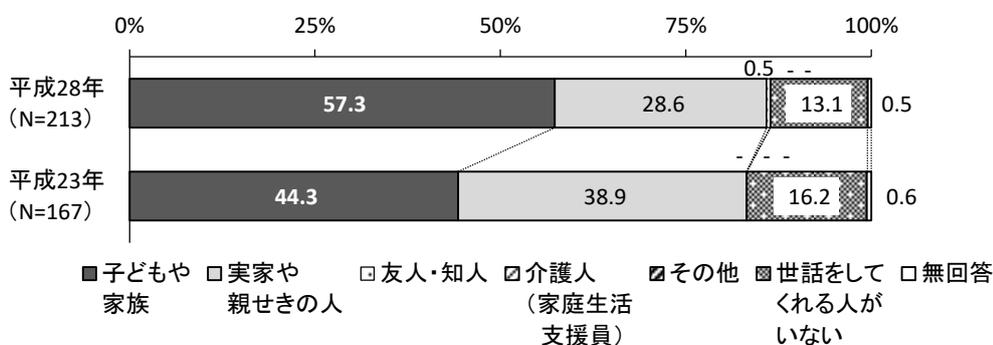
問 23 もしも、あなたが重い病気にかかったり、入院した場合、あなたの身の回りの世話は、主にどなたがしますか。(○印は1つ)

母親が重い病気にかかったりした場合の母親の身の回りの世話は、「子どもや家族」が57.3%、「実家や親せきの人」が28.6%で、家族・親族が中心である。また、「世話をしてくれる人がいない」が13.1%となっている。

前回調査と比べると、「子どもや家族」が増加し、「実家や親せきの人」が減少している。

同居家族別にみると、母子のみでの家庭では「子どもや家族」が約4割と低く、「実家や親せきの人」が4割超と高くなっている。

図表Ⅲ－1－108 母親が病気の時の本人の身の回りの世話



図表Ⅲ－1－109 母親が病気の時の本人の身の回りの世話

		標本数	子どもや家族	実家や親せきの人	友人・知人	介護人 (家庭生活支援員)	その他	世話をしてくれる人がいない	無回答
全体		213	122	61	1	-	-	28	1
		100.0	57.3	28.6	0.5	-	-	13.1	0.5
時系列	平成23年	167	44.3	38.9	-	-	-	16.2	0.6
同居家族別	母子のみ	126	40.5	42.1	0.8	-	-	15.9	0.8
	20歳以上の子ども	47	78.7	12.8	-	-	-	8.5	-
	父	19	78.9	5.3	-	-	-	15.8	-
	母	38	89.5	5.3	-	-	-	5.3	-
	その他	13	100.0	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	1,512	44.8	36.7	1.1	0.2	0.6	14.3	2.3
	北九州市	1,291	44.2	37.3	2.2	0.2	0.2	13.9	2.0
	福岡市	1,141	42.6	34.0	1.5	0.4	0.4	20.3	0.9
	父子家庭	86	59.3	17.4	1.2	1.2	2.3	17.4	1.2

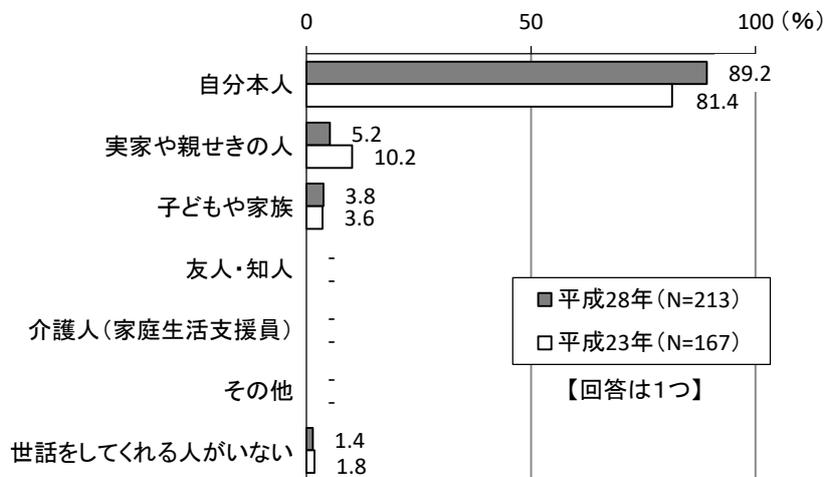
(3) 子どもが病気の時の身の回りの世話

問 24 また、あなたのお子さんが重い病気にかかったり、入院した場合、お子さんの身の回りの世話は、主にどなたがしますか。(〇印は1つ)

子どもが重い病気にかかったりした場合の子どもの身の回りの世話は、「自分本人」が 89.2%と最も高く、ほとんど母親が身の回りの世話をしている。その他「実家や親せきの人」5.2%、「子どもや家族」3.8%となっている。

前回調査と比べると、「実家や親せきの人」がやや減少し、「自分本人」が増加している。

図表Ⅲ－1－110 子どもが病気の時の身の回りの世話



図表Ⅲ－1－111 子どもが病気の時の身の回りの世話

		標本数	自分本人	子どもや家族	実家や親せきの人	友人・知人	介護人(家庭生活支援員)	その他	世話をしてくれる人がいない	無回答
全体		213	190	8	11	-	-	-	3	1
		100.0	89.2	3.8	5.2	-	-	-	1.4	0.5
時系列	平成23年	167	81.4	3.6	10.2	-	-	-	1.8	3.0
参考	県(三市を除く)	1,512	86.6	4.0	6.1	0.1	-	0.1	1.0	2.1
	北九州市	1,291	87.1	2.6	6.6	0.2	-	0.2	1.5	1.8
	福岡市	1,141	88.2	3.2	5.4	0.1	-	0.1	2.5	0.4
	父子家庭	86	70.9	12.8	8.1	1.2	-	1.2	4.7	1.2

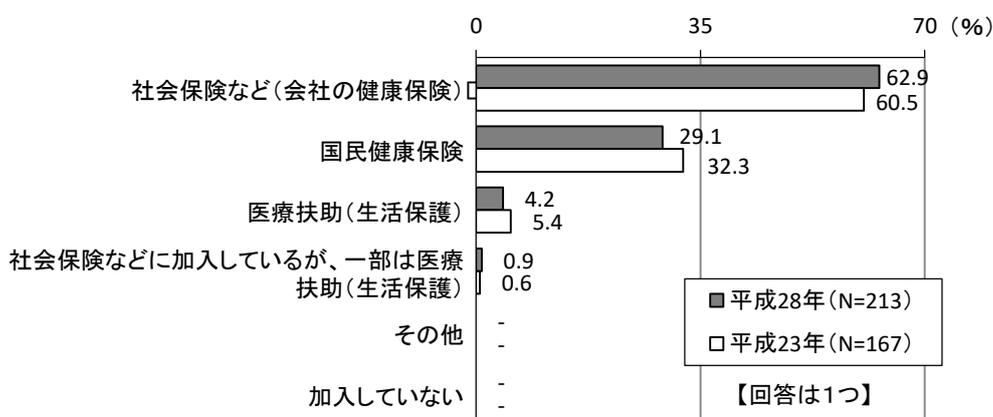
(4) 医療保険

問 25 あなたの医療保険（健康保険証）は、次の中のどれにあてはまりますか。

(○印は1つ)

回答者の医療保険は、「社会保険など（会社の健康保険）」が 62.9%で最も高く、「国民健康保険」が 29.1%、「医療扶助（生活保護）」が 4.2%となっている。前回調査から、それほど大きな変化はみられない。

図表Ⅲ－1－112 医療保険



図表Ⅲ－1－113 医療保険

		標本数	国民健康保険	社会保険など(会社の健康保険)	医療扶助(生活保護)	社会保険などに加入しているが、一部は医療扶助(生活保護)	その他	加入していない	無回答
全体		213	62	134	2	9	-	-	6
		100.0	29.1	62.9	0.9	4.2	-	-	2.8
時系列	平成23年	167	32.3	60.5	0.6	5.4	-	-	1.2
有仕無事別の	持っている	191	25.7	69.6	1.0	1.6	-	-	2.1
	持っていない	21	57.1	4.8	-	28.6	-	-	9.5
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-
就業形態別の	自営業主	10	80.0	20.0	-	-	-	-	-
	家族従業員	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	4.2	91.6	2.1	1.1	-	-	1.1
	派遣・契約社員	22	9.1	81.8	-	4.5	-	-	4.5
	パートタイマー	53	52.8	41.5	-	1.9	-	-	3.8
	臨時・日雇など	6	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	内職	3	100.0	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	
参考	県(三市を除く)	1,512	29.0	62.0	0.8	5.4	0.3	0.4	2.2
	北九州市	1,291	31.1	61.8	0.9	4.3	0.2	0.6	1.2
	福岡市	1,141	31.1	57.3	0.9	8.4	0.4	0.8	1.1
	父子家庭	86	25.6	69.8	-	-	-	2.3	2.3

8. 子どもの状況

(1) 子どもとの団らんの機会

問 26 あなたは、お子さんとの団らんの時間がどのくらい取れていますか。仕事をしている日、仕事が休みの日それぞれについて、あてはまるものを選んでください。
(○印はそれぞれ1つずつ)

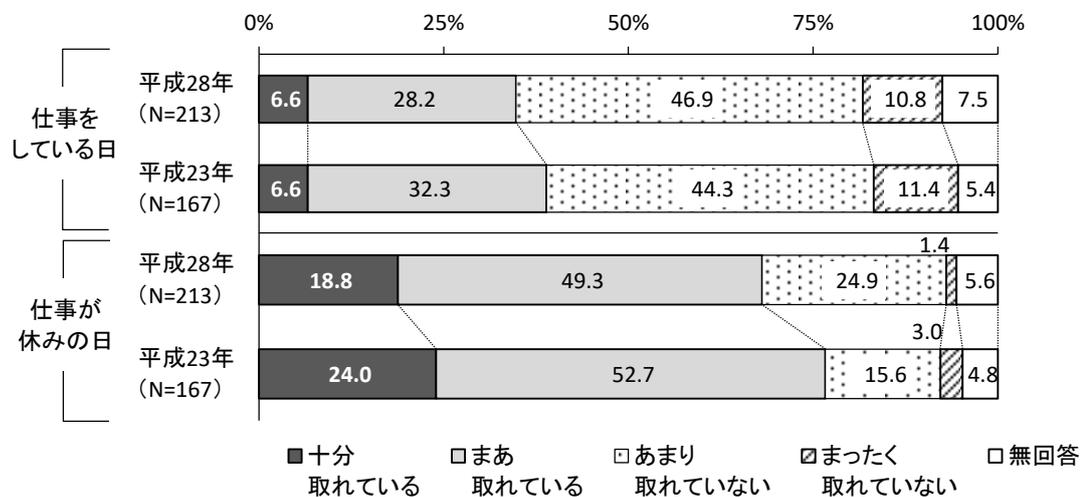
子どもとの団らんの状況については、仕事をしている日の場合、「十分取れている」が 6.6%、「まあ取れている」が 28.2%で、子どもとの団らんの時間が『取れている』とする人は全体の約3分の1にとどまる。「あまり取れていない」は 46.9%、「まったく取れていない」は 10.8%で、『取れていない』とする人は6割近くとなっている。

前回調査と比べても大きな変化はみられない。

仕事が休みの日の場合、「十分取れている」が 18.8%、「まあ取れている」が 49.3%で、7割近くは『取れている』と回答している。「あまり取れていない」が 24.9%、「まったく取れていない」が 1.4%で、休みの日でも団らんの時間が取れていない人が約4分の1みられる。

前回調査と比べると、「十分取れている」がやや減少し、「あまり取れていない」が増加している。

図表Ⅲ－1－114 子どもとの団らんの機会



図表Ⅲ－１－115 子どもとの団らんの機会

		標本数	仕事をしている日					仕事が休みの日				
			十分取れている	まあ取れている	なあまり取れていない	まったく取れていない	無回答	十分取れている	まあ取れている	なあまり取れていない	まったく取れていない	無回答
全体		213 100.0	14 6.6	60 28.2	100 46.9	23 10.8	16 7.5	40 18.8	105 49.3	53 24.9	3 1.4	12 5.6
時系列	平成23年	167	6.6	32.3	44.3	11.4	5.4	24.0	52.7	15.6	3.0	4.8
就業形態別	自営業主	10	20.0	20.0	60.0	-	-	40.0	40.0	20.0	-	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	4.2	30.5	48.4	15.8	1.1	13.7	54.7	29.5	1.1	1.1
	派遣・契約社員	22	9.1	22.7	50.0	13.6	4.5	18.2	68.2	9.1	-	4.5
	パートタイマー	53	7.5	26.4	54.7	7.5	3.8	22.6	37.7	28.3	3.8	7.5
	臨時・日雇など	6	-	66.7	33.3	-	-	33.3	50.0	16.7	-	-
	内職	3	-	100.0	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	6.5	31.5	46.2	8.1	7.7	27.3	48.4	18.5	0.7	5.1
	北九州市	1,291	8.4	32.3	42.8	10.1	6.4	29.5	45.3	19.6	2.2	3.3
	福岡市	1,141	7.4	32.3	43.5	9.5	7.4	25.4	52.5	15.3	1.7	5.1
	父子家庭	86	3.5	39.5	39.5	12.8	4.7	15.1	58.1	24.4	-	2.3

(2) 子どもについての悩み

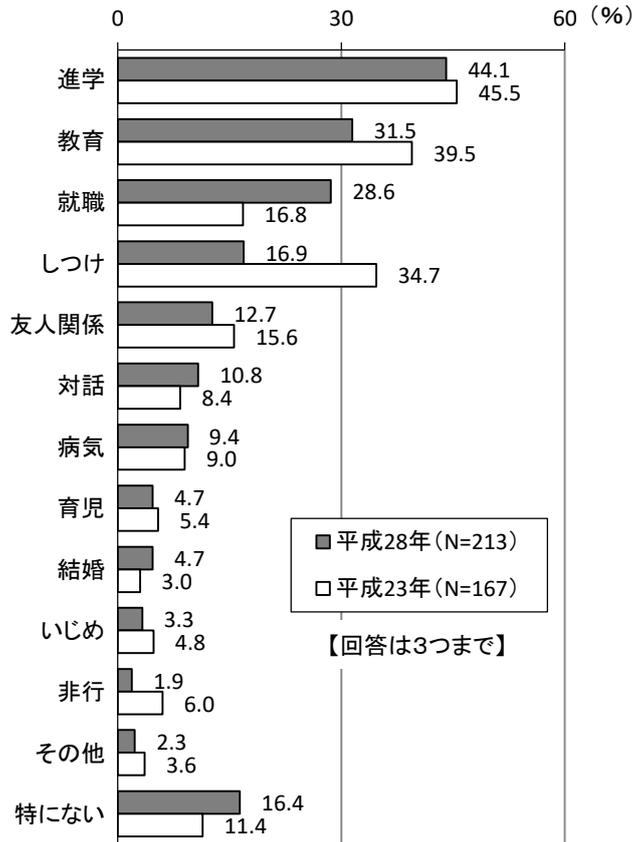
問27 あなたは、お子さんについて何か悩みを持っていますか。(〇印は3つまで)

子どもについての悩みでは、「進学」が44.1%で最も高く、次いで「教育」が31.5%、「就職」が28.6%、「しつけ」が16.9%、「友人関係」が12.7%、「対話」が10.8%などとなっており、教育関係や進路に関することが主な悩みとなっている。

前回調査と比べて「教育」「しつけ」が減少し、「就職」が増加しているが、これは子どもの年齢層が前回よりも上昇した影響が大きいと考えられる。

子どもの状況別では、小学生で「しつけ」「教育」「友人関係」が、中学生で「進学」が、高校生、短大生・大学生で「就職」がそれぞれ高くなっており、子どもの年齢によって悩みの内容が変化している。

図表Ⅲ-1-116 子どもについての悩み [複数回答]



図表Ⅲ-1-117 子どもについての悩み〔複数回答〕

(%)

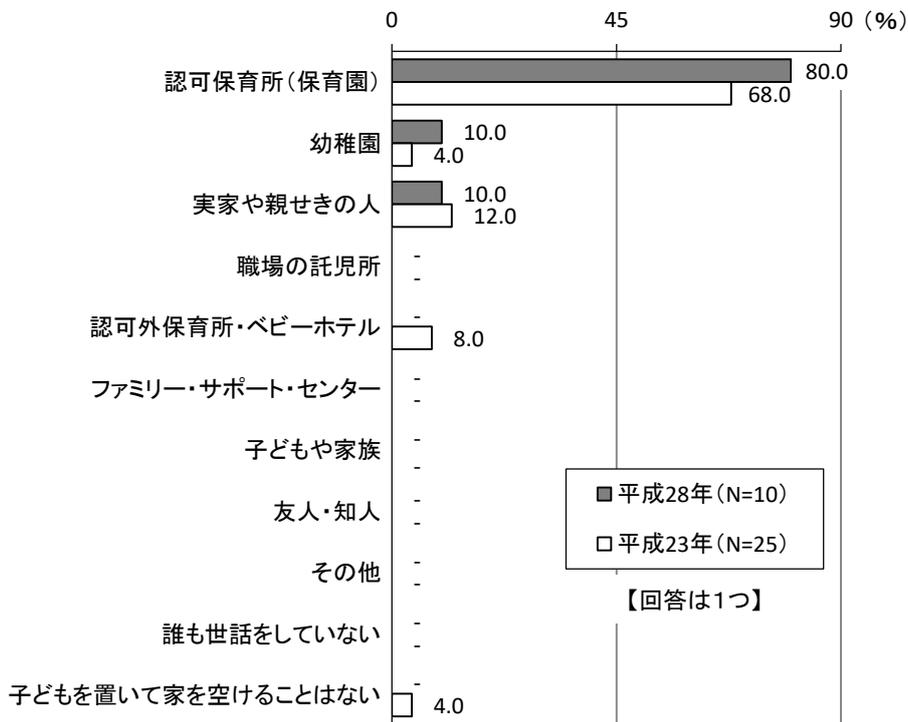
	標本数	育児	しつけ	教育	進学	就職	結婚	病気	対話	友人関係	非行	いじめ	その他	特にない	無回答	
全体	213 100.0	10 4.7	36 16.9	67 31.5	94 44.1	61 28.6	10 4.7	20 9.4	23 10.8	27 12.7	4 1.9	7 3.3	5 2.3	35 16.4	7 3.3	
時系列	平成23年	167	5.4	34.7	39.5	45.5	16.8	3.0	9.0	8.4	15.6	6.0	4.8	3.6	11.4	1.2
子どもの状況別	通園していない乳児・幼児	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	認可保育所・園に通園	9	33.3	44.4	44.4	44.4	11.1	-	22.2	-	11.1	-	-	-	11.1	-
	認可外保育施設に通園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼稚園に通園	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	小学生	50	4.0	30.0	50.0	44.0	6.0	2.0	8.0	14.0	20.0	4.0	2.0	2.0	10.0	2.0
	中学生	63	6.3	19.0	38.1	63.5	19.0	-	6.3	12.7	14.3	1.6	1.6	3.2	11.1	3.2
	高校生	106	3.8	14.2	30.2	50.0	39.6	6.6	8.5	12.3	11.3	1.9	3.8	2.8	13.2	4.7
	短大生・大学生	24	-	8.3	25.0	41.7	45.8	12.5	8.3	4.2	12.5	-	-	4.2	12.5	-
	その他の学生	11	-	-	-	27.3	36.4	-	9.1	9.1	-	9.1	-	-	45.5	-
	仕事をしている子ども	16	6.3	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	18.8	-	-	6.3	6.3	31.3	-
無職の子ども	4	-	-	25.0	-	50.0	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0	-	
その他	2	-	-	-	-	100.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
参考	県(三市を除く)	1,512	12.5	31.5	42.8	43.8	15.7	2.8	9.3	6.7	13.4	1.6	4.8	3.4	13.9	2.8
	北九州市	1,291	11.1	27.9	38.5	40.6	19.4	3.6	11.3	5.3	12.8	2.2	5.0	3.6	17.1	2.0
	福岡市	1,141	12.0	27.0	41.7	43.6	18.8	3.9	11.0	6.1	12.1	1.6	5.4	2.7	17.0	1.3
	父子家庭	86	4.7	29.1	41.9	46.5	25.6	4.7	8.1	3.5	7.0	4.7	4.7	4.7	15.1	2.3

(3) 未就学児の世話

問 28-1 (小学校入学前のお子さんがある方に) あなたが仕事などで家を空けている時、そのお子さんを主に誰が世話をしていますか。(〇印は1つ)

小学校入学前の子どもがいる人で、仕事などでの不在の場合の子どもの世話については、「認可保育所(保育園)」が80.0%、「幼稚園」「実家や親せきの人」がそれぞれ10.0%となっている。前回調査に比べて、「認可保育園」の割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-118 未就学児の世話



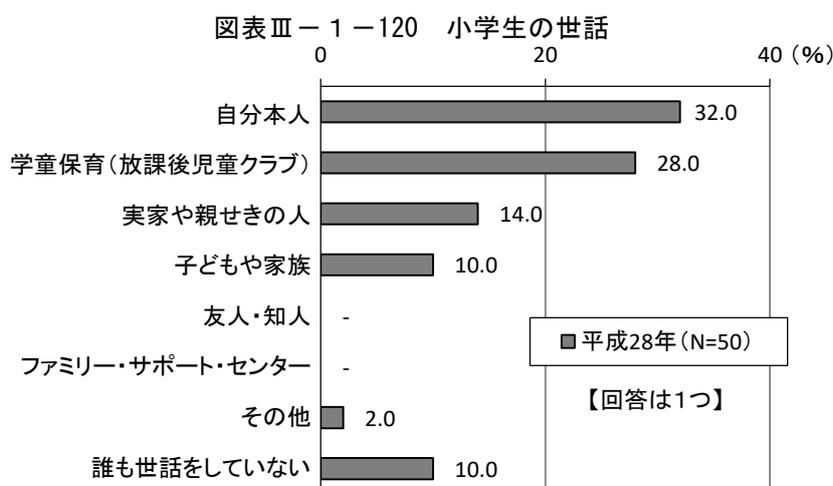
図表Ⅲ-1-119 未就学児の世話

		標本数	(認可保育所)	幼稚園	職場の託児所	認可外保育所・ベビーホテル	ファミリー・サポート・センター	子どもや家族	実家や親せきの人	友人・知人	その他	誰も世話をしていない	子どもを置いて家を空けることはない	無回答
全体		10	8	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		100.0	80.0	10.0	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-
時系列	平成23年	25	68.0	4.0	-	8.0	-	-	12.0	-	-	-	4.0	4.0
同居家族別	母子のみ	7	85.7	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	-	-
	20歳以上の子ども	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	父	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	母	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	340	73.8	7.1	1.2	0.9	-	1.5	5.6	0.3	0.3	-	4.7	4.7
	北九州市	304	66.8	14.5	0.7	1.0	-	2.6	4.9	-	0.3	-	3.9	5.3
	福岡市	233	69.5	5.6	-	1.7	-	3.0	9.4	0.4	0.4	0.4	0.6	3.4
	父子家庭	4	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-

(4) 小学生の世話

問 28-2 (小学生のお子さんがある方に) 学校が終わったあとに、そのお子さんを主に誰が世話をしていますか。(○印は1つ)

小学生の子どもがいる人で、学校が終わったあとの子どもの世話については、「自分本人」が32.0%で最も高く、次いで「学童保育(放課後児童クラブ)」が28.0%、「実家や親せきの人」が14.0%、「子どもや家族」が10.0%となっている。また、「誰も世話をしていない」も10.0%みられる



図表Ⅲ-1-121 小学生の世話

		標本数	自分本人	子どもや家族	実家や親せきの人	友人・知人	(学童保育 放課後児童クラブ)	ファミリー・サポート・センター	その他	誰も世話をしていない	無回答
全体		50 100.0	16 32.0	5 10.0	7 14.0	-	14 28.0	-	1 2.0	5 10.0	2 4.0
時系列	平成23年	41	22.0	12.2	12.2	-	41.5	-	-	12.2	-
同居家族別	母子のみ	34	35.3	2.9	11.8	-	29.4	-	2.9	11.8	5.9
	20歳以上の子ども	4	50.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-
	父	4	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
	母	12	16.7	25.0	25.0	-	25.0	-	-	8.3	-
	その他	5	20.0	20.0	-	-	40.0	-	-	20.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	624	23.7	10.4	17.9	0.5	26.1	0.3	1.6	15.5	3.8
	北九州市	436	24.8	9.2	15.8	0.2	30.0	-	2.1	15.1	2.8
	福岡市	395	30.6	6.8	11.1	-	28.6	0.3	1.8	17.7	3.0
	父子家庭	23	39.1	30.4	13.0	-	8.7	4.3	-	4.3	-

注)平成23年の調査では、小学1～3年生がいる世帯が対象となっている。

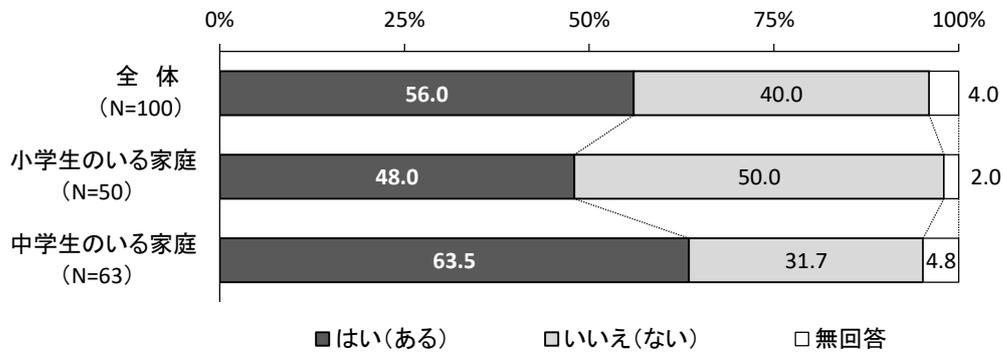
(5) 子どもがひとりになる時間

問 28-3 (小学生・中学生のお子さんがある方に) 学校が終わったあとに、子どもがひとり(子どもだけ)になる時間がありますか。(〇印は1つ)

小学生・中学生の子どもがいる人で、学校が終わったあとに子どもだけになる時間があるかについては、「はい(ある)」が 56.0%、「いいえ(ない)」が 40.0%で、半数以上が放課後子どもだけになる時間があると回答している。

同居家族別にみると、母子のみの世帯と 20 歳以上の子どもがいる世帯で「はい(ある)」が高い。

図表Ⅲ-1-122 子どもがひとりになる時間の有無



図表Ⅲ-1-123 子どもがひとりになる時間の有無

(%)

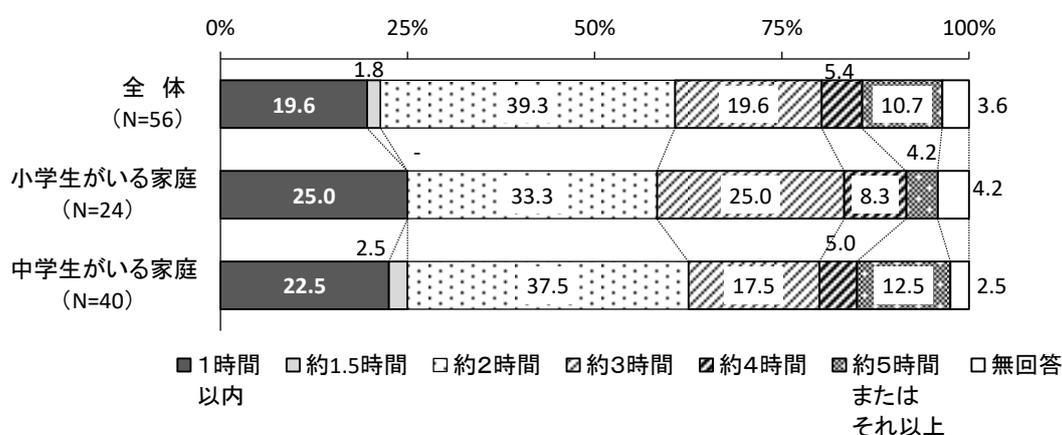
		標本数	(は あ い る)	(い な い え)	無 回 答
全体		100	56	40	4
		100.0	56.0	40.0	4.0
同居家族別	母子のみ	66	68.2	27.3	4.5
	20歳以上の子ども	14	64.3	28.6	7.1
	父	8	-	100.0	-
	母	18	11.1	88.9	-
	その他	7	28.6	71.4	-
	無回答	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	941	48.9	47.9	3.2
	北九州市	704	52.0	46.0	2.0
	父子家庭	49	55.1	40.8	4.1

問 28-3-1 (はいと答えた方に) 子どもがひとり(子どもだけ)になる時間は、1日
当たりどれくらいですか。(〇印は1つ)

放課後に子どもがひとりだけになる時間としては、小学生、中学生がいる場合のどちらも「約2時間」が最も高く、小学生で33.3%、中学生で37.5%となっている。小学生のいる家庭では「約3時間」も25.0%となっている。中学生のいる家庭では、「約5時間以上」が1割を超えている。

同居家族別では、母子のみの世帯で子どもだけの時間が長くなる傾向がみられる。

図表Ⅲ-1-124 子どもがひとりになる時間



図表Ⅲ-1-125 子どもがひとりになる時間

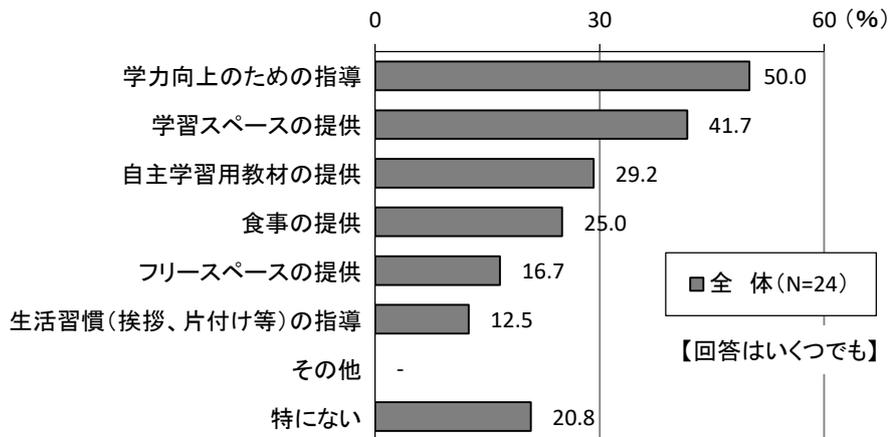
		標本数	1時間以内	約1.5時間	約2時間	約3時間	約4時間	約5時間以上またはそれ以上	無回答
全体		56	11	1	22	11	3	6	2
		100.0	19.6	1.8	39.3	19.6	5.4	10.7	3.6
同居家族別	母子のみ	45	15.6	2.2	37.8	20.0	6.7	13.3	4.4
	20歳以上の子ども	9	33.3	-	55.6	11.1	-	-	-
	父	-	-	-	-	-	-	-	-
	母	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-
	その他	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
参考	県(三市を除く)	460	23.7	7.8	38.9	18.7	6.3	3.3	1.3
	北九州市	366	24.6	8.2	42.3	15.0	3.6	4.9	1.4
	父子家庭	27	18.5	7.4	40.7	11.1	7.4	11.1	3.7

(6) 子どもがひとりになる時間に利用したい支援

問 28-3-2 (はいと答えた方に) 子どもがひとり(子どもだけ)になる時間に、利用したい支援がありますか。(〇印はいくつでも)

子どもだけになる時間に利用したい支援としては、子どもが小学生の場合は「学力向上のための指導」が50.0%で最も高く、「学習スペースの提供」が41.7%、「自主学習用教材の提供」が29.2%、「食事の提供」が25.0%などと続いている。また、「特にない」は20.8%である。

図表Ⅲ-1-126 小学生の子どもがひとりになる時間に利用したい支援 [複数回答]

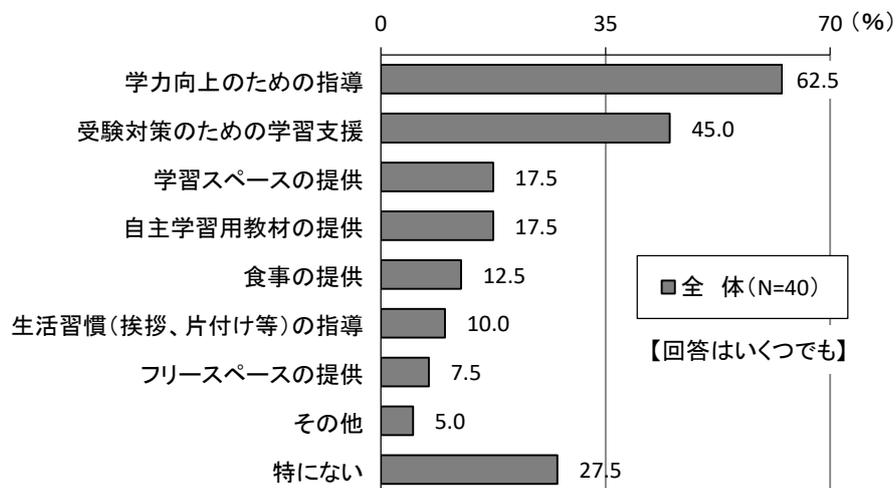


図表Ⅲ-1-127 小学生の子どもがひとりになる時間に利用したい支援 [複数回答]

		標本数	学習スペースの提供	学力向上のための指導	自主学習用教材の提供	生活習慣(挨拶、片付け等)の指導	食事の提供	フリースペースの提供	その他	特にない	無回答
全体		24	41.7	50.0	29.2	12.5	25.0	16.7	-	20.8	4.2
子どもだけに なる時間別	1時間以内	6	33.3	-	16.7	-	-	33.3	33.3	-	16.7
	約1.5時間	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	約2時間	8	37.5	50.0	50.0	12.5	25.0	-	25.0	-	-
	約3時間	6	33.3	83.3	16.7	16.7	50.0	16.7	16.7	-	-
	約4時間	2	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-
	約5時間またはそれ以上	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	無回答	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	274	29.9	40.1	15.3	17.9	16.4	13.5	2.9	29.9	1.8
	北九州市	197	27.4	37.6	18.8	16.2	20.3	19.3	0.5	36.0	1.5
	父子家庭	13	23.1	46.2	15.4	46.2	23.1	7.7	-	38.5	-

子どもが中学生の場合は、「学力向上のための指導」が62.5%で最も高く、次いで「受験対策のための学習支援」が45.0%となっている。また、「特にない」は27.5%である。

図表Ⅲ－1－128 中学生の子どもがひとりになる時間に利用したい支援 [複数回答]



図表Ⅲ－1－129 中学生の子どもがひとりになる時間に利用したい支援 [複数回答]

(%)

		標本数	学習スペースの提供	学力向上のための指導	受験対策のための学習支援	自主学習用教材の提供	生活習慣(挨拶、片付け等)の指導	食事の提供	フリースペースの提供	その他	特にない	無回答
全体		40 100.0	7 17.5	25 62.5	18 45.0	7 17.5	4 10.0	5 12.5	3 7.5	2 5.0	11 27.5	1 2.5
子どもだけに なる時間別	1時間以内	9	22.2	44.4	33.3	22.2	-	11.1	11.1	55.6	-	-
	約1.5時間	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	約2時間	15	6.7	73.3	53.3	20.0	20.0	13.3	-	13.3	-	6.7
	約3時間	7	28.6	57.1	28.6	-	-	14.3	14.3	28.6	14.3	-
	約4時間	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
	約5時間またはそれ以上	5	20.0	60.0	100.0	20.0	20.0	-	20.0	20.0	-	-
	無回答	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	273	21.6	40.7	42.5	16.5	10.3	15.0	7.0	0.4	31.9	1.5
	北九州市	246	26.8	45.5	41.1	19.9	13.4	19.1	8.1	3.3	30.5	1.2
	父子家庭	20	20.0	40.0	25.0	20.0	30.0	25.0	-	-	40.0	-

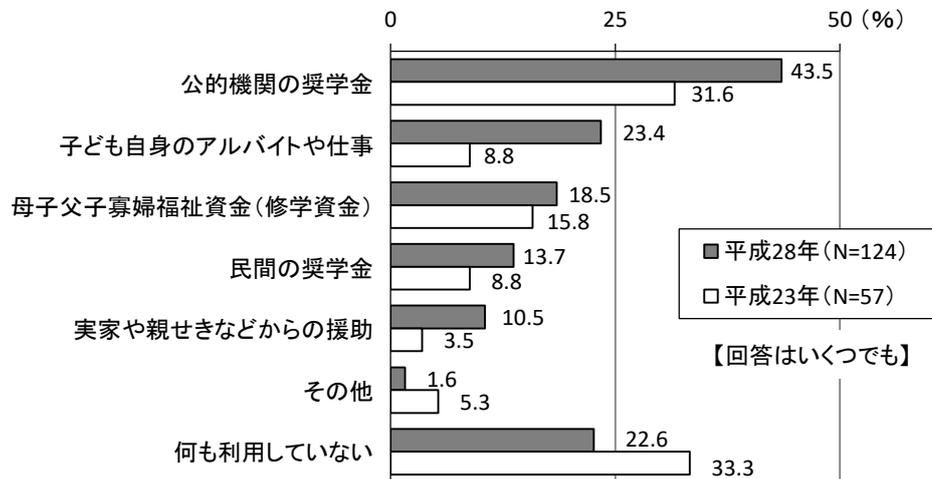
(7) 高校、短大・大学及びその他の学生の教育費

問 28-4 (高校生、短大・大学生、その他の学生のお子さんがある方に) そのお子さんの教育費として利用しているものがありますか。(○印はいくつでも)

高校、短大・大学及びその他の学生のいる世帯で、その子どもの教育費として利用しているのは、「公的機関の奨学金」が 43.5%で最も高く、「子ども自身のアルバイトや仕事」が 23.4%、「母子父子寡婦福祉資金(修学資金)」が 18.5%、「民間の奨学金」が 13.7%と続いている。「何も利用していない」人は 22.6%である。

前回調査と比べると、「何も使用していない」が減少し、「公的機関の奨学金」「子ども自身のアルバイトや仕事」が増加している。

図表Ⅲ-1-130 高校、短大・大学及びその他の学生の教育費 [複数回答]



図表Ⅲ-1-131 高校、短大・大学及びその他の学生の教育費 [複数回答]

		標本数	母子父子寡婦福祉資金(修学資金)	公的機関の奨学金	民間の奨学金	子ども自身のアルバイトや仕事	実家や親せきなどからの援助	その他	何も利用していない	無回答
全体		124	23	54	17	29	13	2	28	9
		100.0	18.5	43.5	13.7	23.4	10.5	1.6	22.6	7.3
時系列	平成23年	57	15.8	31.6	8.8	8.8	3.5	5.3	33.3	1.8
参考	県(三市を除く)	530	10.6	44.3	8.3	16.0	8.9	1.5	29.1	7.2
	北九州市	500	9.8	40.4	8.6	14.8	9.2	2.8	31.8	4.4
	福岡市	438	16.9	41.6	9.4	12.3	11.2	2.1	26.9	3.9
	父子家庭	47	10.6	31.9	4.3	6.4	6.4	-	53.2	-

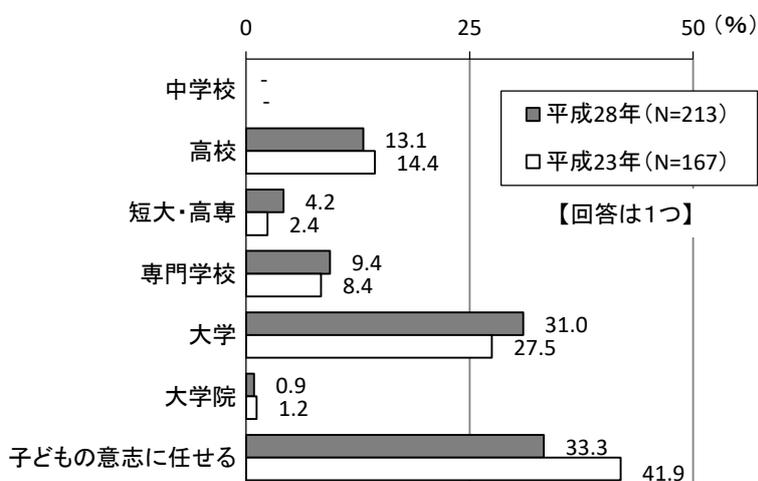
(8) 子どもの進学についての考え

問29 あなたは、お子さんをどこまで進学させようと思いますか。(〇印は1つ)

子どもの進学目標は、「子どもの意志に任せる」が33.3%で最も高く、「大学」が31.0%、「高校」が13.1%、「専門学校」が9.4%などとなっている。前回調査に比べて、「子どもの意志に任せる」が減少し、「大学」がやや増加している。

仕事の有無別にみると、仕事を持っていない人では「高校」が高く、「大学」が低くなっている。

図表Ⅲ-1-132 子どもの進学についての考え



図表Ⅲ-1-133 子どもの進学についての考え

		標本数	中学校	高校	短大・高専	専門学校	大学	大学院	志子に任せの意	無回答
全体		213 100.0	-	28 13.1	9 4.2	20 9.4	66 31.0	2 0.9	71 33.3	17 8.0
時系列	平成23年	167	-	14.4	2.4	8.4	27.5	1.2	41.9	4.2
有仕 無事 別の	持っている	191	-	11.0	3.7	9.4	32.5	1.0	34.0	8.4
	持っていない	21	-	33.3	9.5	9.5	19.0	-	23.8	4.8
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
世帯 年収 別	収入はない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	100万円未満	16	-	18.8	6.3	18.8	12.5	-	37.5	6.3
	100~150万円未満	32	-	18.8	-	6.3	28.1	3.1	37.5	6.3
	150~200万円未満	41	-	9.8	2.4	9.8	34.1	-	36.6	7.3
	200~300万円未満	59	-	10.2	5.1	8.5	39.0	-	32.2	5.1
	300~400万円未満	38	-	15.8	7.9	10.5	26.3	2.6	26.3	10.5
	400~500万円未満	9	-	-	-	-	22.2	-	55.6	22.2
	500~700万円未満	8	-	25.0	-	12.5	50.0	-	12.5	-
	700~1,000万円未満	2	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-
1,000万円以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	8	-	12.5	12.5	12.5	12.5	-	25.0	25.0
参 考	県(三市を除く)	1,512	-	14.4	2.5	7.8	27.5	0.6	41.9	5.4
	北九州市	1,291	0.1	14.0	2.6	8.4	27.6	1.5	40.6	5.3
	福岡市	1,141	0.2	10.4	3.1	6.4	37.8	1.1	37.1	3.9
	父子家庭	86	-	14.0	2.3	10.5	34.9	-	34.9	3.5

9. 生活状況

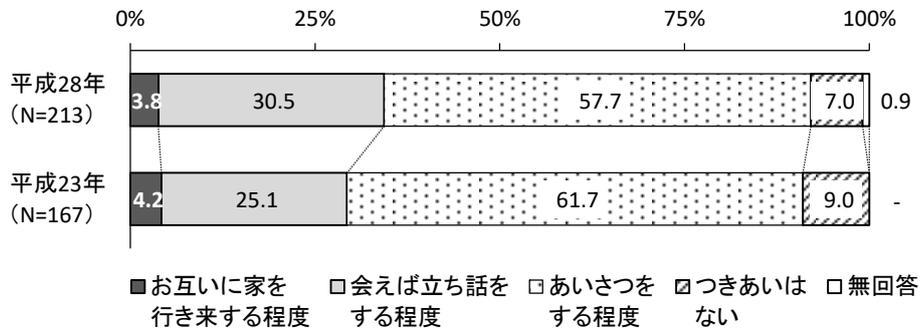
(1) 近所づきあいの程度

問 30 あなたのふだんの近所づきあいはいかがですか。(○印は1つ)

ふだんの近所づきあいの程度は、「あいさつをする程度」が57.7%で最も高く、「会えば立ち話をする程度」が30.5%、「お互いに家を行き来する程度」が3.8%となっており、「つきあいはない」との回答も7.0%みられる。前回調査に比べ、「会えば立ち話をする程度」がやや増加しているが、全体としては大きな変化はない。

年齢別でみると、30歳代では、近所づきあいが浅い人が多い傾向がみられる。

図表Ⅲ－1－134 近所づきあいの程度



図表Ⅲ－1－135 近所づきあいの程度

		標本数	お互いに家を行き来する程度	会えば立ち話をする程度	あいさつをする程度	つきあいはない	無回答
全体		213	3.8	30.5	57.7	7.0	0.9
時系列	平成23年	167	4.2	25.1	61.7	9.0	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	-	33.3	44.4	22.2	-
	35～39歳	21	-	14.3	71.4	14.3	-
	40～44歳	47	4.3	34.0	59.6	2.1	-
	45～49歳	86	5.8	30.2	55.8	5.8	2.3
	50歳以上	48	2.1	35.4	54.2	8.3	-
	無回答	2	-	-	100.0	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	3.2	26.2	62.2	7.4	0.9
	北九州市	1,291	4.0	23.6	61.2	9.8	1.5
	福岡市	1,141	4.6	26.2	56.6	11.7	0.8
	父子家庭	86	2.3	22.1	68.6	5.8	1.2

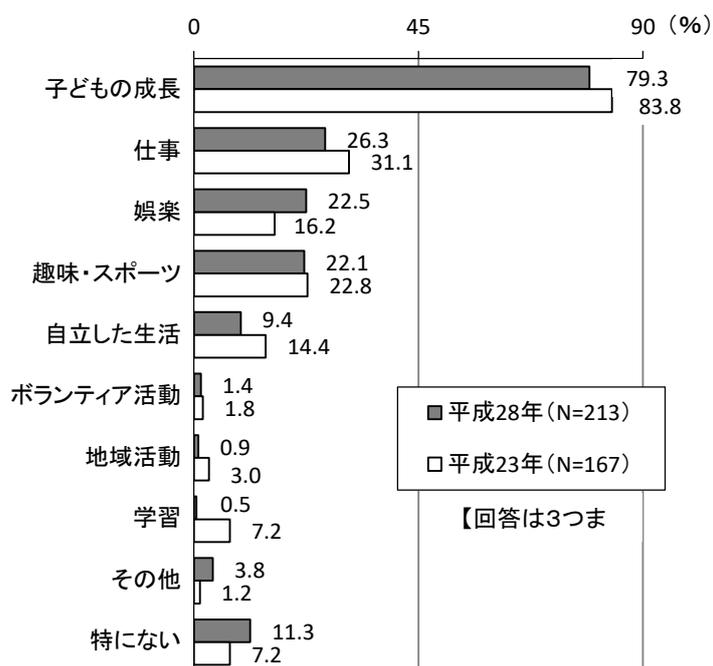
(2) 生きがい

問31 あなたは毎日の生活で、どのようなことに生きがいを感じますか。
(○印は3つまで)

毎日の生活で生きがいを感じることは、「子どもの成長」が79.3%と特に高い。次いで「仕事」が26.3%、「娯楽」が22.5%、「趣味・スポーツ」が22.1%などとなっている。

前回調査と比べると、「仕事」がやや減少し、「娯楽」が増加している。

図表Ⅲ-1-136 生きがい [複数回答]



図表Ⅲ－１－137 生きがい [複数回答]

(%)

		標本数	子どもの成長	仕事	趣味・スポーツ	学習	娯楽	地域活動	ボランティア活動	自立した生活	その他	特にない	無回答
全体		213 100.0	169 79.3	56 26.3	47 22.1	1 0.5	48 22.5	2 0.9	3 1.4	20 9.4	8 3.8	24 11.3	3 1.4
時系列	平成23年	167	83.8	31.1	22.8	7.2	16.2	3.0	1.8	14.4	1.2	7.2	0.6
有仕事 無事別の	持っている	191	80.1	28.3	23.6	0.5	23.6	1.0	1.6	9.4	3.1	10.5	1.0
	持っていない	21	71.4	4.8	9.5	-	14.3	-	-	9.5	4.8	19.0	4.8
	無回答	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
就業形態別の	自営業主	10	70.0	50.0	-	-	30.0	-	-	10.0	-	30.0	-
	家族従業者□	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	95	83.2	33.7	22.1	-	22.1	-	3.2	12.6	-	10.5	-
	派遣・契約社員	22	77.3	13.6	36.4	-	45.5	9.1	-	-	13.6	4.5	-
	パートタイマー	53	77.4	22.6	20.8	1.9	15.1	-	-	9.4	5.7	9.4	3.8
	臨時・日雇など	6	66.7	16.7	33.3	-	50.0	-	-	-	-	16.7	-
	内職	3	100.0	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他 無回答	- 2	- 100.0	-	- 50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	83.1	29.6	20.7	1.9	21.0	1.0	1.1	8.3	1.7	11.2	1.2
	北九州市	1,291	80.6	31.4	21.0	2.2	20.1	1.2	1.2	8.6	2.0	11.9	1.9
	福岡市	1,141	81.6	31.6	23.5	2.8	18.5	1.5	1.6	9.6	1.4	12.3	0.9
	父子家庭	86	76.7	37.2	34.9	2.3	24.4	5.8	3.5	4.7	1.2	8.1	-

(3) 生活上の不安や悩み

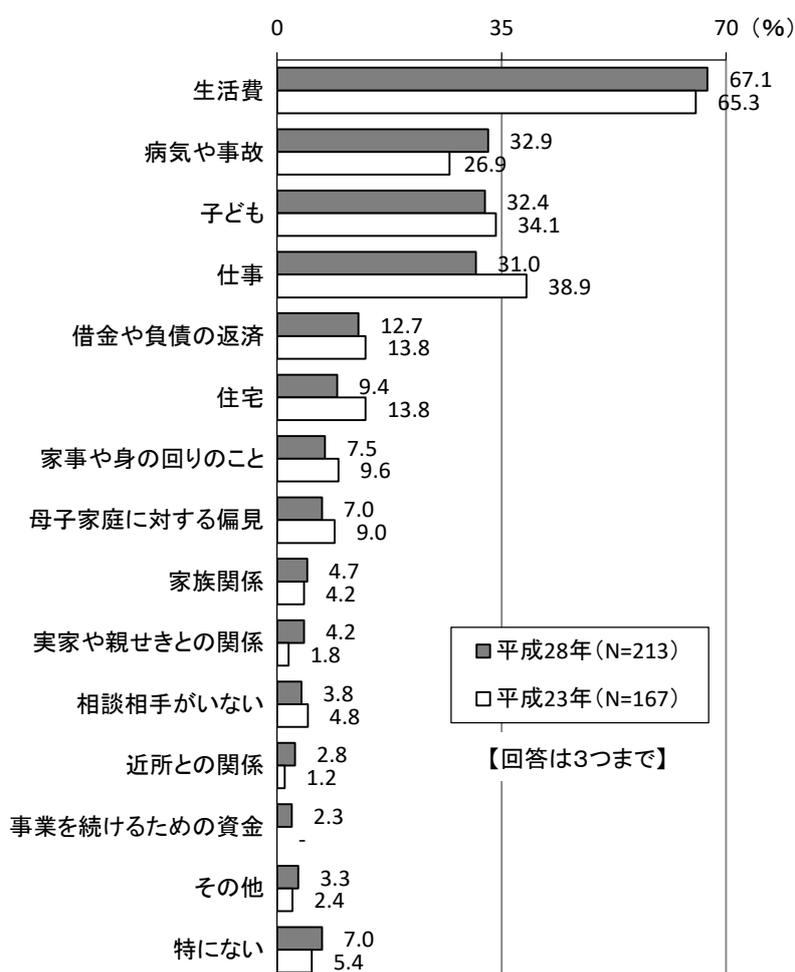
問 32 あなたは、生活の上で、どんな不安や悩みがありますか。(○印は3つまで)

生活上の不安や悩みについてみると、「生活費」が 67.1%で目立って高く、次いで「病気や事故」が 32.9%、「子ども」が 32.4%、「仕事」が 31.0%などとなっている。

前回調査と比べると、「仕事」がやや減少し、「病気や事故」が増加している。

年齢別にみると、40～44歳で「病気や事故」が高くなっている。

図表Ⅲ－1－138 生活上の不安や悩み [複数回答]



図表Ⅲ－１－139 生活上の不安や悩み〔複数回答〕

(%)

		標本数	生活費	事業を続けるための資金	借金や負債の返済	仕事	住宅	家事や身の回りのこと	病気や事故	子ども	家族関係	実家や親せきとの関係	近所との関係	母子家庭に対する偏見	相談相手がない	その他	特にない	無回答
全体		213 100.0	143 67.1	5 2.3	27 12.7	66 31.0	20 9.4	16 7.5	70 32.9	69 32.4	10 4.7	9 4.2	6 2.8	15 7.0	8 3.8	7 3.3	15 7.0	4 1.9
時系列	平成23年	167	65.3	-	13.8	38.9	13.8	9.6	26.9	34.1	4.2	1.8	1.2	9.0	4.8	2.4	5.4	0.6
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	88.9	-	-	44.4	22.2	11.1	33.3	22.2	-	-	-	22.2	-	-	-	-
	35～39歳	21	66.7	-	4.8	19.0	9.5	14.3	23.8	38.1	19.0	4.8	-	9.5	-	-	4.8	-
	40～44歳	47	68.1	4.3	10.6	34.0	6.4	4.3	46.8	34.0	2.1	6.4	8.5	6.4	6.4	2.1	6.4	-
	45～49歳	86	64.0	1.2	17.4	30.2	9.3	8.1	26.7	31.4	4.7	3.5	1.2	4.7	3.5	3.5	10.5	3.5
	50歳以上	48	68.8	4.2	12.5	33.3	10.4	6.3	33.3	33.3	2.1	2.1	2.1	4.2	4.2	6.3	4.2	2.1
	無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	100.0	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	71.8	1.3	13.9	33.5	12.6	8.4	24.1	34.5	4.8	4.2	1.1	7.6	2.8	3.5	4.9	1.2
	北九州市	1,291	64.7	1.0	12.6	32.6	12.0	8.2	27.2	33.9	4.3	3.6	0.9	6.5	2.9	3.0	6.0	2.5
	福岡市	1,141	68.5	2.5	14.9	33.6	12.6	8.3	25.8	35.7	4.9	4.7	1.0	7.3	3.1	2.7	6.0	1.1
	父子家庭	86	41.9	12.8	17.4	22.1	12.8	24.4	31.4	30.2	3.5	-	3.5	4.7	5.8	3.5	9.3	-

(4) 困った時の相談相手

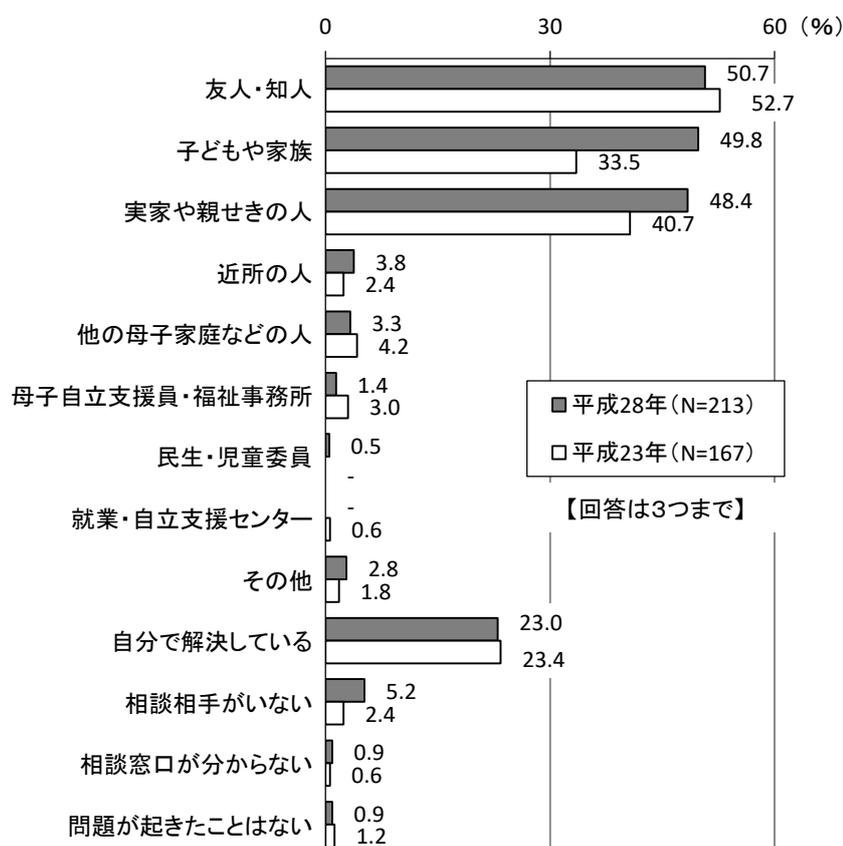
問33 あなたは何か困った問題が起きた場合、誰に相談していますか。(〇印は3つまで)

困ったことが起きた場合の相談相手としては、「友人・知人」が50.7%、「子どもや家族」が49.8%、「実家や親せきの人」が48.4%と高くなっており、身近な人を相談相手としていることが分かる。公的な機関への相談は少ない一方、「自分で解決している」(23.0%)、「相談相手がない」(5.2%)という人もみられる。

前回調査と比べると、「子どもや家族」が大幅に増加しているが、全体の傾向としてはそれほど変化していない。

年齢別でみると、年齢が低い層で「自分で解決している」が高くなっている。

図表Ⅲ-1-140 困った時の相談相手 [複数回答]



図表Ⅲ－１－141 困った時の相談相手〔複数回答〕

		標本数	子どもや家族	実家や親せきの人	近所の人	友人・知人	他の人 の母子家庭など	就 業・自 立支援セ ンター	福 祉事 務所	母 子自 立支 援員・	民 生・ 児 童委 員	そ の 他	自 分 で 解 決 し て い る	相 談 相 手 が い な い	相 談 窓 口 が 分 か ら な い	問 題 が 起 き た こ と は な い	無 回 答
全体		213 100.0	106 49.8	103 48.4	8 3.8	108 50.7	7 3.3	- -	3 1.4	1 0.5	6 2.8	49 23.0	11 5.2	2 0.9	2 0.9	3 1.4	
時系列	平成23年	167	33.5	40.7	2.4	52.7	4.2	0.6	3.0	-	1.8	23.4	2.4	0.6	1.2	1.2	
年 齢 別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	33.3	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-	-	55.6	11.1	-	-	-	-
	35～39歳	21	33.3	52.4	-	47.6	-	-	-	-	-	42.9	-	4.8	-	-	-
	40～44歳	47	44.7	59.6	4.3	57.4	4.3	-	4.3	-	4.3	17.0	8.5	2.1	-	-	-
	45～49歳	86	54.7	45.3	3.5	54.7	2.3	-	-	1.2	2.3	20.9	4.7	-	1.2	2.3	2.3
	50歳以上 無回答	48 2	54.2 100.0	47.9 -	4.2 -	45.8 50.0	6.3 -	- -	2.1 -	- -	4.2 -	16.7 50.0	4.2 -	- -	2.1 -	2.1 -	- -
参 考	県(三市を除く)	1,512	40.0	45.8	1.1	55.2	4.2	0.5	1.5	0.7	2.6	21.7	6.3	1.8	0.4	1.1	
	北九州市	1,291	40.3	44.9	1.1	53.2	3.6	1.1	4.0	0.1	2.8	21.5	5.2	2.1	0.5	1.8	
	福岡市	1,141	38.4	42.0	0.9	51.8	5.3	1.8	2.0	0.3	3.0	23.7	7.4	2.3	0.8	0.6	
	父子家庭	86	32.6	32.6	1.2	33.7	-	-	4.7	1.2	1.2	36.0	10.5	4.7	2.3	-	

(5) 家事の担当

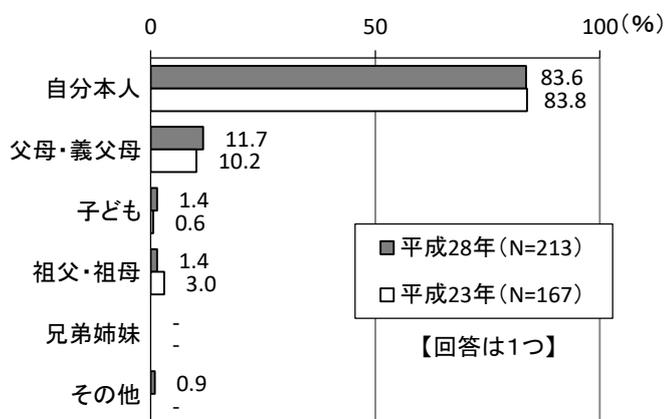
問 34 あなたの世帯では、炊事、掃除、洗濯などの家事を主に誰がしていますか。

(○印は1つ)

ふだん家事を主にしている人は、「自分本人」が 83.6%で最も高く、次いで「父母・義父母」11.7%となっている。前回調査から変化はみられない。

同居家族別では、母子のみの家庭では「自分本人」が 96.0%とほとんど母親のみがしているが、父または母と同居している場合、「父母・義父母」が6割前後と高くなっている。

図表Ⅲ－1－142 家事の担当



図表Ⅲ－1－143 家事の担当

		標本数	自分本人	子ども	父母・義父母	祖父・祖母	兄弟姉妹	その他	無回答
全体		213	178	3	25	3	-	2	2
		100.0	83.6	1.4	11.7	1.4	-	0.9	0.9
時系列	平成23年	167	83.8	0.6	10.2	3.0	-	-	2.4
同居家族別	母子のみ	126	96.0	-	2.4	-	-	-	1.6
	20歳以上の子ども	47	89.4	6.4	2.1	-	-	2.1	-
	父	19	26.3	-	63.2	10.5	-	-	-
	母	38	31.6	-	57.9	7.9	-	2.6	-
	その他	13	69.2	-	23.1	-	-	7.7	-
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	82.0	0.7	15.2	0.8	0.3	0.1	0.9
	北九州市	1,291	83.4	0.4	12.5	1.3	0.2	0.5	1.7
	福岡市	1,141	87.3	0.7	9.9	0.8	-	0.8	0.5
	父子家庭	86	59.3	5.8	25.6	4.7	-	4.7	-

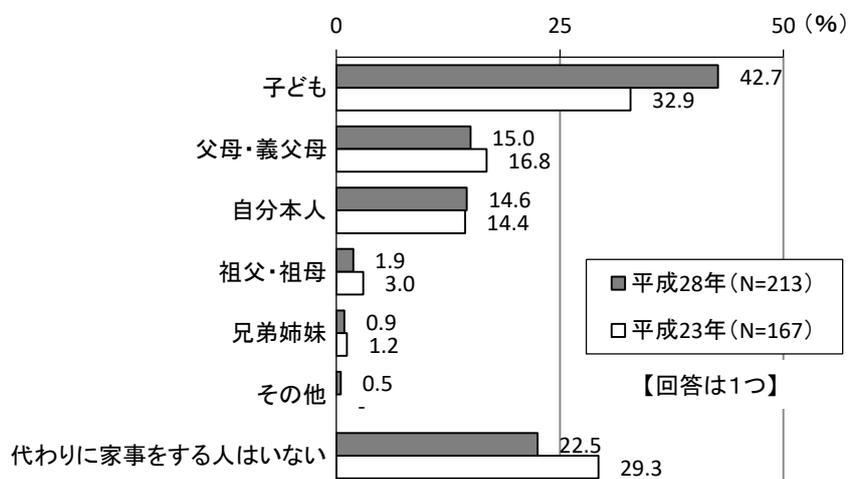
問 35 ふだん家事をしている人が病気などの時は、代わりに主に誰が家事をしますか。
 (〇印は1つ)

また、ふだん家事をしている人が病気などの時に代わりに家事をする人は、「子ども」が 42.7%で最も高く、「父母・義父母」が 15.0%、「自分本人」が 14.6%となっている。また、「代わりに家事をする人がいない」も 22.5%に上る。

前回調査と比べると、「子ども」が約 10 ポイント増加している。

同居家族別にみると、母子のみの家庭では「代わりに家事をする人がいない」が高くなっており、20 歳以上の子どもや母との同居の場合、子どもや母の割合が高くなっている。

図表Ⅲ－1－144 家事担当者が病気の時に代わりに家事をする人



図表Ⅲ－１－145 家事担当者が病気の時に代わりに家事をする人

		(%)								
		標本数	自分本人	子ども	父母・義父母	祖父・祖母	兄弟姉妹	その他	ないを代わ るすりに 人は家 い事	無回答
全 体		213 100.0	31 14.6	91 42.7	32 15.0	4 1.9	2 0.9	1 0.5	48 22.5	4 1.9
時系列	平成23年	167	14.4	32.9	16.8	3.0	1.2	-	29.3	2.4
年 齢 別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	22.2	22.2	22.2	-	-	-	33.3	-
	35～39歳	21	19.0	23.8	38.1	-	-	-	19.0	-
	40～44歳	47	8.5	42.6	21.3	2.1	2.1	-	23.4	-
	45～49歳	86	17.4	44.2	11.6	1.2	1.2	1.2	19.8	3.5
	50歳以上	48	12.5	50.0	4.2	4.2	-	-	27.1	2.1
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	-	-	-
同 居 家 族 別	母子のみ	126	2.4	46.8	15.9	1.6	0.8	-	30.2	2.4
	20歳以上の子ども	47	14.9	61.7	6.4	2.1	2.1	-	10.6	2.1
	父	19	57.9	10.5	15.8	-	-	-	15.8	-
	母	38	57.9	10.5	23.7	2.6	-	2.6	2.6	-
	その他	13	30.8	46.2	7.7	7.7	-	-	7.7	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
子 ど も の 状 況 別	通園していない乳児・幼児	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	認可保育所・園に通園	9	22.2	22.2	22.2	-	11.1	-	22.2	-
	認可外保育施設に通園	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼稚園に通園	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	小学生	50	16.0	24.0	26.0	4.0	-	-	26.0	4.0
	中学生	63	7.9	39.7	17.5	3.2	-	-	30.2	1.6
	高校生	106	15.1	49.1	13.2	1.9	-	-	20.8	-
	短大生・大学生	24	25.0	41.7	12.5	-	-	-	16.7	4.2
	その他の学生	11	-	72.7	-	-	-	-	27.3	-
	仕事をしている子ども	16	12.5	50.0	6.3	-	6.3	6.3	18.8	-
	無職の子ども	4	-	100.0	-	-	-	-	-	-
その他	2	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
参 考	県(三市を除く)	1,512	18.5	24.1	20.6	1.9	2.0	0.4	31.3	1.3
	北九州市	1,291	14.4	24.3	20.7	1.9	1.7	0.6	34.4	2.0
	福岡市	1,141	15.3	30.1	16.4	1.9	2.1	0.9	32.3	1.0
	父子家庭	86	24.4	29.1	11.6	1.2	2.3	3.5	27.9	-

(6) 今後行いたい家族レクリエーション

問 36 あなたは今後、どんな家族レクリエーションをしたいと思いますか。

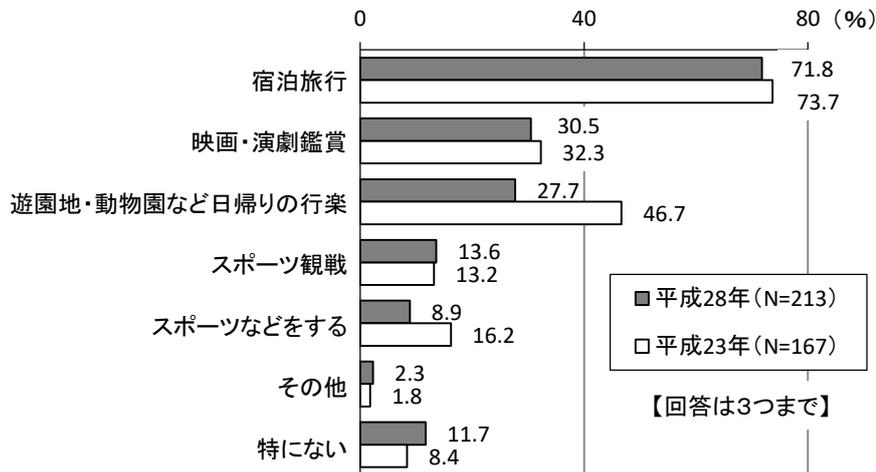
(○印は3つまで)

今後行いたい家族レクリエーションは、「宿泊旅行」が 71.8%と高く、次いで「映画・演劇鑑賞」が 30.5%、「遊園地・動物園など日帰りの行楽」が 27.7%、「スポーツ観戦」が 13.6%で続いている。

前回調査と比べると「遊園地・動物園など日帰りの行楽」が減少している。

子どもの状況別では、未就学児や小学生の子どもがいる人では「遊園地・動物園など日帰りの行楽」が高くなっている。

図表Ⅲ-1-146 今後行いたい家族レクリエーション [複数回答]



図表Ⅲ-1-147 今後行いたい家族レクリエーション [複数回答]

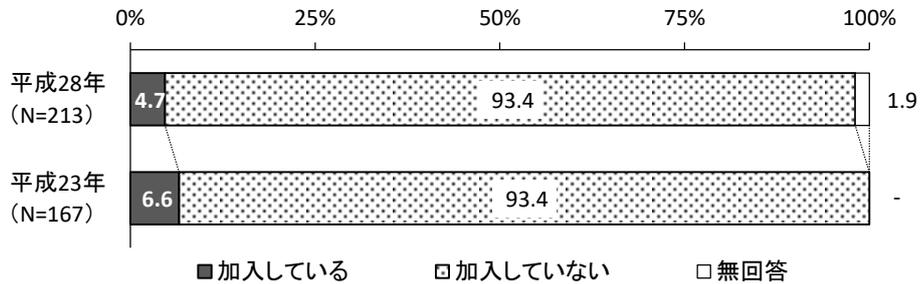
		(%)								
		標本数	映画・演劇鑑賞	スポーツ観戦	スポーツなどをする	日遊園地の・動物園など	宿泊旅行	その他	特にない	無回答
全体		213 100.0	65 30.5	29 13.6	19 8.9	59 27.7	153 71.8	5 2.3	25 11.7	3 1.4
時系列	平成23年	167	32.3	13.2	16.2	46.7	73.7	1.8	8.4	1.2
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	44.4	11.1	11.1	77.8	55.6	-	-	-
	35～39歳	21	23.8	14.3	19.0	23.8	71.4	-	14.3	-
	40～44歳	47	40.4	14.9	14.9	42.6	76.6	2.1	6.4	-
	45～49歳	86	25.6	17.4	5.8	19.8	69.8	2.3	15.1	3.5
	50歳以上	48	29.2	6.3	4.2	18.8	75.0	2.1	12.5	-
	無回答	2	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-
子どもの状況別	通園していない乳児・幼児	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	認可保育所・園に通園	9	22.2	-	11.1	77.8	77.8	-	11.1	-
	認可外保育施設に通園	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼稚園に通園	1	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
	小学生	50	42.0	22.0	12.0	48.0	80.0	-	4.0	2.0
	中学生	63	31.7	15.9	17.5	33.3	73.0	1.6	11.1	3.2
	高校生	106	30.2	10.4	5.7	18.9	67.0	3.8	15.1	0.9
	短大生・大学生	24	45.8	25.0	12.5	25.0	79.2	-	4.2	-
	その他の学生	11	18.2	9.1	-	9.1	100.0	-	-	-
	仕事をしている子ども	16	25.0	18.8	-	31.3	75.0	-	12.5	-
	無職の子ども	4	-	-	-	-	75.0	-	25.0	-
	その他	2	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	36.2	14.3	15.4	45.1	69.7	2.8	8.1	1.7
	北九州市	1,291	35.6	11.2	13.2	40.0	67.5	3.2	11.2	2.6
	福岡市	1,141	40.3	13.6	17.6	41.8	69.1	3.7	8.2	1.2
	父子家庭	86	18.6	22.1	19.8	27.9	64.0	8.1	14.0	1.2

(7) 母子会（母子寡婦福祉会）の加入状況

問37 ところであなたは、母子会（母子寡婦福祉会）に加入していますか。（○印は1つ）

母子会（母子寡婦福祉会）への加入状況は、「加入している」が4.7%、「加入していない」が93.4%で、加入していない人が9割を超えている。
 前回調査と比べても大きな変化はみられない。
 年齢別では、50歳以上の人で加入率がやや高い。

図表Ⅲ－1－148 母子会（母子寡婦福祉会）の加入状況



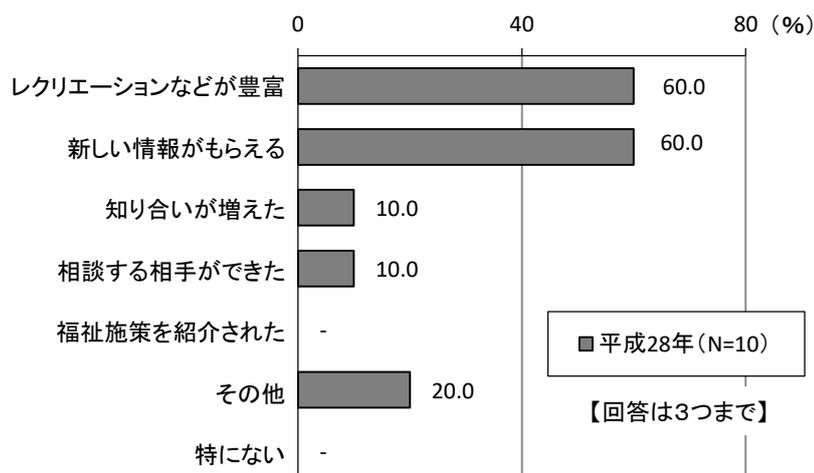
図表Ⅲ－1－149 母子会（母子寡婦福祉会）の加入状況

		標本数	加入している (%)	加入していない (%)	無回答 (%)
全体		213	4.7	93.4	1.9
時系列	平成23年	167	6.6	93.4	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-
	30～34歳	9	-	100.0	-
	35～39歳	21	4.8	95.2	-
	40～44歳	47	4.3	93.6	2.1
	45～49歳	86	3.5	94.2	2.3
	50歳以上	48	8.3	89.6	2.1
	無回答	2	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	1,512	2.8	96.2	1.0
	北九州市	1,291	1.8	96.1	2.1
	父子家庭	86	3.5	82.6	14.0

問37-1（加入していると答えた方に）加入して良かったことはありますか。
（○印は3つまで）

母子会に加入している人の、加入してよかったことは、「レクリエーションなどが豊富」「新しい情報がもらえる」が高くなっている。

図表Ⅲ-1-150 母子会（母子寡婦福祉会）に加入して良かったこと〔複数回答〕



図表Ⅲ-1-151 母子会（母子寡婦福祉会）に加入して良かったこと〔複数回答〕

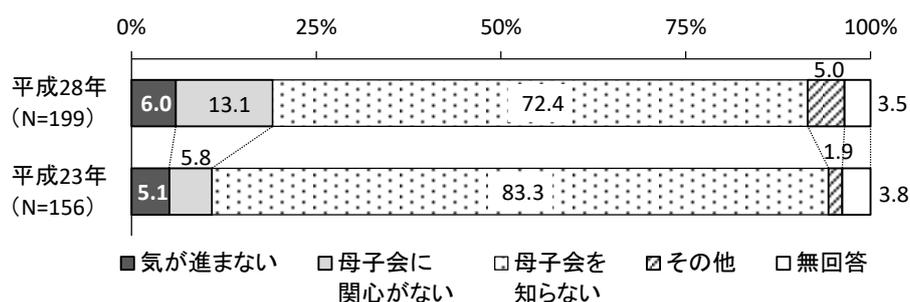
		標本数	知り合いが増えた	相談する相手ができる	福祉施策を紹介された	レクリエーションなどが豊富	新しい情報がもらえる	その他	特にない	無回答
全体		10	1	1	-	6	6	2	-	1
		100.0	10.0	10.0	-	60.0	60.0	20.0	-	10.0
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	35～39歳	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
	40～44歳	2	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-
	45～49歳	3	-	-	-	100.0	66.7	-	-	-
	50歳以上	4	-	25.0	-	25.0	50.0	25.0	-	25.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	43	34.9	14.0	2.3	23.3	46.5	4.7	30.2	-
	北九州市	23	17.4	8.7	8.7	13.0	13.0	8.7	43.5	4.3
	父子家庭	3	-	-	-	33.3	-	-	66.7	-

問37-2 (加入していないと答えた方に) 加入していない理由は。(〇印は1つ)

一方、母子会に加入していない理由としては、「母子会を知らない」が72.4%で最も高く、「母子会に関心がない」13.1%、「気が進まない」が6.0%となっている。

前回調査と比べると、「母子会を知らない」がやや減少し、「母子会に関心がない」が増加している。

図表Ⅲ-1-152 母子会（母子寡婦福祉会）に加入していない理由



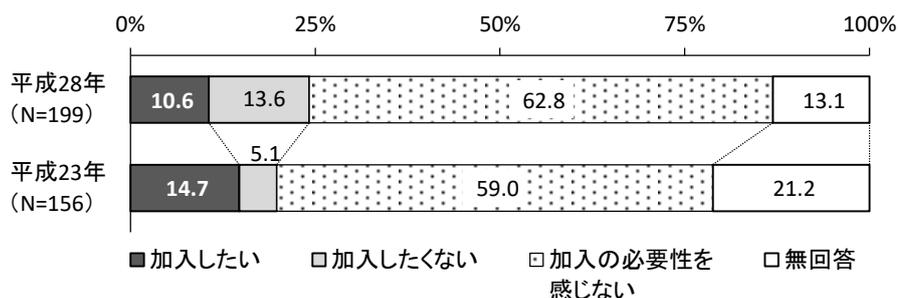
図表Ⅲ-1-153 母子会（母子寡婦福祉会）に加入していない理由

		標本数	気が進まない	母子会に関心がない	母子会を知らない	その他	無回答
全体		199	12	26	144	10	7
		100.0	6.0	13.1	72.4	5.0	3.5
時系列	平成23年	156	5.1	5.8	83.3	1.9	3.8
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	-	11.1	88.9	-	-
	35～39歳	20	15.0	15.0	70.0	-	-
	40～44歳	44	4.5	18.2	68.2	6.8	2.3
	45～49歳	81	6.2	12.3	70.4	6.2	4.9
	50歳以上	43	4.7	9.3	76.7	4.7	4.7
	無回答	2	-	-	100.0	-	-
参考	県(三市を除く)	1,454	6.7	9.8	77.7	2.7	3.0
	北九州市	1,241	6.5	13.5	71.8	3.7	4.5
	父子家庭	71	7.0	9.9	80.3	1.4	1.4

問37-3（加入していないと答えた方に）では、今後はいかがですか。（○印は1つ）

母子会に加入していない人の今後の加入意向としては、「加入したい」が10.6%、「加入したくない」が13.6%、「加入の必要性を感じない」が62.8%となっており、前回調査と比べると、わずかではあるが、「加入したい」が減少し、「加入したくない」が増加している。

図表Ⅲ-1-154 母子会（母子寡婦福祉会）への今後の加入意向



図表Ⅲ-1-155 母子会（母子寡婦福祉会）への今後の加入意向

		標本数	加入したい	加入したくない	加入の必要性を感じない	無回答
全体		199	21	27	125	26
		100.0	10.6	13.6	62.8	13.1
時系列	平成23年	156	14.7	5.1	59.0	21.2
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	33.3	11.1	55.6	-
	35～39歳	20	10.0	5.0	75.0	10.0
	40～44歳	44	6.8	6.8	72.7	13.6
	45～49歳	81	11.1	14.8	59.3	14.8
	50歳以上	43	9.3	20.9	55.8	14.0
	無回答	2	-	50.0	50.0	-
参考	県(三市を除く)	1,454	11.7	10.7	61.1	16.5
	北九州市	1,241	11.7	13.9	59.2	15.1
	父子家庭	71	9.9	14.1	62.0	14.1

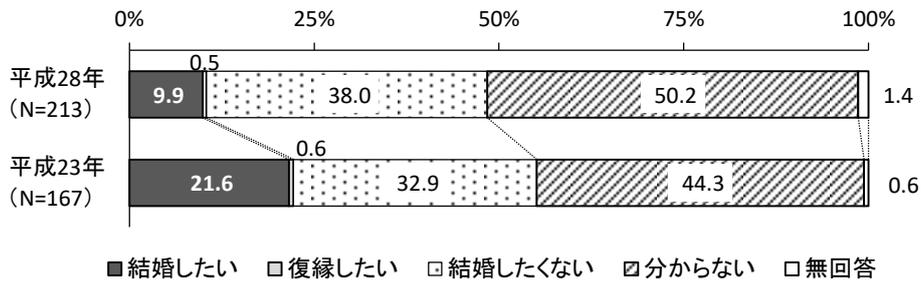
(8) 結婚の意思

問 38 あなたには結婚の意思がありますか。(〇印は1つ)

今後の結婚の意思としては、「結婚したい」が 9.9%、「結婚したくない」が 38.0%、「分からない」が 50.2%などとなっており、前回調査よりも「結婚したい」が減少している。

年齢別では、30～34歳で「結婚したい」が高く、40～44歳と50歳以上では「結婚したくない」が高くなっている。

図表Ⅲ－1－156 結婚の意思



図表Ⅲ－1－157 結婚の意思

		標本数	結婚したい (%)	復縁したい (%)	結婚したくない (%)	分からない (%)	無回答 (%)
全体		213	9.9	0.5	38.0	50.2	1.4
時系列	平成23年	167	21.6	0.6	32.9	44.3	0.6
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	44.4	-	22.2	33.3	-
	35～39歳	21	-	-	28.6	71.4	-
	40～44歳	47	10.6	-	46.8	40.4	2.1
	45～49歳	86	10.5	1.2	32.6	53.5	2.3
	50歳以上	48	6.3	-	47.9	45.8	-
	無回答	2	-	-	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	1,512	17.8	0.4	33.3	46.7	1.9
	北九州市	1,291	16.7	0.6	35.9	45.1	1.7
	福岡市	1,141	17.4	0.6	37.2	43.6	1.1
	父子家庭	86	38.4	1.2	12.8	41.9	5.8

10. 子ども・子育て支援に関する施策・制度

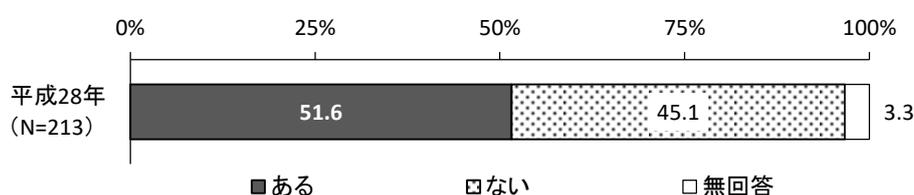
(1) 子どもについての困りごと

問39 あなたのお子さんのことで、なにかお困りごとはありますか。(○印は1つ)

子どものことで困っていることの有無については、「ある」が51.6%、「ない」が45.1%で、約半数の人が子どもについての困りごとを抱えている。

子どもの状況別にみると、未就学児や小学生、中学生のいる家庭で「ある」が6割台と高校生以上の子どもがいる家庭に比べて多くなっている。

図表Ⅲ-1-158 子どもについての困りごとの有無



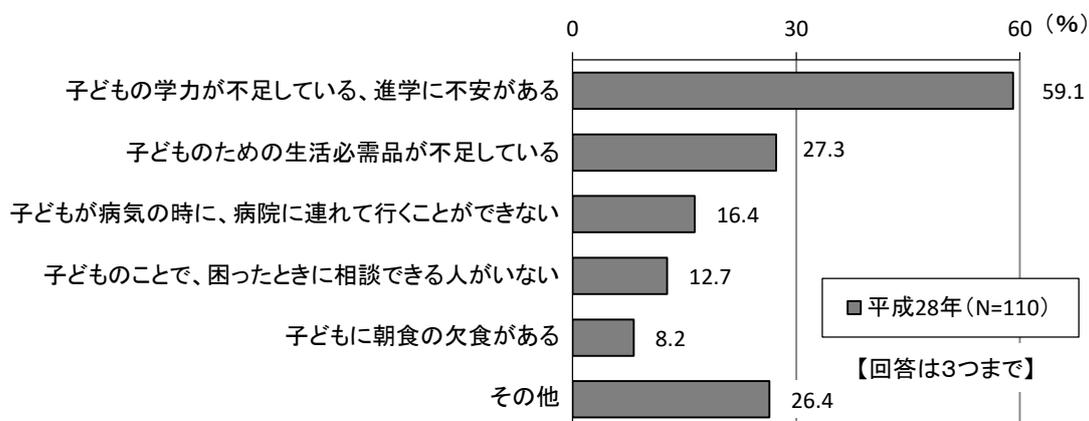
図表Ⅲ-1-159 子どもについての困りごとの有無

		(%)			
		標本数	ある	ない	無回答
全体		213 100.0	110 51.6	96 45.1	7 3.3
子どもの状況別	通園していない乳児・幼児	-	-	-	-
	認可保育所・園に通園	9	66.7	22.2	11.1
	認可外保育施設に通園	-	-	-	-
	幼稚園に通園	1	-	100.0	-
	小学生	50	62.0	36.0	2.0
	中学生	63	68.3	28.6	3.2
	高校生	106	50.0	48.1	1.9
	短大生・大学生	24	37.5	58.3	4.2
	その他の学生	11	36.4	63.6	-
	仕事をしている子ども	16	31.3	62.5	6.3
無職の子ども	4	50.0	50.0	-	
その他	2	50.0	50.0	-	
無回答	-	-	-	-	
参考	父子家庭	86	61.6	32.6	5.8

問 39-1 (あると答えた方へ) それは、どのようなお困りごとですか。(〇印は3つまで)

困っていることの内容としては、「子どもの学力が不足している、進学に不安がある」が 59.1%で最も高く、次いで「子どものための生活必需品が不足している」が 27.3%、「子どもが病気の時に、病院に連れて行くことができない」が 16.4%で続いている。また、「その他」が 26.4%あり、具体的には、子どもの進学など教育費や生活費などの経済的な問題や自分の健康への不安、不登校など子どものことなどがあげられており、悩みの内容が多岐にわたっている。

図表Ⅲ-1-160 子どもの困りごと [複数回答]



図表Ⅲ-1-161 子どもの困りごと [複数回答]

		標本数	子どもが不足している生活必需品	子どもの進学の不安	病院内に連れて行く時に、	子どもに朝食の欠食がある	子どもに相談できない	その他	無回答
全体		110 100.0	30 27.3	65 59.1	18 16.4	9 8.2	14 12.7	29 26.4	1 0.9
子どもの状況別	通園していない乳児・幼児	-	-	-	-	-	-	-	-
	認可保育所・園に通園	6	16.7	50.0	33.3	16.7	16.7	-	-
	認可外保育施設に通園	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼稚園に通園	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学生	31	35.5	71.0	25.8	12.9	16.1	19.4	-
	中学生	43	20.9	79.1	14.0	11.6	11.6	20.9	-
	高校生	53	26.4	60.4	9.4	7.5	11.3	30.2	1.9
	短大生・大学生	9	22.2	44.4	-	-	-	44.4	-
	その他の学生	4	-	50.0	-	-	-	50.0	-
	仕事をしている子ども	5	60.0	80.0	20.0	40.0	40.0	-	-
無職の子ども	2	-	-	-	-	-	100.0	-	
その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
参考	父子家庭	53	22.6	58.5	17.0	13.2	20.8	18.9	-

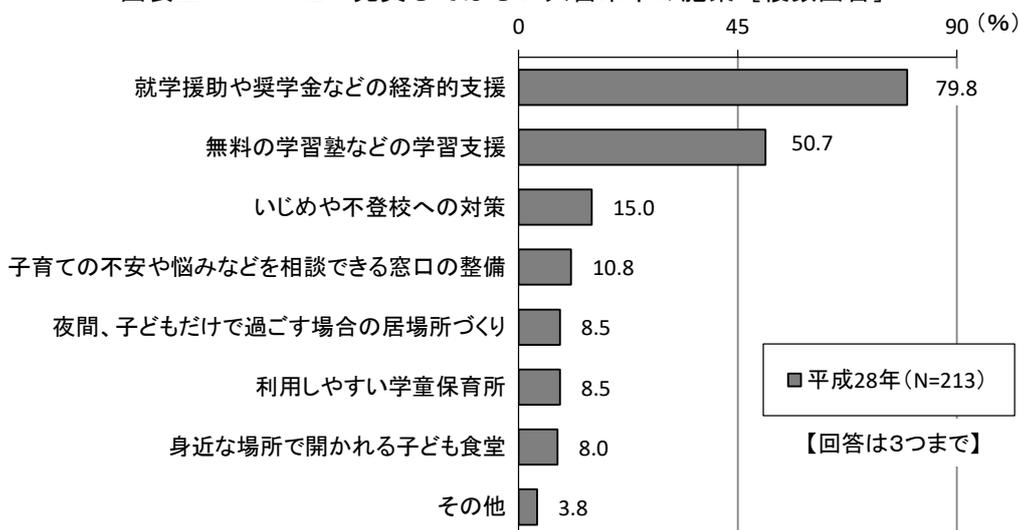
(2) 充実してほしい久留米市の施策

問 39-2 (全員の方へ) あなたのお子さんのために、充実してほしいと思う市の施策を選んでください。(〇印は3つまで)

子どものために充実してほしい市の施策では、「就学援助や奨学金などの経済的支援」が79.8%で最も高い。次いで「無料の学習塾などの学習支援」が50.7%と5割を超えて高くなっている。以下、「いじめや不登校への対策」が15.0%、「子育ての不安や悩みなどを相談できる窓口の整備」が10.8%が続いている。

子どもの状況別にみると、小学生の子どものいる家庭では、「利用しやすい学童保育」や「身近な場所で開かれる子ども食堂」、「夜間、子どもだけで過ごす場合の居場所づくり」が他の子どものいる家庭に比べて高く、中学生の子どものいる家庭では「いじめや不登校への対策」が高くなっている。

図表Ⅲ-1-162 充実してほしい久留米市の施策 [複数回答]



図表Ⅲ-1-163 充実してほしい久留米市の施策 [複数回答]

状況別	標本数	施策 (%)								
		就学援助や奨学金	無料の学習塾などの学習支援	身近な子ども食堂	夜間、子どもだけで過ごす場合の居場所づくり	いじめや不登校への対策	利用しやすい学童保育所	子育ての不安や悩みなどを相談できる窓口の整備	その他	無回答
全体	213 100.0	170 79.8	108 50.7	17 8.0	18 8.5	32 15.0	18 8.5	23 10.8	8 3.8	11 5.2
子どもの状況別	通園していない乳児・幼児	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	認可保育所・園に通園	9	66.7	88.9	-	22.2	11.1	44.4	22.2	-
	認可外保育施設に通園	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼稚園に通園	1	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	-
	小学生	50	80.0	72.0	18.0	16.0	14.0	20.0	14.0	4.0
	中学生	63	74.6	66.7	11.1	4.8	20.6	3.2	9.5	3.2
	高校生	106	82.1	51.9	8.5	4.7	14.2	4.7	14.2	3.8
	短大生・大学生	24	87.5	29.2	8.3	-	8.3	8.3	12.5	-
	その他の学生	11	81.8	18.2	-	18.2	18.2	9.1	-	-
	仕事をしている子ども	16	87.5	37.5	6.3	-	12.5	-	6.3	6.3
無職の子ども	4	100.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-	
その他	2	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
参考	父子家庭	86	67.4	43.0	15.1	10.5	14.0	3.5	18.6	2.3

11. 公的機関や制度の周知と利用及び要望事項

(1) 公的機関や制度の周知と利用状況

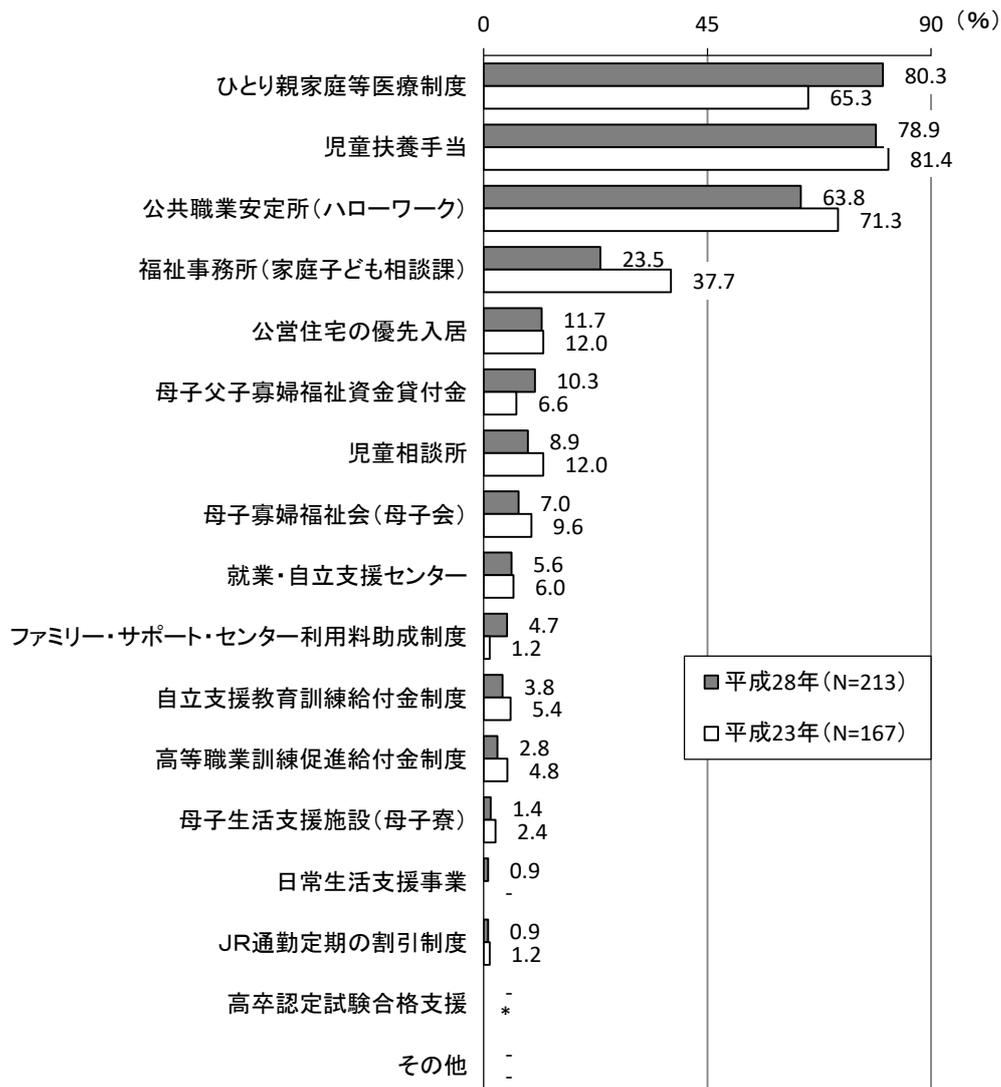
問 40 あなたは、次のような公的機関や制度を利用したことがありますか。次にあげる公的機関や制度についてそれぞれあてはまるものを1つずつ選んでください。

(ア) 「利用したことがある」公的機関や制度

利用したことがある公的機関や制度としては、「ひとり親家庭等医療制度」(80.3%)、「児童扶養手当」(78.9%)、「公共職業安定所(ハローワーク)」(63.8%)が特に高く、これに「福祉事務所(家庭子ども相談課)」(23.5%)、「公営住宅の優先入居」(11.7%)、「母子父子寡婦福祉資金貸付金」(10.3%)などが続いている。

前回調査と比べると、「ひとり親家庭等医療制度」の利用経験率が増加している、一方、「公共職業安定所(ハローワーク)」「福祉事務所(家庭子ども相談課)」が減少している。

図表Ⅲ-1-164 「利用したことがある」公的機関や制度〔複数回答〕



*は平成23年にはない項目

図表Ⅲ-1-165 「利用したことがある」公的機関や制度〔複数回答〕

(%)

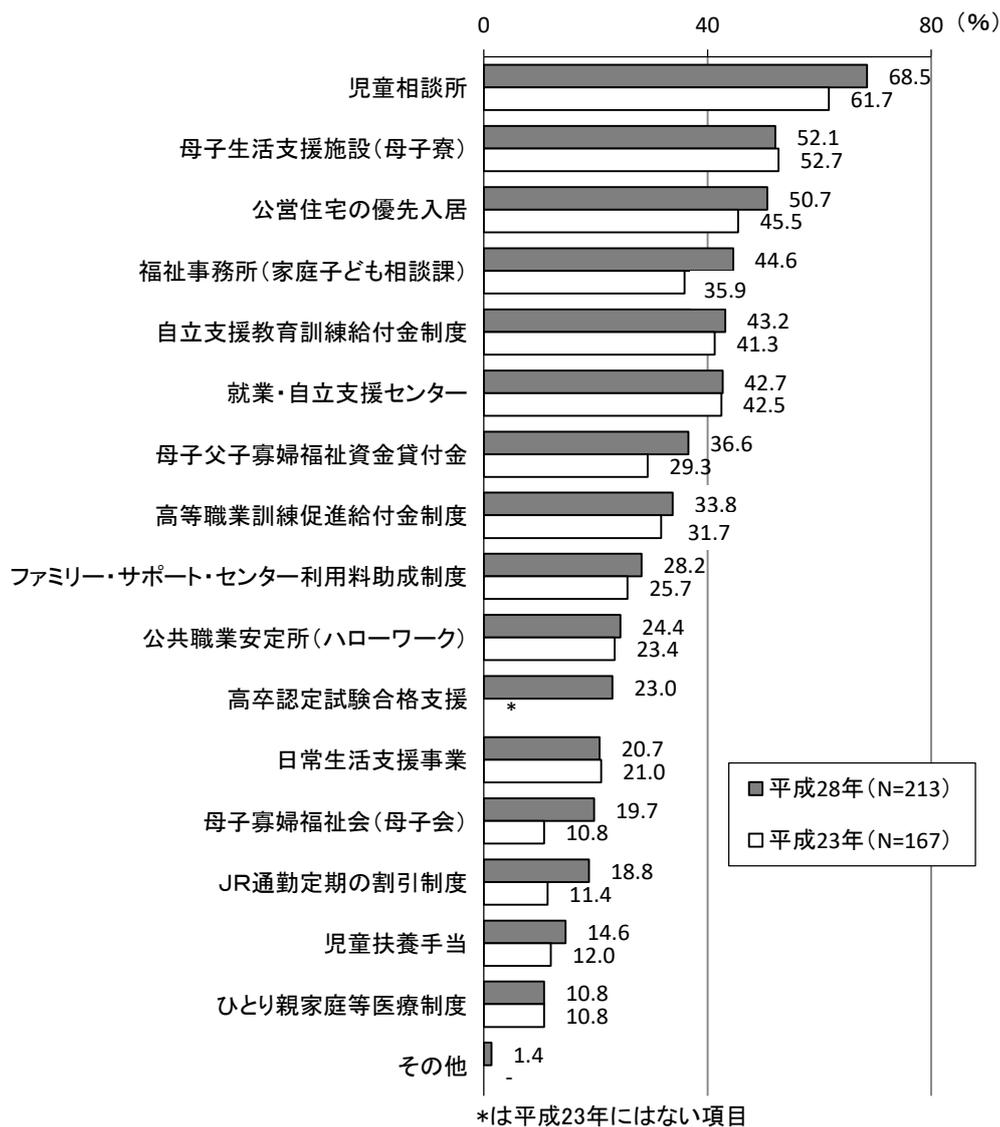
	標本数	福祉事務所 (家庭子ども相談課)	母子寡婦福祉会(母子会)	児童相談所	公共職業安定所 (ハローワーク)	母子生活支援施設 (母子寮)	母子父子寡婦福祉資金貸付金	ひとり親家庭等医療制度	公営住宅の優先入居	自立支援教育訓練給付金制度	高等職業訓練促進給付金制度	高卒認定試験合格支援	日常生活支援事業	就業・自立支援センター	ファミリー・サポート・センター利用料助成制度	児童扶養手当	JR通勤定期の割引制度	その他	
全体	213 100.0	50 23.5	15 7.0	19 8.9	136 63.8	3 1.4	22 10.3	171 80.3	25 11.7	8 3.8	6 2.8	-	2 0.9	12 5.6	10 4.7	168 78.9	2 0.9	-	
時系列	平成23年	167	37.7	9.6	12.0	71.3	2.4	6.6	65.3	12.0	5.4	4.8	…	-	6.0	1.2	81.4	1.2	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	11.1	-	11.1	77.8	-	77.8	11.1	-	11.1	-	-	11.1	11.1	100.0	-	-	-
	35～39歳	21	23.8	4.8	4.8	71.4	-	90.5	19.0	-	-	-	-	-	9.5	90.5	-	-	-
	40～44歳	47	27.7	8.5	4.3	76.6	-	83.0	17.0	6.4	6.4	-	2.1	8.5	2.1	83.0	-	-	-
	45～49歳	86	23.3	5.8	10.5	55.8	1.2	10.5	79.1	7.0	3.5	1.2	-	4.7	3.5	74.4	1.2	-	-
	50歳以上 無回答	48 2	20.8 50.0	10.4 -	10.4 50.0	60.4 50.0	2.1 50.0	10.4 -	75.0 100.0	10.4 50.0	4.2 -	2.1 -	-	-	4.2 50.0	6.3 -	75.0 50.0	2.1 -	-
参考	県(三市を除く)	1,512	16.1	3.4	6.7	58.9	1.2	3.6	43.8	8.6	4.6	4.4	0.3	0.6	8.6	…	86.3	…	0.1
	北九州市	1,291	68.2	2.1	7.9	57.5	3.6	6.2	68.5	13.9	2.6	…	0.4	1.1	…	…	79.2	…	0.2
	福岡市	1,141	33.3	…	8.1	53.9	2.6	8.6	69.8	18.1	1.8	2.3	0.1	1.0	…	…	83.5	…	0.3
	父子家庭	86	9.3	3.5	7.0	30.2	…	2.3	37.2	-	-	-	1.2	-	2.3	-	58.1	-	-

(イ)「知っているが、利用したことがない」公的機関や制度

知っているが、利用したことがない公的機関や制度としては、「児童相談所」(68.5%)、「母子生活支援施設(母子寮)」(52.1%)、「公営住宅の優先入居」(50.7%)、「福祉事務所(家庭子ども相談課)」(44.6%)、「自立支援教育訓練給付金制度」(43.2%)、「就業・自立支援センター」(42.7%)などが高くなっている。

前回調査と比べても上位項目には大きな変化はみられない。

図表Ⅲ-1-166 「知っているが、利用したことがない」公的機関や制度 [複数回答]



図表Ⅲ-1-167 「知っているが、利用したことがない」公的機関や制度〔複数回答〕

(%)

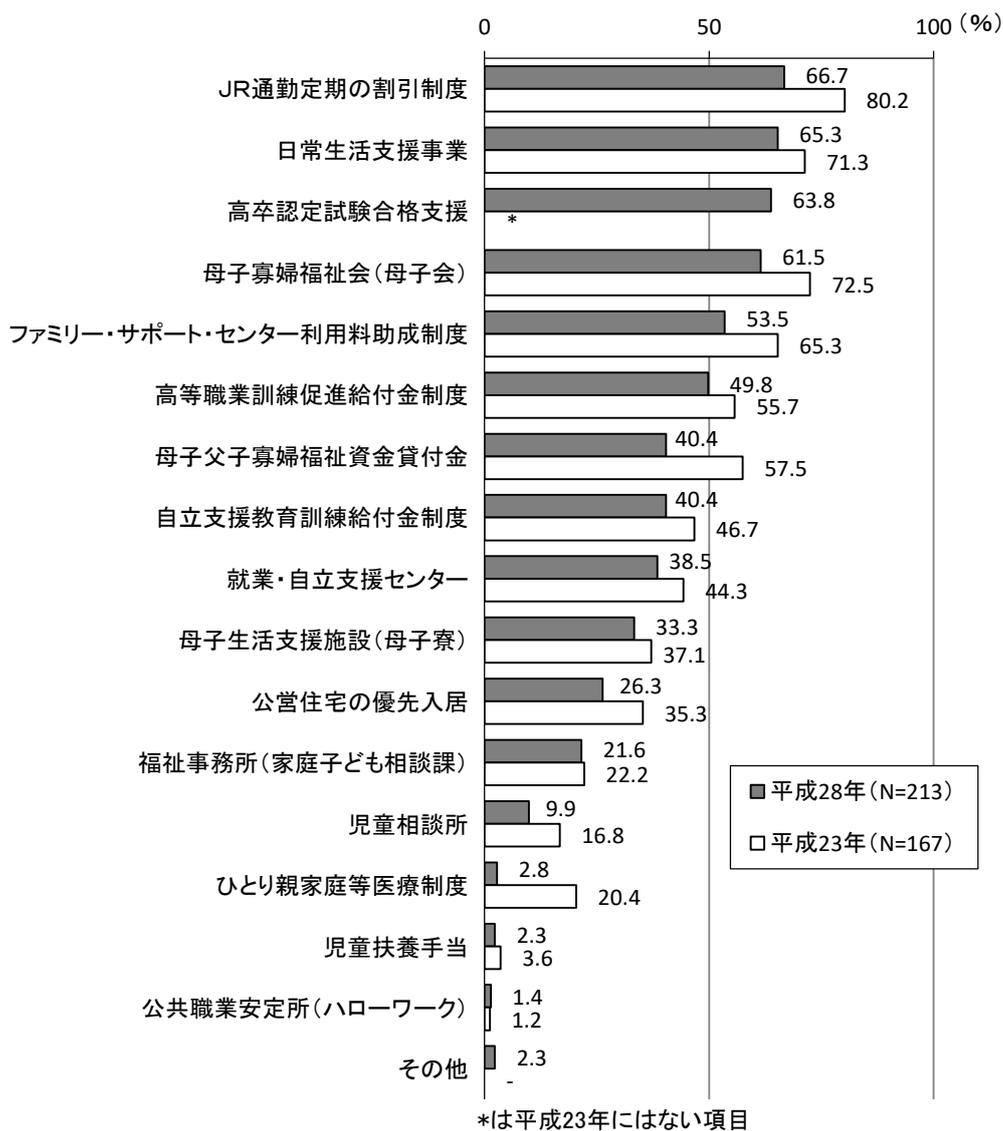
	標本数	福祉事務所 (家庭子ども相談課)	母子寡婦福祉会 (母子会)	児童相談所	公共職業安定所 (ハローワーク)	母子生活支援施設 (母子寮)	母子父子寡婦福祉 資金貸付金	ひとり親家庭等 医療制度	公営住宅の優先 入居	自立支援教育訓練 給付金制度	高等職業訓練促進 給付金制度	高卒認定試験合格 支援	日常生活支援事業	就業・自立支援セ ンター	ファミリィ・サポ ート・センター利用 料助成制度	児童扶養手当	JR通勤定期の割 引制度	その他	
全体	213 100.0	95 44.6	42 19.7	146 68.5	52 24.4	111 52.1	78 36.6	23 10.8	108 50.7	92 43.2	72 33.8	49 23.0	44 20.7	91 42.7	60 28.2	31 14.6	40 18.8	3 1.4	
時系列	平成23年	167	35.9	10.8	61.7	23.4	52.7	29.3	10.8	45.5	41.3	31.7	...	21.0	42.5	25.7	12.0	11.4	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30~34歳	9	44.4	-	66.7	11.1	44.4	22.2	11.1	44.4	44.4	22.2	44.4	11.1	55.6	22.2	-	11.1	-
	35~39歳	21	23.8	19.0	52.4	14.3	47.6	28.6	-	52.4	57.1	38.1	19.0	14.3	42.9	23.8	4.8	28.6	-
	40~44歳	47	44.7	25.5	74.5	12.8	51.1	40.4	4.3	51.1	36.2	34.0	23.4	19.1	46.8	38.3	8.5	17.0	-
	45~49歳	86	46.5	18.6	69.8	32.6	51.2	32.6	12.8	55.8	46.5	34.9	20.9	19.8	39.5	26.7	17.4	18.6	2.3
	50歳以上	48	50.0	18.8	68.8	27.1	58.3	45.8	18.8	41.7	35.4	31.3	22.9	25.0	41.7	20.8	20.8	14.6	2.1
	無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	-	
参考	県(三市を除く)	1,512	33.9	18.7	61.6	21.7	38.0	22.0	19.0	39.7	35.3	28.8	18.7	13.4	44.0	...	6.3	...	1.9
	北九州市	1,291	16.1	18.7	40.0	23.5	55.1	33.8	12.0	50.8	22.3	...	15.4	24.3	11.8	...	2.6
	福岡市	1,141	35.2	...	49.7	28.7	46.1	34.3	13.2	61.7	34.4	24.5	17.1	20.8	10.5	...	2.6
	父子家庭	86	32.6	12.8	65.1	51.2	...	14.0	11.6	29.1	17.4	19.8	17.4	11.6	19.8	14.0	19.8	15.1	-

(ウ) 「知らない」 公的機関や制度

知らなかった公的機関や制度としては、「JR通勤定期の割引制度」(66.7%)、「日常生活支援事業」(65.3%)、「高卒認定試験合格支援」(63.8%)、「母子寡婦福祉会(母子会)」(61.5%)、「ファミリー・サポート・センター利用料助成制度」(53.5%)、「高等職業訓練促進給付金制度」(49.8%)などが高くなっている。

前回調査と比べると、上位の項目には大きな変化はみられないが、それぞれの回答率はいずれも減少しており、制度の認知度が向上していることがうかがえる。

図表Ⅲ－１－168 「知らない」 公的機関や制度 [複数回答]



図表Ⅲ－1－169 「知らない」公的機関や制度〔複数回答〕

(%)

	標本数	福祉事務所 (家庭子ども相談課)	母子寡婦福祉会(母子会)	児童相談所	公共職業安定所 (ハローワーク)	母子生活支援施設(母子寮)	母子父子寡婦福祉資金貸付金	ひとり親家庭等医療制度	公営住宅の優先入居	自立支援教育訓練給付金制度	高等職業訓練促進給付金制度	高卒認定試験合格支援	日常生活支援事業	就業・自立支援センター	ファミリー・サポート・センター利用料助成制度	児童扶養手当	JR通勤定期の割引制度	その他	
全体	213 100.0	46 21.6	131 61.5	21 9.9	3 1.4	71 33.3	86 40.4	6 2.8	56 26.3	86 40.4	106 49.8	136 63.8	139 65.3	82 38.5	114 53.5	5 2.3	142 66.7	5 2.3	
時系列	平成23年	167	22.2	72.5	16.8	1.2	37.1	57.5	20.4	35.3	46.7	55.7	...	71.3	44.3	65.3	3.6	80.2	-
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	33.3	88.9	-	-	22.2	55.6	-	33.3	33.3	44.4	33.3	77.8	11.1	55.6	-	66.7	-
	35～39歳	21	42.9	66.7	33.3	4.8	42.9	52.4	4.8	19.0	33.3	52.4	71.4	76.2	47.6	57.1	-	61.9	4.8
	40～44歳	47	14.9	51.1	6.4	2.1	36.2	34.0	4.3	21.3	42.6	44.7	61.7	63.8	31.9	42.6	4.3	66.0	4.3
	45～49歳	86	19.8	64.0	7.0	-	33.7	44.2	2.3	24.4	38.4	50.0	66.3	65.1	41.9	55.8	2.3	67.4	1.2
	50歳以上 無回答	48 2	20.8 -	60.4 50.0	10.4 -	2.1 -	29.2 -	31.3 50.0	2.1 -	37.5 -	47.9 -	54.2 50.0	64.6 50.0	62.5 -	41.7 -	60.4 -	2.1 -	70.8 -	2.1 -
参考	県(三市を除く)	1,512	31.2	57.7	12.4	4.3	41.0	53.8	19.8	32.3	40.3	47.6	60.5	65.5	27.9	...	1.2	...	6.9
	北九州市	1,291	3.3	60.2	32.9	3.4	22.0	40.6	6.9	17.6	55.6	...	64.8	55.2	2.2	...	9.7
	福岡市	1,141	16.4	...	23.5	3.4	33.7	39.2	7.5	4.1	46.1	55.5	64.5	59.9	1.2	...	10.2
	父子家庭	86	47.7	72.1	16.3	10.5	...	72.1	40.7	58.1	69.8	67.4	68.6	73.3	65.1	70.9	11.6	68.6	7.0

(2) 今後「利用したい」公的機関や制度

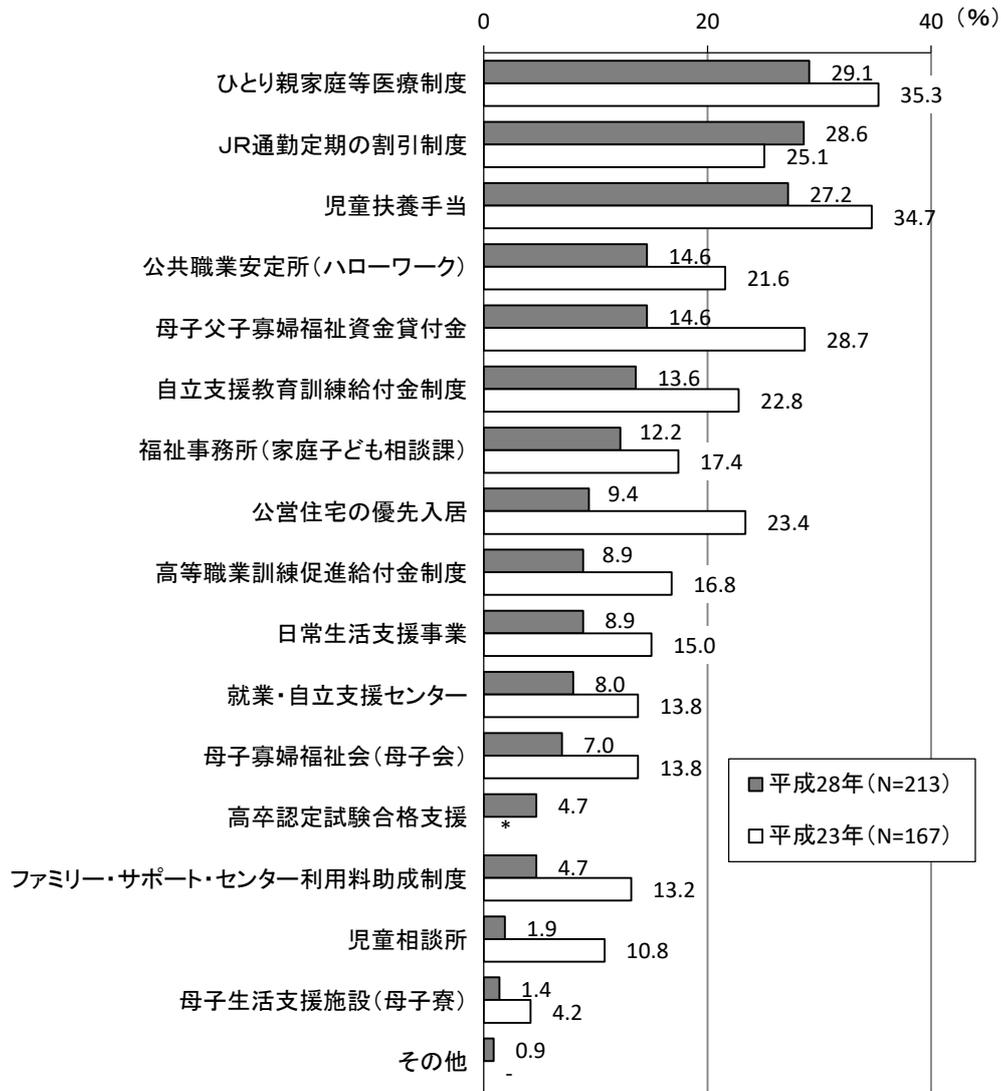
問 40 また、今後引き続き、あるいは新たに利用したいと思うものをすべて選んでください。

今後利用したい公的機関や制度では、「ひとり親家庭医療制度」(29.1%)、「JR通勤定期の割引制度」(28.6%)、「児童扶養手当」(27.2%)の3項目が高くなっている。これに「公共職業安定所(ハローワーク)」「母子父子寡婦福祉資金貸付金」(ともに14.6%)、「自立支援教育訓練給付金制度」(13.6%)、「福祉事務所(家庭子ども相談課)」(12.2%)が1割を超えて続いている。

前回調査の上位項目からは、「公営住宅の優先入居」がやや順位を下げている。

年齢別にみると、「ひとり親家庭医療制度」や「児童扶養手当」などは39歳までの若い年齢層で今後の利用意向が高くなっている。

図表Ⅲ-1-170 今後「利用したい」公的機関や制度〔複数回答〕



*は平成23年にはない項目

図表Ⅲ-1-171 今後「利用したい」公的機関や制度〔複数回答〕

(%)

		標本数	福祉事務所 (家庭子ども相談課)	母子寡婦福祉会 (母子会)	児童相談所	公共職業安定所 (ハローワーク)	母子生活支援施設 (母子寮)	母子父子寡婦福祉 資金貸付金	ひとり親家庭等医療 制度	公営住宅の優先入居	自立支援教育訓練給付 金制度	高等職業訓練促進給付 金制度	高卒認定試験合格支援	日常生活支援事業	就業・自立支援センタ ー	ファミリー・サポート・ センター利用・料助成制 度	児童扶養手当	JR通勤定期の割引制 度	その他	無回答
全体		213 100.0	26 12.2	15 7.0	4 1.9	31 14.6	3 1.4	31 14.6	62 29.1	20 9.4	29 13.6	19 8.9	10 4.7	19 8.9	17 8.0	10 4.7	58 27.2	61 28.6	2 0.9	99 46.5
時系列	平成23年	167	17.4	13.8	10.8	21.6	4.2	28.7	35.3	23.4	22.8	16.8	...	15.0	13.8	13.2	34.7	25.1	-	34.7
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	11.1	11.1	-	33.3	-	-	55.6	11.1	22.2	11.1	-	-	11.1	22.2	66.7	44.4	-	11.1
	35～39歳	21	23.8	14.3	9.5	19.0	4.8	19.0	52.4	4.8	9.5	14.3	-	9.5	14.3	4.8	52.4	28.6	-	38.1
	40～44歳	47	17.0	6.4	-	17.0	-	19.1	29.8	8.5	19.1	14.9	8.5	8.5	12.8	10.6	29.8	38.3	-	38.3
	45～49歳	86	9.3	5.8	1.2	10.5	1.2	15.1	23.3	10.5	14.0	5.8	3.5	9.3	4.7	1.2	19.8	23.3	1.2	54.7
	50歳以上	48	6.3	6.3	-	12.5	2.1	8.3	22.9	8.3	6.3	4.2	4.2	8.3	6.3	2.1	18.8	25.0	2.1	50.0
	無回答	2	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	50.0
状態計別の	十分やっつけていける	6	-	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-	16.7	16.7	-	-	16.7	-	16.7	-	-	83.3
	だいたいやっつけていける	46	10.9	2.2	2.2	10.9	-	6.5	30.4	10.9	6.5	8.7	-	-	2.2	2.2	28.3	26.1	2.2	47.8
	時々赤字になる	79	17.7	7.6	-	21.5	2.5	16.5	35.4	12.7	15.2	8.9	6.3	5.1	6.3	5.1	30.4	30.4	-	40.5
	とても足りない	82	8.5	8.5	3.7	9.8	1.2	18.3	23.2	6.1	15.9	8.5	6.1	18.3	12.2	6.1	24.4	30.5	1.2	48.8
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参考	県(三市を除く)	1,512	6.5	4.6	2.6	12.1	2.4	9.5	19.8	9.5	9.1	8.0	3.8	2.8	7.0	...	26.4	...	0.6	55.0
	北九州市	1,291	20.9	4.7	3.5	12.7	1.5	10.9	24.9	11.2	8.8	...	5.7	6.8	26.0	...	0.5	54.5
	福岡市	1,141	9.9	...	4.0	13.9	2.0	16.3	25.7	15.3	9.6	8.9	4.4	5.8	26.5	...	0.2	49.5
	父子家庭	86	12.8	9.3	9.3	9.3	...	18.6	41.9	14.0	14.0	11.6	10.5	22.1	10.5	12.8	31.4	23.3	1.2	38.4

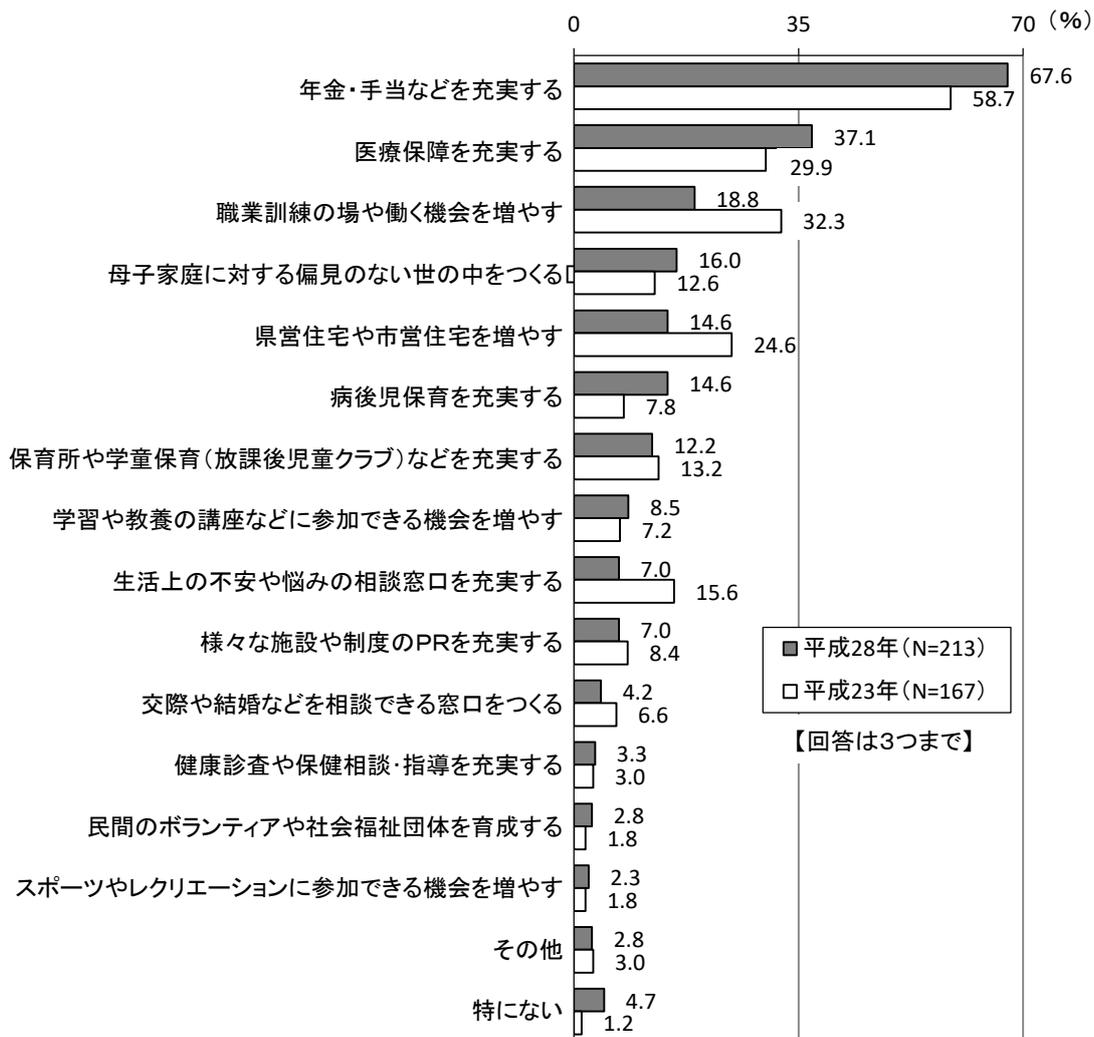
(3) 行政機関に対する要望

問 41 あなたは、母子家庭に関する国や県・市町村の施策で、特にどのようなことを望んでいますか。(〇印は3つまで)

母子家庭に対する国や県・市の施策で要望したいこととしては、「年金・手当などを充実する」が 67.6%で最も高く、「医療保障を充実する」が 37.1%、「職業訓練の場や働く機会を増やす」が 18.8%、「母子家庭に対する偏見のない世の中をつくる」が 16.0%、「県営住宅や市営住宅を増やす」「病後児保育を充実する」がともに 14.6%と続いている。

前回調査と比べると、上位項目では、「職業訓練や働く機会を増やす」「県営住宅や市営住宅を増やす」は回答率が減少している。一方「年金・手当などを充実する」「医療保障を充実する」は回答率がやや増加している。「母子家庭に対する偏見のない世の中をつくる」は、回答率が約4ポイント増加し、順位も7位から4位に上昇している。

図表Ⅲ－1－172 行政機関に対する要望 [複数回答]



図表Ⅲ-1-173 行政機関に対する要望〔複数回答〕

(%)

		標本数	く職業訓練の場や働く機会を増やす	宅営住宅や市営住宅を増やす	充年金・手当などを充実する	る談健康診査や保健指導を充実する	る医療保障を充実する	実童保育所や放課後児童クラブなどを充実する	す病後児保育を充実する	実みの生活の不安や悩みを軽減する	機など学習や教養の講座などに参加できるようにする
全体		213 100.0	40 18.8	31 14.6	144 67.6	7 3.3	79 37.1	26 12.2	31 14.6	15 7.0	18 8.5
時系列	平成23年	167	32.3	24.6	58.7	3.0	29.9	13.2	7.8	15.6	7.2
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	33.3	22.2	66.7	-	11.1	33.3	22.2	-	-
	35～39歳	21	19.0	9.5	61.9	-	23.8	19.0	14.3	4.8	9.5
	40～44歳	47	17.0	19.1	72.3	2.1	34.0	10.6	21.3	10.6	10.6
	45～49歳	86	19.8	12.8	62.8	5.8	36.0	12.8	11.6	7.0	10.5
	50歳以上	48	16.7	14.6	75.0	2.1	52.1	6.3	12.5	6.3	4.2
	無回答	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-
有仕事無事別の	持っている	191	19.4	13.6	67.5	3.7	38.2	13.1	14.1	5.8	9.4
	持っていない	21	14.3	23.8	71.4	-	28.6	4.8	19.0	14.3	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
参考	県(三市を除く)	1,512	24.7	27.4	62.4	3.7	28.9	13.5	12.0	6.7	4.8
	北九州市	1,291	24.2	23.5	58.7	4.8	31.8	15.2	13.3	7.4	4.3
	福岡市	1,141	25.2	27.1	58.4	6.4	27.3	15.8	10.3	9.7	5.3
	父子家庭	86	8.1	12.8	59.3	2.3	29.1	4.7	7.0	12.8	2.3
		標本数	きエールポーターの機会を増やす	る談交際できる結婚の機会を増やす	P様々Rをな充実施する	成や社間福社団体の育	く見の子家庭にの対する	その他	特にない	無回答	
全体		213 100.0	5 2.3	9 4.2	15 7.0	6 2.8	34 16.0	6 2.8	10 4.7	6 2.8	
時系列	平成23年	167	1.8	6.6	8.4	1.8	12.6	3.0	1.2	5.4	
年齢別	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～34歳	9	11.1	33.3	-	-	11.1	-	-	-	-
	35～39歳	21	4.8	-	14.3	-	19.0	-	14.3	-	-
	40～44歳	47	2.1	6.4	8.5	4.3	14.9	4.3	2.1	2.1	
	45～49歳	86	2.3	2.3	5.8	1.2	16.3	2.3	5.8	3.5	
	50歳以上	48	-	2.1	6.3	6.3	12.5	4.2	2.1	4.2	
	無回答	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	
有仕事無事別の	持っている	191	2.6	3.7	6.8	3.1	15.2	2.6	4.7	3.1	
	持っていない	21	-	4.8	4.8	-	23.8	4.8	4.8	-	
	無回答	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	
参考	県(三市を除く)	1,512	1.6	2.6	3.2	0.7	15.4	4.0	4.8	4.4	
	北九州市	1,291	1.5	3.7	2.9	0.9	12.4	4.2	7.2	4.9	
	福岡市	1,141	2.1	2.6	3.8	0.5	14.1	4.7	6.0	5.3	
	父子家庭	86	3.5	19.8	1.2	1.2	4.7	2.3	5.8	10.5	

